

2025年度における環境調査の結果等について
【愛知県】

2026年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1-1
1-1 本書の概要	1-1-1
1-2 事業の実施状況	1-2-1
2 事後調査	2-1-1
2-1 動物	2-1-1
2-1-1 希少猛禽類の生息状況	2-1-1
3 モニタリング	3-1-1
3-1 大気質	3-1-1
3-1-1 調査項目	3-1-1
3-1-2 調査方法	3-1-1
3-1-3 調査地点	3-1-1
3-1-4 調査期間	3-1-4
3-1-5 調査結果	3-1-4
3-2 水質	3-2-1
3-2-1 調査項目	3-2-1
3-2-2 調査方法	3-2-1
3-2-3 調査地点	3-2-2
3-2-4 調査期間	3-2-5
3-2-5 調査結果	3-2-5
3-3 地下水	3-3-1
3-3-1 調査項目	3-3-1
3-3-2 調査方法	3-3-1
3-3-3 調査地点	3-3-1
3-3-4 調査期間	3-3-4
3-3-5 調査結果	3-3-5
3-4 水資源（非常口（都市部）、地下駅及び山岳トンネル）	3-4-1
3-4-1 調査項目	3-4-1
3-4-2 調査方法	3-4-1
3-4-3 調査地点	3-4-2

3-4-4 調査期間	3-4-6
3-4-5 調査結果	3-4-6
3-5 地盤沈下	3-5-1
3-5-1 非常口（都市部）及び地下駅周辺のモニタリング	3-5-1
3-5-1-1 調査項目	3-5-1
3-5-1-2 調査方法	3-5-1
3-5-1-3 調査地点	3-5-1
3-5-1-4 調査期間	3-5-6
3-5-1-5 調査結果	3-5-8
3-5-2 亜炭採掘跡付近のモニタリング	3-5-11
3-5-2-1 調査項目	3-5-11
3-5-2-2 調査方法	3-5-11
3-5-2-3 調査範囲	3-5-11
3-5-2-4 調査期間	3-5-14
3-5-2-5 調査結果	3-5-16
3-6 土壌汚染	3-6-1
3-6-1 調査項目	3-6-1
3-6-2 調査方法	3-6-1
3-6-3 調査地点	3-6-1
3-6-4 調査期間	3-6-4
3-6-5 調査結果	3-6-4
3-7 生態系（湿地に生育する注目種）	3-7-1
3-7-1 調査項目	3-7-1
3-7-2 調査方法	3-7-1
3-7-3 調査地点	3-7-1
3-7-4 調査期間	3-7-3
3-7-5 調査結果	3-7-4
4 環境保全措置の実施状況	4-1-1
4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置	4-1-1
4-1-1 第一中京圏トンネル（西尾工区）	4-1-1
4-1-2 第一中京圏トンネル（坂下西工区）	4-1-7
4-1-3 第一中京圏トンネル（名城工区）	4-1-13
4-1-4 名城変電所	4-1-19
4-1-5 名古屋駅	4-1-22

5	工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	5-1-1
5-1	廃棄物等	5-1-1
5-1-1	集計項目	5-1-1
5-1-2	集計方法	5-1-1
5-1-3	集計対象箇所	5-1-1
5-1-4	集計期間	5-1-1
5-1-5	集計結果	5-1-1
5-2	温室効果ガス	5-2-1
5-2-1	集計項目	5-2-1
5-2-2	集計方法	5-2-1
5-2-3	集計対象箇所	5-2-1
5-2-4	集計期間	5-2-1
5-2-5	集計結果	5-2-1
6	業務の委託先	6-1-1
参考資料1	事業の実施状況	参1-1
1-1	トンネルの施工状況	参1-1
1-2	トンネル湧水等の状況	参1-2
1-3	建設発生土の主な搬出先と土量	参1-3
参考資料2	騒音・振動の簡易計測	参2-1
参考資料3	2025年度のモニタリング実施状況	参3-1
参考資料4	本報告に係る専門家等の技術的助言	参4-1
参考資料5	安全・安心の取組み	参5-1
参考資料6	過年度の記載誤りに関する修正について（愛知県）	参6-1
非公開版		（別冊）

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【愛知県】平成26年8月（以下、「評価書【愛知県】」という。）」、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【愛知県】平成26年8月」に基づく事後調査計画書（平成26年11月）」及び「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【愛知県】平成26年8月」に基づく事後調査計画書（工事中）（名古屋市）（平成26年11月）」に基づいて、2025年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

2025年度における、愛知県内の事業の実施状況は以下のとおりである。

工事の実施状況を表1-2-1、工事の実施箇所を図1-2-1に示す。

建設発生土については、愛知県珪砂鉱業協同組合が実施している鉱山採掘跡地整理事業、愛知県が実施している公共事業等に活用した。

表 1-2-1 2025 年度の工事の実施状況

実施箇所	実施状況
第一中京圏トンネル (西尾工区)	・本線トンネル等の掘削工（品川方、名古屋方）を実施した。 ・2025年9月に品川方本線トンネルが工区境まで到達した。
坂下非常口	・立坑が完成。（2020年度） [第一中京圏トンネル（坂下西工区）発進立坑]
第一中京圏トンネル (坂下西工区)	・坂下非常口の立坑から調査掘進（名古屋方）が完了。（2024年度） ・2025年6月に本格的な掘進を開始した。
神領非常口	・立坑が完成。（2022年度） ・シールド機の到達準備及び工事施工ヤード整備を実施した。
勝川非常口	・立坑が完成。（2024年度） [第一中京圏トンネル（坂下西工区）到達立坑] [第一中京圏トンネル（名城工区）到達立坑]
第一中京圏トンネル (名城工区)	・2025年4月に名城非常口の立坑から調査掘進（品川方）が完了した。 ・2026年1月に本格的な掘進（品川方）を開始した。
名城非常口	・立坑が完成。（2022年度） [第一中京圏トンネル（名城工区）発進立坑]
名城変電所	・地上躯体、電気洞道（トンネル）が完成。（2022年度） ・電気設備工を実施した。
名古屋駅	(東工区) ・2025年10月に地中連続壁工が完了し、準備工（工事施工ヤード整備、既設地下構造物の撤去等）を実施した。 (東山線工区) ・準備工（工事施工ヤード整備、既存施設の移転等）、立坑土留工、路面覆工を実施した。 (中央東工区) ・2025年4月に地中連続壁工が完了し、本体柱工に向けた準備工（地盤改良、盤下げ掘削等）を実施した。 (中央西工区) ・路面覆工、受替工、本体柱工に向けた準備工（盤下げ掘削等）を実施した。 (西工区) ・2025年4月に地中連続壁工が完了し、準備工（既設埋設物の撤去等）、路面覆工を実施した。

・各トンネル等の施工状況は、参考資料1に記載している。

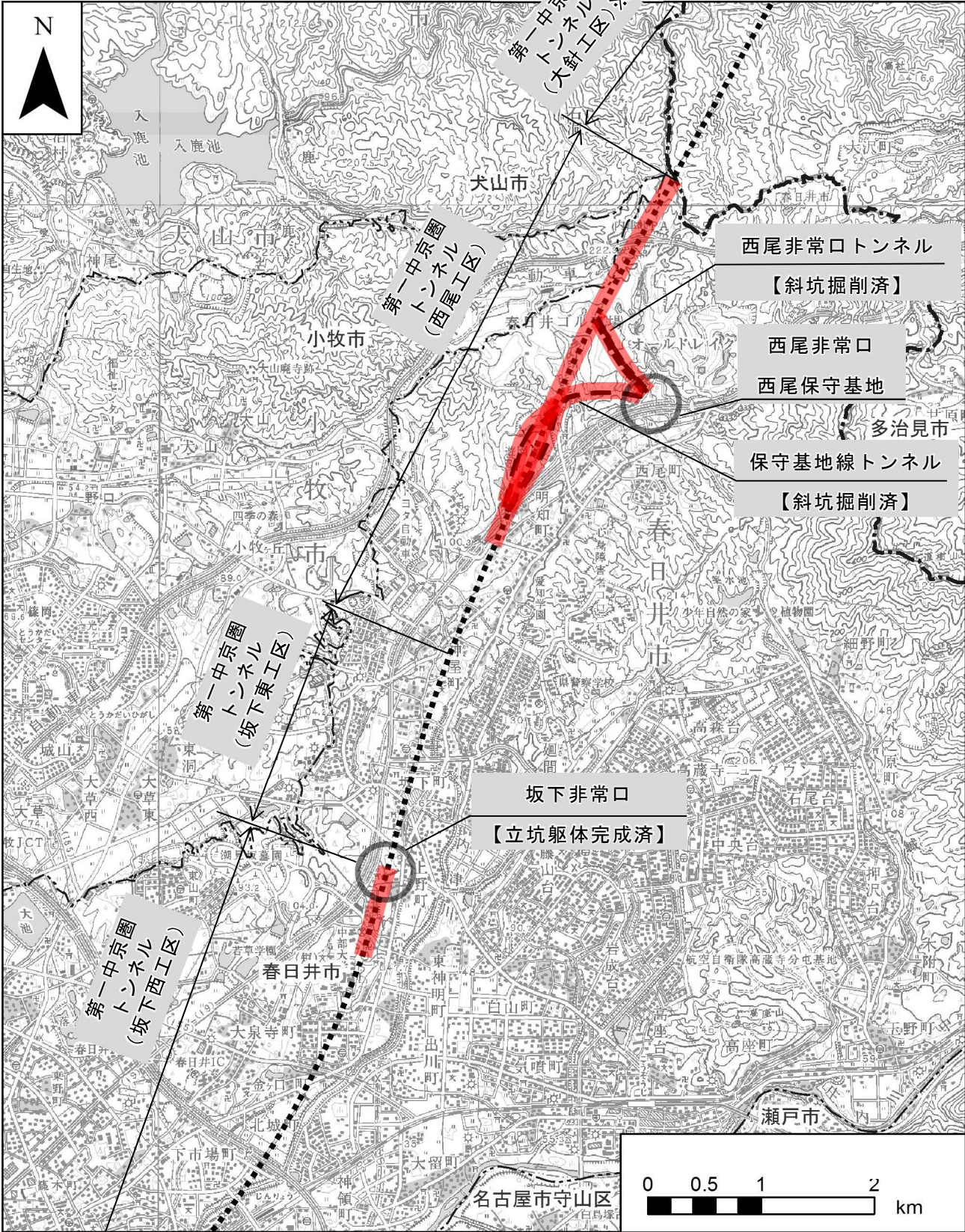


図 1-2-1 (1) 工事の実施箇所



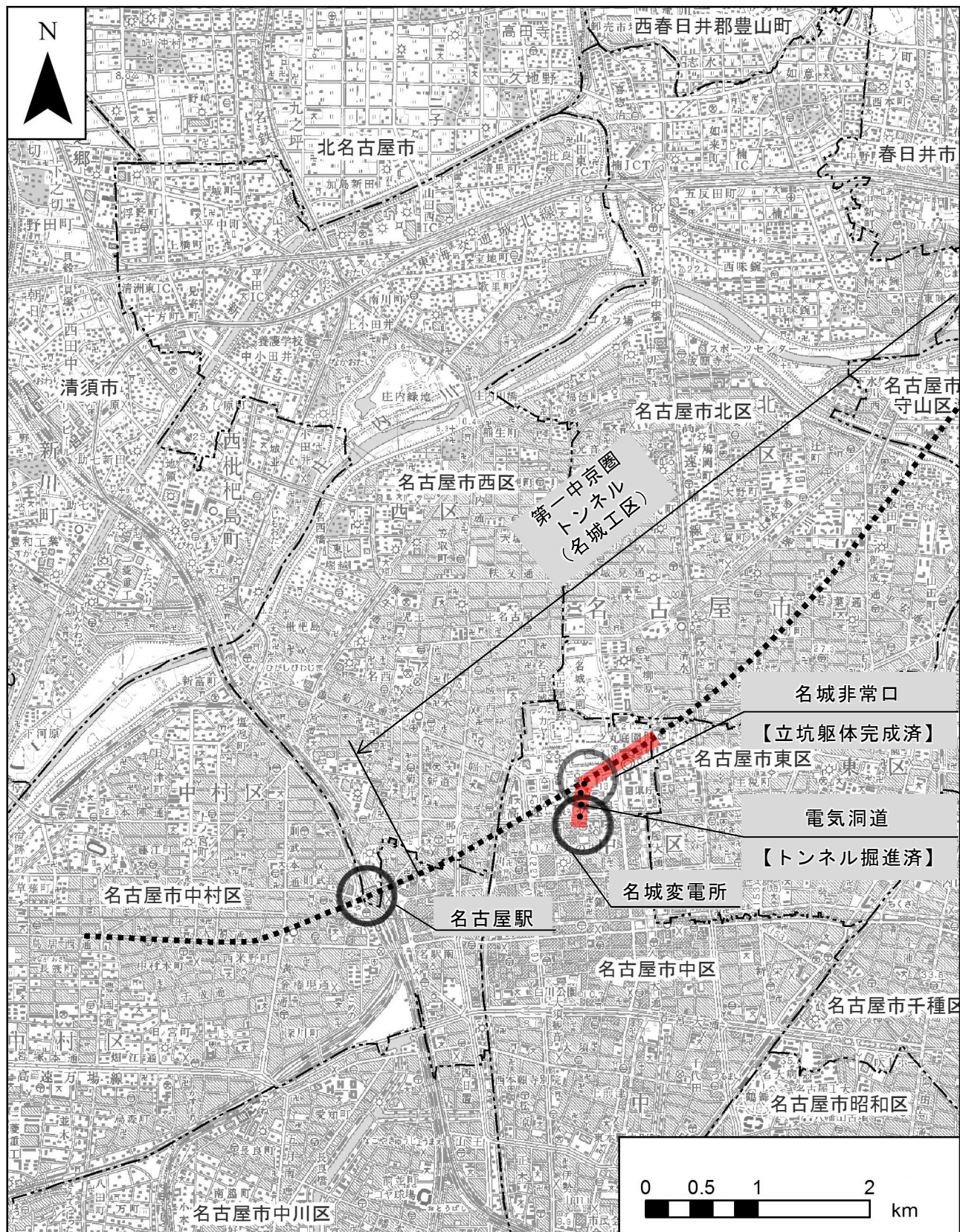
凡例

..... 計画路線（トンネル部）

--- 市区町村境

文字 工事の実施箇所

図 1-2-1 (2) 工事の実施箇所



凡例

- 計画路線（トンネル部）
- 電気洞道（トンネル）
- （トンネル部）掘進済み範囲

--- 市区町村境

文字 工事の実施箇所

図 1-2-1 (3) 工事の実施箇所

2 事後調査

2025 年度は、動物について事後調査を実施した。なお、希少種の保護の観点から生息・生育箇所の特定に繋がるような調査結果等の一部の資料については非公開とした。

2-1 動物

2-1-1 希少猛禽類の生息状況

事後調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、工事中における事後調査を実施した。なお、2025 年度に完了した繁殖期の調査結果を記載した。

(1) 調査項目

オオタカ（西尾ペア）の生息状況とした。

(2) 調査方法

調査方法は、表 2-1-1 に示すとおりである。

表 2-1-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事中の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において 8～10 倍程度の双眼鏡及び 20～60 倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認する。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索する。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録する。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査する。巣の見える位置から 8～10 倍程度の双眼鏡及び 20～60 倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察する。

(3) 調査地点

現地調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように工事施工ヤードなど事業地周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

(4) 調査期間

調査期間は、表 2-1-2 に示すとおりである。

表 2-1-2 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	調査期間	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査	繁殖期	2025年2月19日～2025年2月21日 2025年3月17日～2025年3月19日 2025年4月15日～2025年4月17日 2025年5月20日、21日 2025年6月18日～2025年6月20日 2025年7月23日～2025年7月25日

(5) 調査結果

調査結果は、表 2-1-3 に示すとおりである。

表 2-1-3 希少猛禽類の確認状況（2025 年 2 月～2025 年 7 月）

ペア名	確認状況
オオタカ（西尾ペア）	2025 年も、2023 年、2024 年と同様に定点観察における調査地点を増やした状態で調査を継続した。結果としては、飛翔等は確認したが、調査範囲内において繁殖は確認されなかった。

3 モニタリング

2025 年度は、大気質、水質、地下水、水資源（非常口（都市部）、地下駅及び山岳トンネル）、地盤沈下、土壌汚染及び生態系について、モニタリングを実施した。

3-1 大気質

資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係る大気質について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-1-1 調査項目

調査項目は、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び粉じん等とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目	調査方法	測定高さ
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和 53 年 7 月 11 日、環境庁告示第 38 号）に定める測定方法	地上 1.5m
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和 48 年 5 月 8 日、環境庁告示第 25 号）に定める測定方法	地上 3.0m
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解 2020」（2020 年 3 月、日本薬学会編）に基づくダストジャー法	地上 1.5m

3-1-3 調査地点

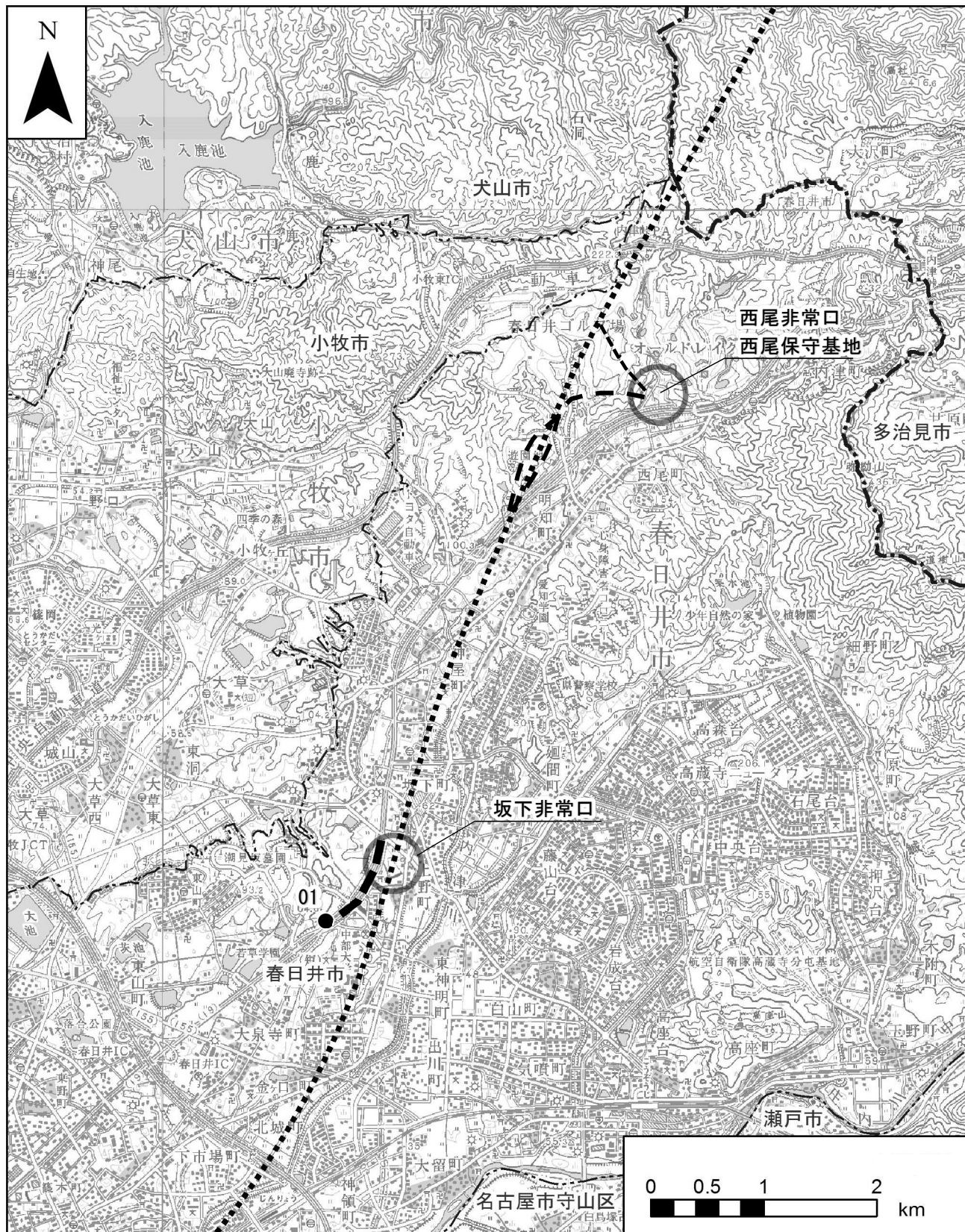
調査地点は、表 3-1-3-1 及び図 3-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

調査項目	地点番号	市区名	所在地	実施箇所
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	01	春日井市	大泉寺町 国道 19 号	坂下非常口

※地点番号は評価書【愛知県】に記載している地点番号と同じである。

なお、地点番号 01 は、工事計画の深度化により、評価書【愛知県】時の調査地点から変更した。



凡例

- | | | |
|--------------------|-------------|--------|
| 計画路線 (トンネル部) | --- 県境 | ● 調査地点 |
| ----- 非常口トンネル (斜坑) | ----- 市区町村境 | |
| --- 保守基地線トンネル | | |
| ■ 工事用車両運行ルート | | |

図 3-1-3-1 (1) 調査地点 (大気質)

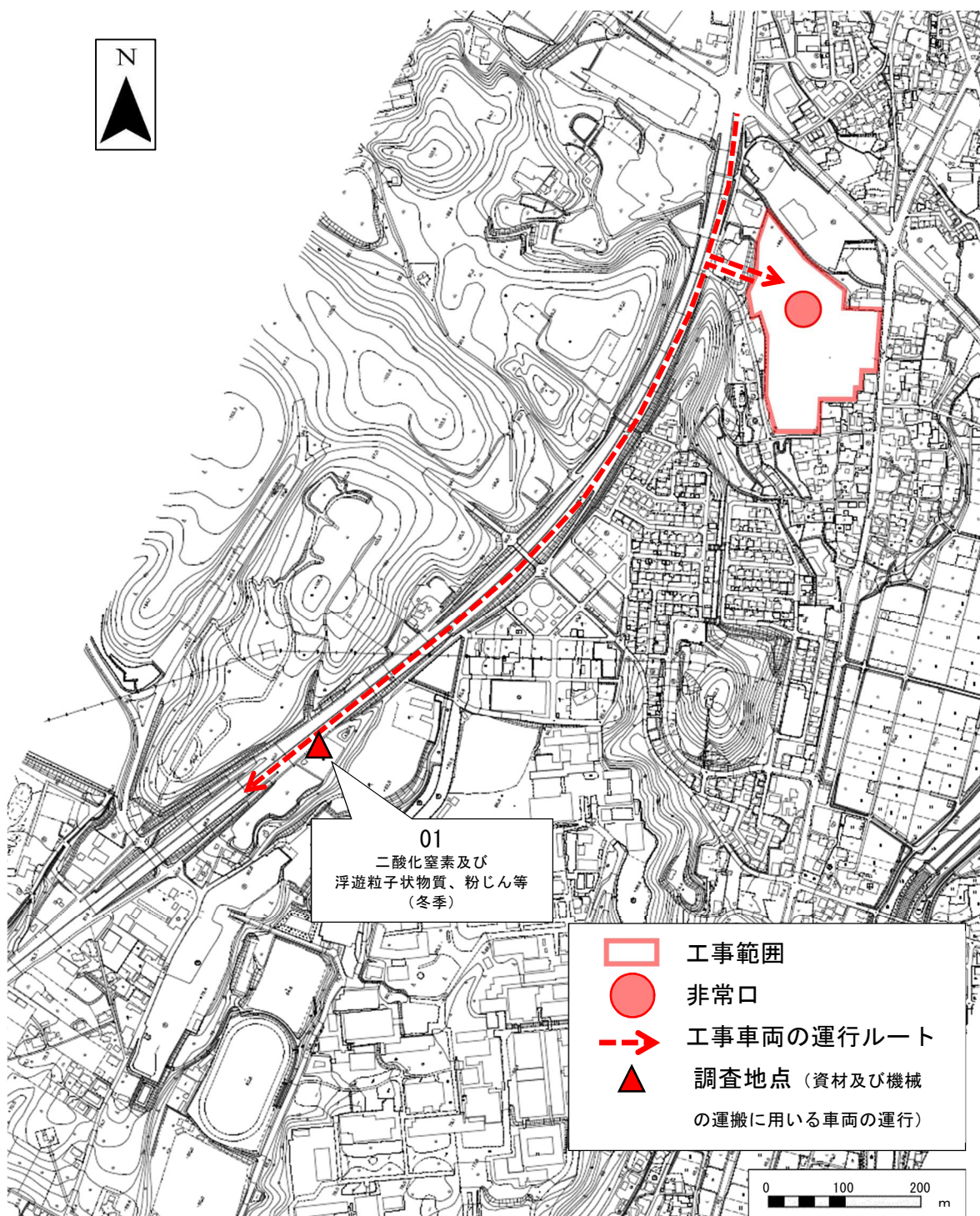


図 3-1-3-1 (2) 調査地点（大気質）（地点番号:01 大泉寺町 国道 19 号）

3-1-4 調査期間

調査期間は、工事期間全体の中で工事内容を勘案し、調査項目ごとに工事による影響が最大となる時期を選定しており、表 3-1-4-1 に示すとおりである。調査は四季調査を実施するものとし、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については各季 7 日間連続測定を、粉じん等については各季 1 ヶ月間連続測定を行った。なお、地点番号 01 の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等については、2026 年度に実施する調査結果を以って四季調査を完了する計画である。

工事最盛期の対象工事は、評価書【愛知県】の予測対象工事を基本としている。

表 3-1-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容	備考
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）	01	冬季	2026年 1 月 28 日～ 2 月 3 日	シールド掘進	今回調査
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行（粉じん等）	01	冬季	2026年 1 月 14 日～ 2 月 12 日	シールド掘進	今回調査

3-1-5 調査結果

(1) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に係るモニタリング

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。

地点番号 01 は四季調査の一季分の結果であるが、二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.021ppm、浮遊粒子状物質は、日平均値の最高値は 0.012mg/m³であった。

また、降下ばいじん量については、地点番号 01 で最大 1.82t/km²/月であった。

表 3-1-5-1 (1) 調査結果（二酸化窒素）

地点番号	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1 時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその 割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の 日数とその割合		基準※
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
01	7	168	0.017	0.046	0.021	0	0	0	0	日平均値の 年間 98% 値が 0.06ppm 以下

※環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (2) 調査結果（浮遊粒子状物質）

地点 番号	有効 測定 日数	測定 時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数と その割合		日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数と その割合		基準※
	日	時間	mg/m^3	mg/m^3	mg/m^3	時間	%	日	%	
01	7	168	0.009	0.043	0.012	0	0	0	0	日平均値の 年間 2%除外値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下

※環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 3-1-5-1 (3) 調査結果（降下ばいじん量）※1

地点 番号	春季	夏季	秋季	冬季	指標値※2
	$\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$	$\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$	$\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$	$\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$	
01	2026 年度調査予定			1.82	$20\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$

※1 調査結果は、バックグラウンド濃度と資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与分の合計となる。

※2 スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 $20\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ （「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自84号））を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、評価書【愛知県】では、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である $10\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ （1993年～1997年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた $10\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

3-2 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事中のモニタリングを実施した。

3-2-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

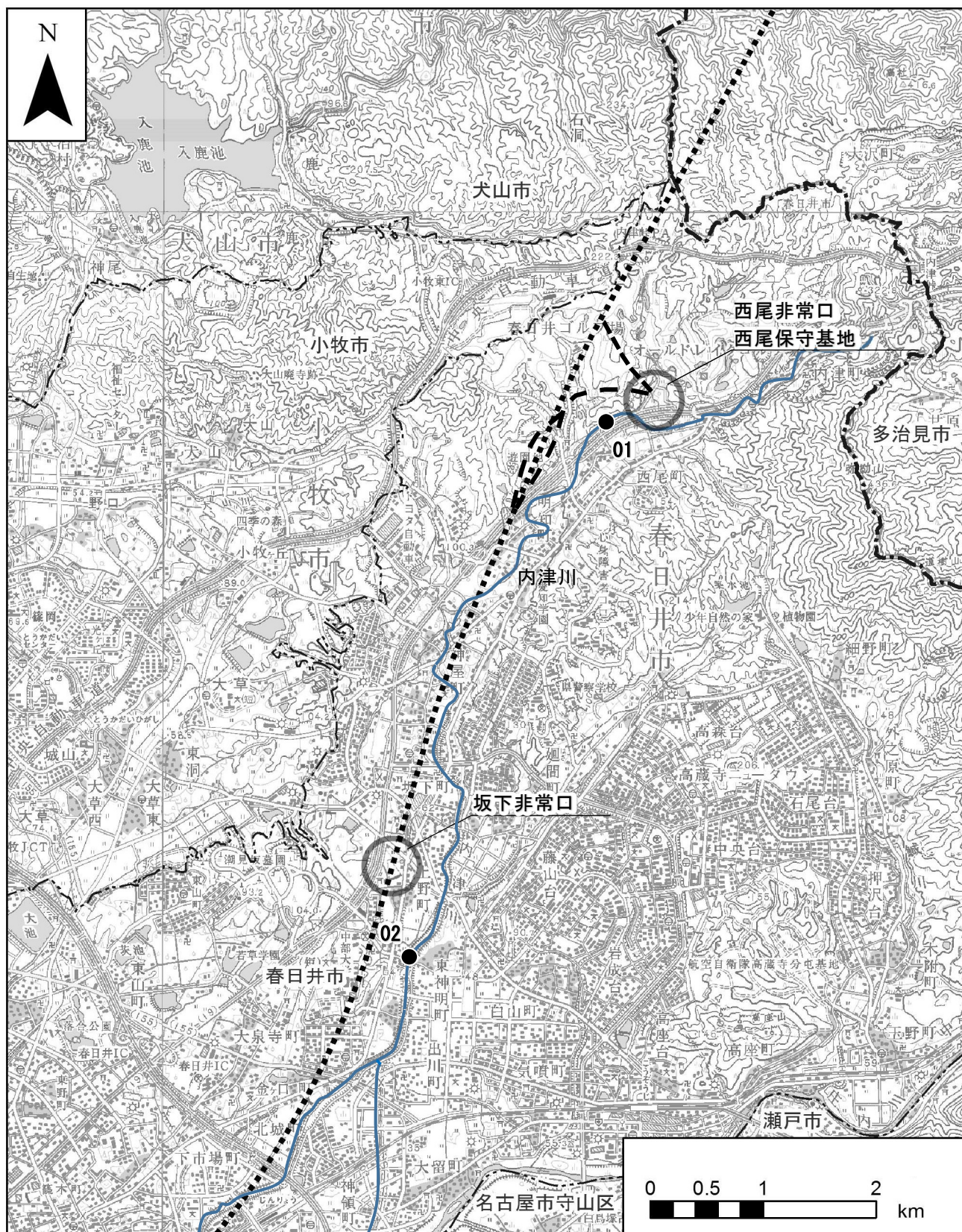
調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日、環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（1993 年 3 月、建設省河川局監修）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日、環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）」（令和 5 年 3 月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
ほう素		

3-2-3 調査地点

調査地点は、表 3-2-3-1 及び図 3-2-3-1 に示すとおりである。

表 3-2-3-1 調査地点

地点番号	市区名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目
01	春日井市	庄内川	内津川	西尾非常口 西尾保守基地	浮遊物質量（SS）、水温、 水素イオン濃度（pH）、 自然由来の重金属等
02				坂下非常口	
03				神領非常口	



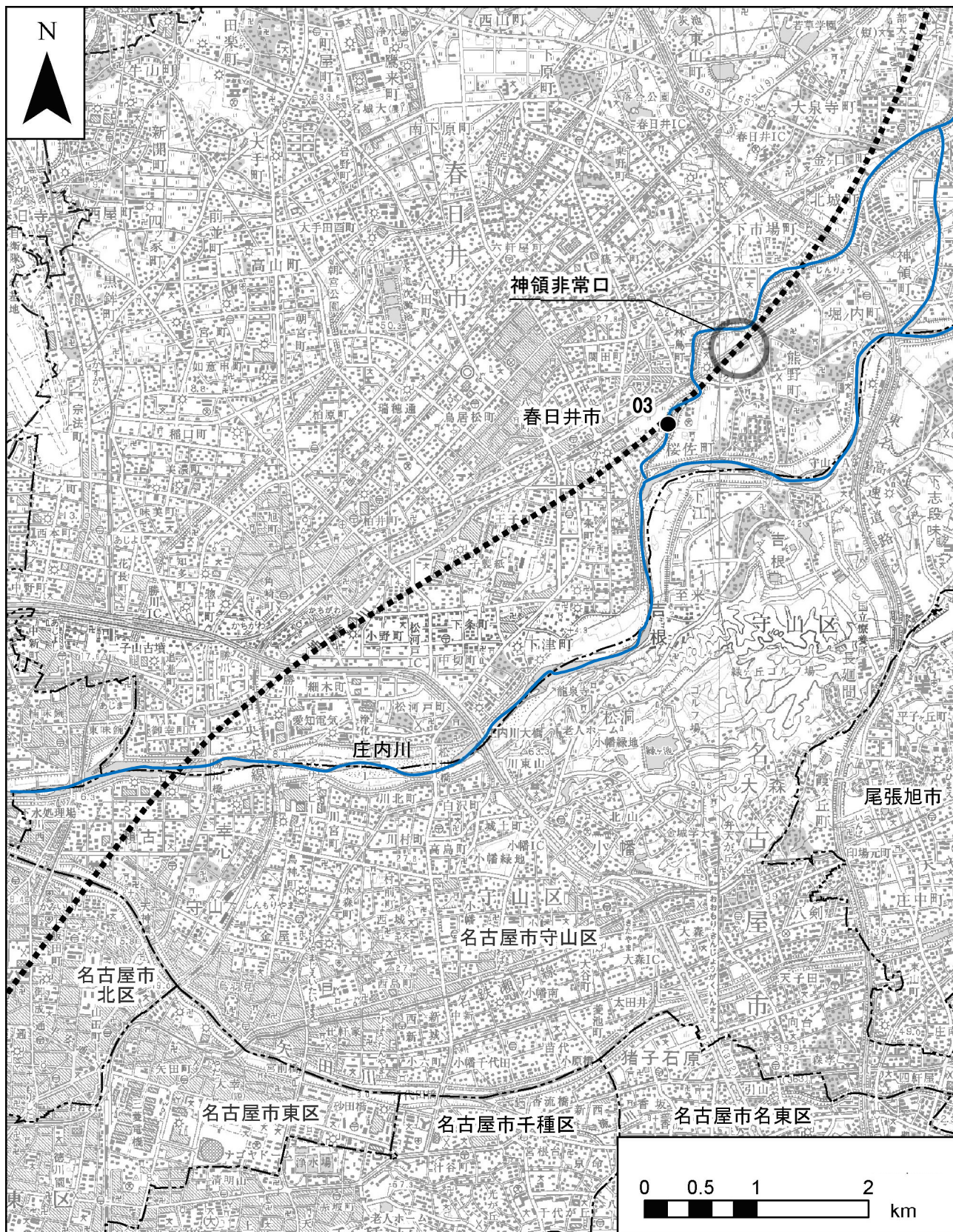
凡例

- 計画路線（トンネル部）
- 非常口トンネル（斜坑）
- 保守基地線トンネル

- 県境
- 市区町村境

- 調査地点

図 3-2-3-1 (1) 調査地点（水質）



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

--- 市区町村境

● 調査地点

図 3-2-3-1 (2) 調査地点（水質）

3-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-2-4-1 に示すとおりである。

表 3-2-4-1 調査期間

地点番号	対象河川	実施時期の種別	調査日	調査頻度
01※	内津川	工事中	2026 年 1 月 27 日	年 1 回
02	内津川	工事中	2026 年 1 月 27 日	年 1 回
03	内津川	工事中	2026 年 1 月 27 日	年 1 回

※その他、西尾非常口西尾保守基地工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（河川）の水質として、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行った。頻度は、仮置き中に毎月 1 回とした。

3-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-2-5-1（1）に示すとおりである。また、工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（河川）の水質の調査結果は、表 3-2-5-1（2）に示すとおりである。各地点の調査項目は、いずれも環境基準等に適合していた。

表 3-2-5-1（1） 調査結果

地点番号		01	02	03	環境基準等※ ²
対象河川		内津川	内津川	内津川	
類型指定※ ¹		(C)	(C)	(C)	
流量（m³/s）		0.020	0.049	0.017	—
浮遊物質（SS）（mg/L）		<1	3	2	C：50mg/L 以下
水温（℃）		8.6	12.2	9.9	—
気象の状況		曇	曇	曇	—
土質の状況		砂礫	砂礫	砂礫	—
水素イオン濃度（pH）		7.8	7.3	7.0	C：6.5 以上 8.5 以下
自然由来の重金属等	カドミウム（mg/L）	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム（mg/L）	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀（mg/L）	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン（mg/L）	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素（mg/L）	0.65	0.17	0.13	0.8mg/L 以下
	ほう素（mg/L）	0.06	0.03	0.02	1mg/L 以下

※1 類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きで記載した。

※2 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和 46 年環境庁告示第 59 号）

・「<」は未満を示す。

表 3-2-5-1 (2) 調査結果

地点番号		01												環境基準等※ ²
対象河川		内津川												
類型指定※ ¹		(C)												
調査日		4 / 22	5 / 26	6 / 23	7 / 28	8 / 25	9 / 29	10 / 27	11 / 25	12 / 22	1 / 26	2 / 24	3 / 23	—
水温 (℃)		16. 7	17. 7	22. 4	24. 0	24. 0	22. 5	19. 0	14. 0	11. 5	9. 0	14. 2	15. 0	—
水素イオン濃度 (pH)		7. 6	7. 7	8. 1	7. 8	7. 9	7. 7	7. 8	7. 8	7. 7	7. 9	7. 8	8. 0	C: 6. 5 以上 8. 5 以下
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	<0. 001	0. 003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	0. 02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0005	0. 0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	0. 01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	0. 01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	<0. 005	0. 01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0. 4	0. 2	0. 3	0. 4	0. 5	0. 5	0. 4	0. 5	0. 4	0. 6	0. 6	0. 4	0. 8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	<0. 1	1mg/L 以下

※ 1 類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

※ 2 水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。(水質汚濁に係る環境基準について: 昭和 46 年環境庁告示第 59 号)

・「<」は未満を示す。

なお、工事中における西尾非常口西尾保守基地及び坂下非常口からの工事排水（トンネル湧水含む）の水質についても、浮遊物質量、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。また、神領非常口については、2025年5月より工事排水の浮遊物質量、水量、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。測定結果は下記のとおりであるが、値は年間最大値（水素イオン濃度及び水温は年間最大・最小値）を記載した。

西尾非常口西尾保守基地の測定結果は、浮遊物質量は6.0mg/L以下、水素イオン濃度は6.3～8.2であり、いずれも排水基準等に適合していた。水温は11.5～24.0℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは0.01mg/L未満、六価クロムは0.02mg/L未満、水銀は0.0005mg/L未満、セレンは0.01mg/L未満、鉛は0.01mg/L未満、ヒ素は0.01mg/L未満、ふっ素は1.3mg/L以下、ほう素は0.1mg/L未満であり、いずれも排水基準等に適合していた。

坂下非常口の測定結果は、浮遊物質量は18.9mg/L以下、水素イオン濃度は5.8～8.5であり、いずれも排水基準等に適合していた。水温は3.5～33.6℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは0.003mg/L未満、六価クロムは0.02mg/L未満、水銀は0.0005mg/L未満、セレンは0.01mg/L未満、鉛は0.03mg/L以下、ヒ素は0.01mg/L未満、ふっ素は1.0mg/L以下、ほう素は0.1mg/L以下であり、いずれも排水基準等に適合していた。

神領非常口の測定結果は、浮遊物質量は21.2mg/L以下、水素イオン濃度は6.2～7.5であり、いずれも排水基準等に適合していた。水温は3.8～26.4℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは0.003mg/L未満、六価クロムは0.01mg/L未満、水銀は0.0005mg/L未満、セレンは0.005mg/L未満、鉛は0.02mg/L未満、ヒ素は0.005mg/L未満、ふっ素は0.1mg/L未満、ほう素は0.02mg/L未満であり、いずれも排水基準等に適合していた。

3-3 地下水

地下水について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-3-1 調査項目

調査項目は、非常口（都市部）及び地下駅付近の井戸の地下水の水位の状況とした。

3-3-2 調査方法

調査方法は、表 3-3-2-1に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法

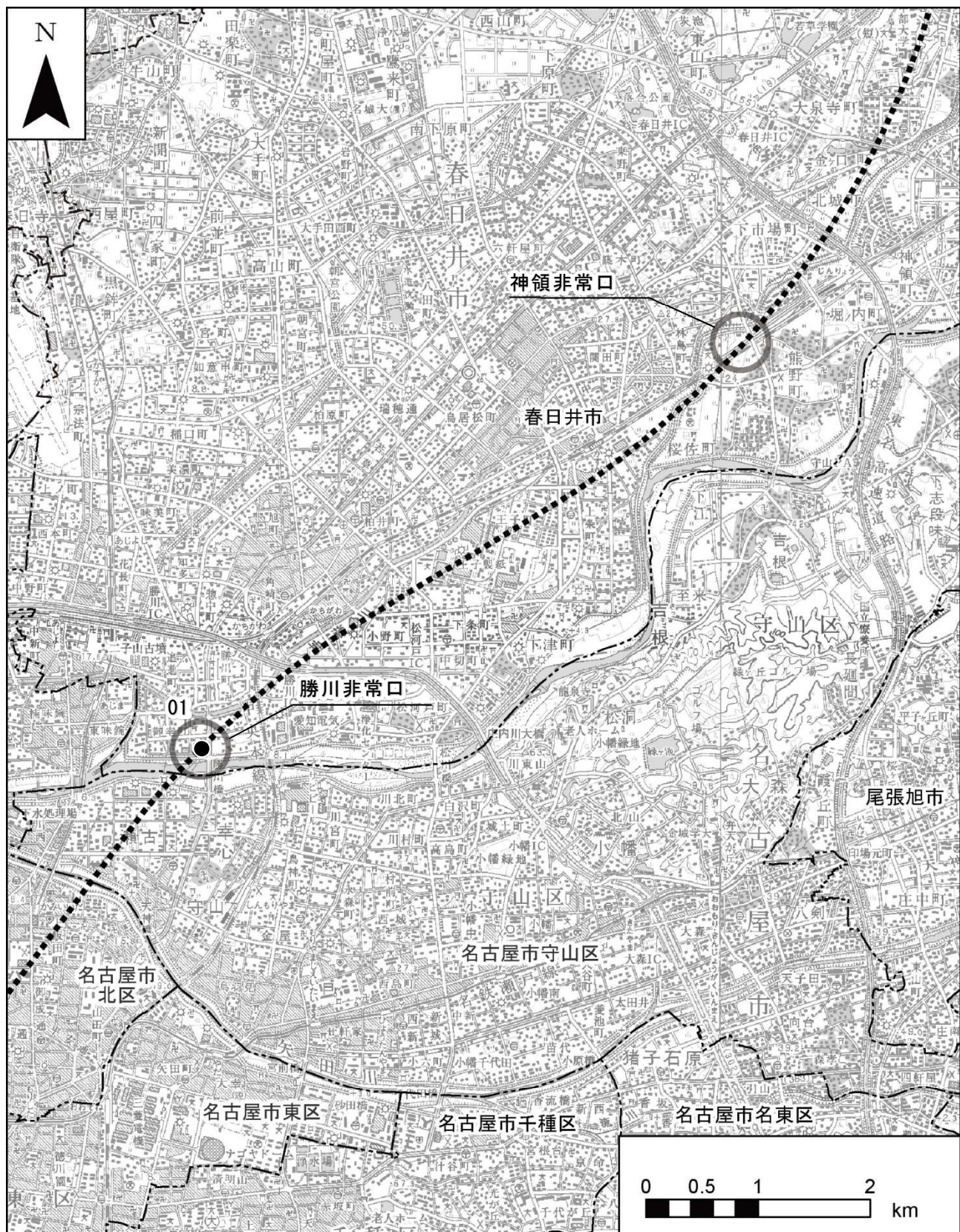
調査項目	調査方法
水位	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に定める測定方法

3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1 及び図 3-3-3-1 に示すとおりである。

表 3-3-3-1 調査地点

地点番号	市区名	所在地	実施箇所	備考
01	春日井市	勝川町	勝川非常口	浅層観測井
				深層観測井
02	名古屋市中村区	名駅	名古屋駅	浅層観測井
				深層観測井
03	名古屋市西区	名駅		浅層観測井
				深層観測井
04	名古屋市中村区	則武		浅層観測井
				深層観測井



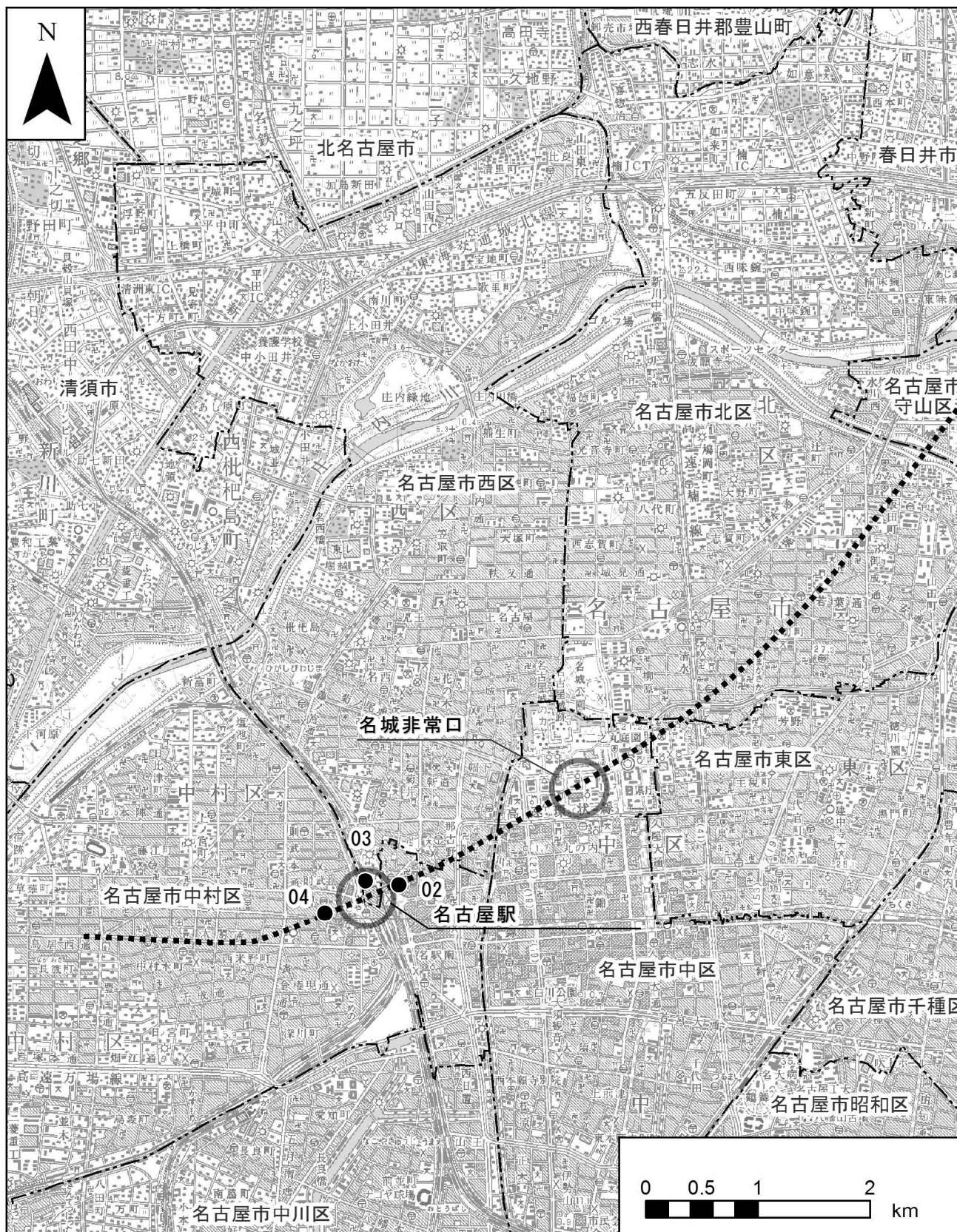
凡例

..... 計画路線（トンネル部）

----- 市区町村境

● 調査地点

図 3-3-3-1 (1) 調査地点（地下水）



凡例

..... 計画路線 (トンネル部)

—— 市区町村境

● 調査地点

図 3-3-3-1 (2) 調査地点 (地下水)

3-3-4 調査期間

調査期間は、表 3-3-4-1 に示すとおりである。

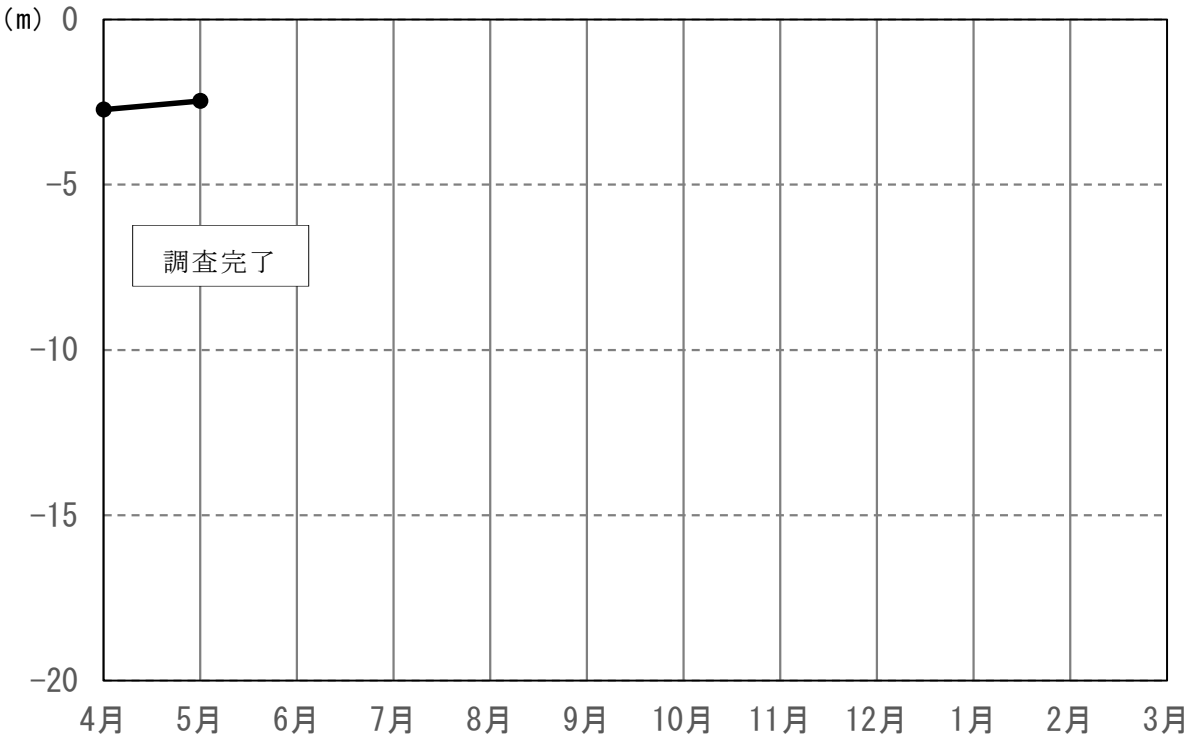
表 3-3-4-1 (1) 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	工事完了後※	2025年 4 月 22 日 2025年 5 月 28 日	月 1 回
02	工事中	2025年 4 月 16 日 2025年 5 月 21 日 2025年 6 月 18 日 2025年 7 月 17 日 2025年 8 月 20 日 2025年 9 月 18 日 2025年10月17日 2025年11月13日 2025年12月18日 2026年 1 月 15 日 2026年 2 月 12 日 2026年 3 月 11 日	月 1 回
03	工事中	2025年 4 月 25 日 2025年 5 月 28 日 2025年 6 月 27 日 2025年 7 月 25 日 2025年 8 月 22 日 2025年 9 月 22 日 2025年10月30日 2025年11月28日 2025年12月24日 2026年 1 月 30 日 2026年 2 月 26 日 2026年 3 月 31 日	月 1 回
04	工事中	2025年 4 月 15 日 2025年 5 月 20 日 2025年 6 月 17 日 2025年 7 月 15 日 2025年 8 月 19 日 2025年 9 月 16 日 2025年10月21日 2025年11月18日 2025年12月16日 2026年 1 月 20 日 2026年 2 月 17 日 2026年 3 月 17 日	月 1 回

※工事完了（2024 年 5 月）以降、地下水位が安定していることを確認し、2025 年 5 月に調査を完了した。

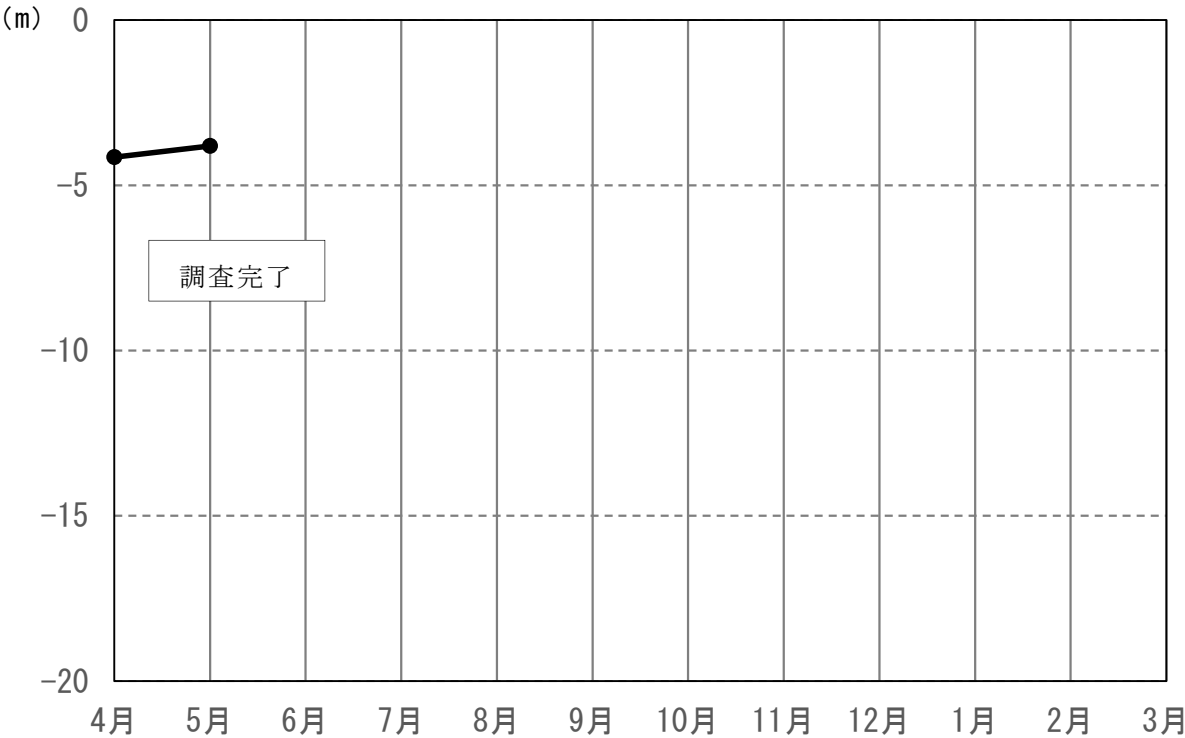
3-3-5 調査結果

調査結果は、図 3-3-5-1に示すとおりである。なお、水位は地表面（G.L.）からの深さを示す。



・工事前の調査結果は-3.01m~-2.43mであった。

図 3-3-5-1 (1) 調査結果 (地点番号:01 (浅層))



・工事前の調査結果は-4.36m~-3.47mであった。

図 3-3-5-1 (2) 調査結果 (地点番号:01 (深層))

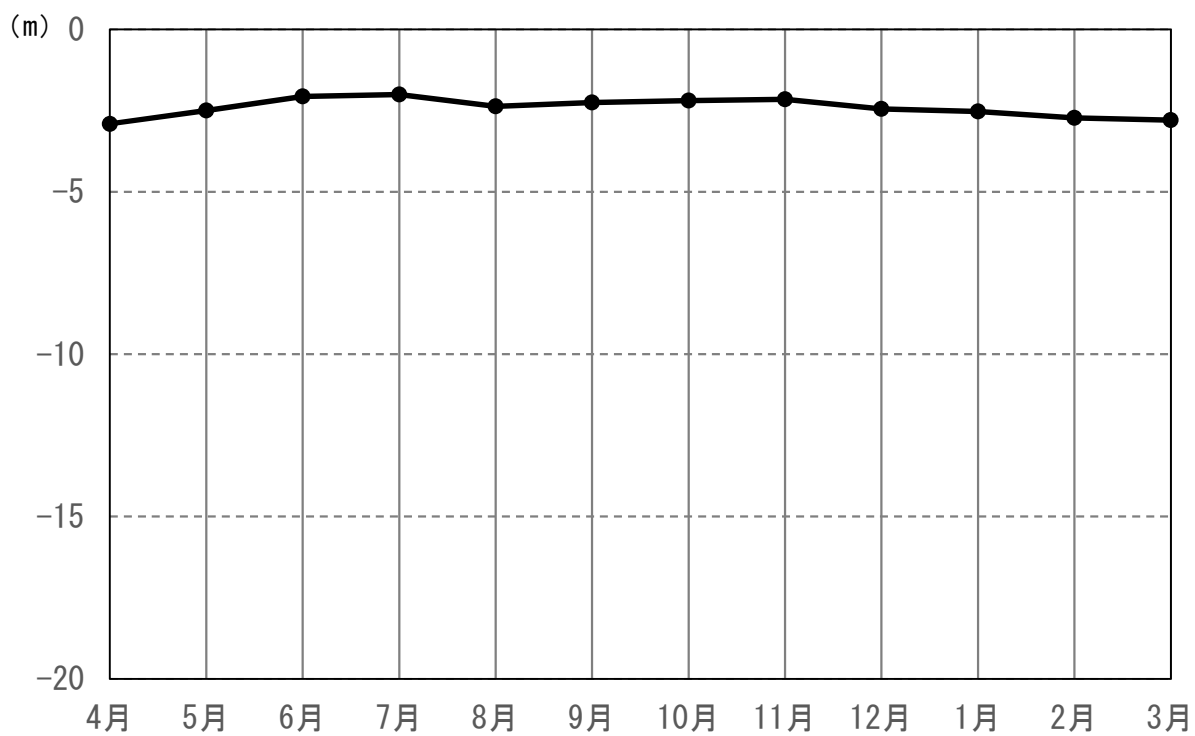


図 3-3-5-1 (3) 調査結果 (地点番号:02 (浅層))

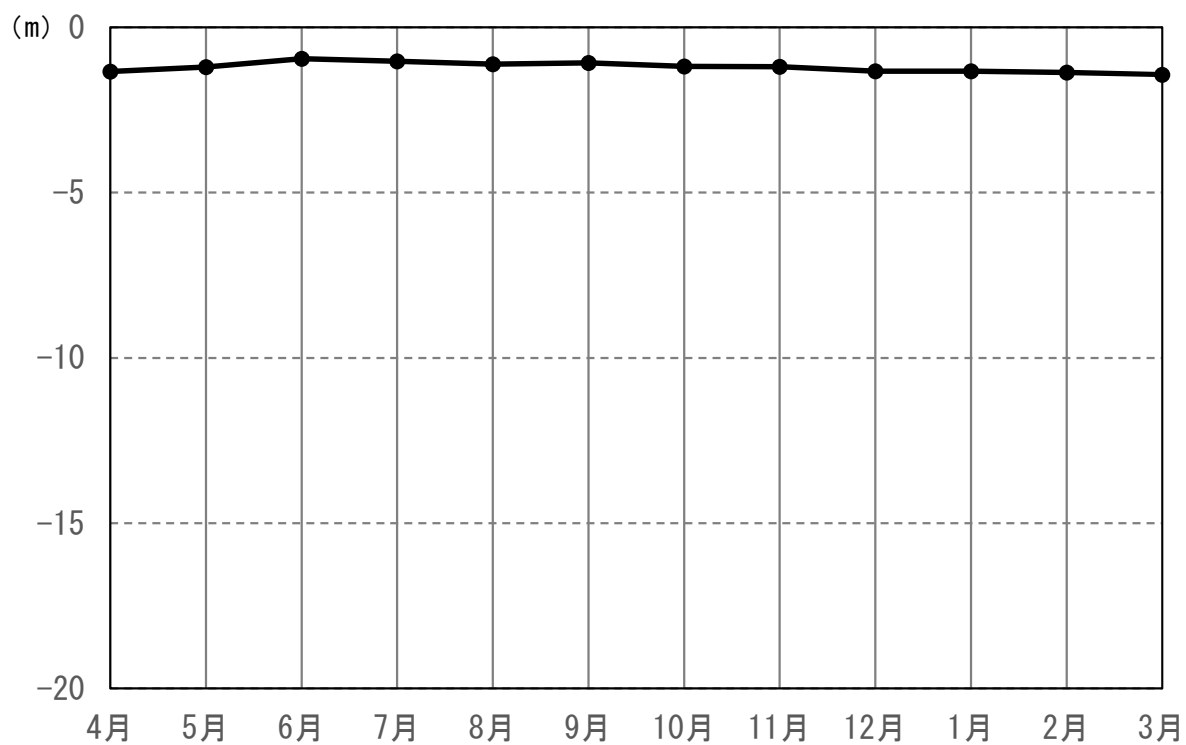


図 3-3-5-1 (4) 調査結果 (地点番号:02 (深層))

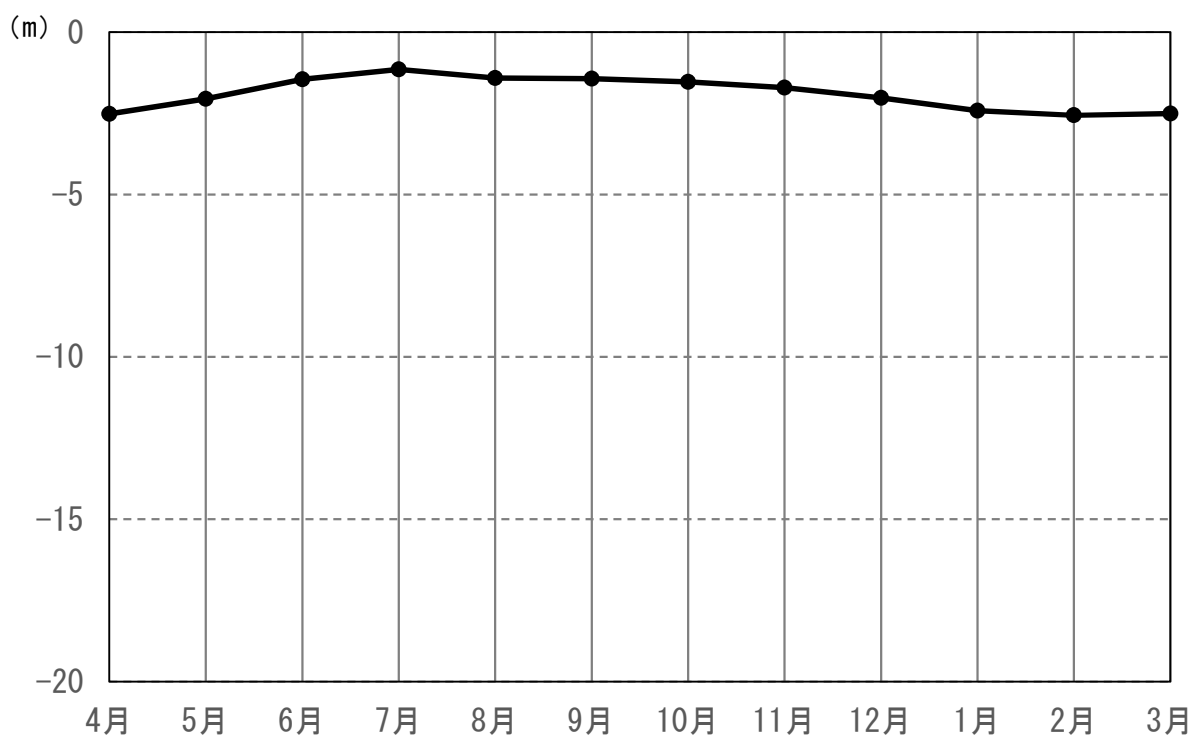


図 3-3-5-1 (5) 調査結果 (地点番号:03 (浅層))

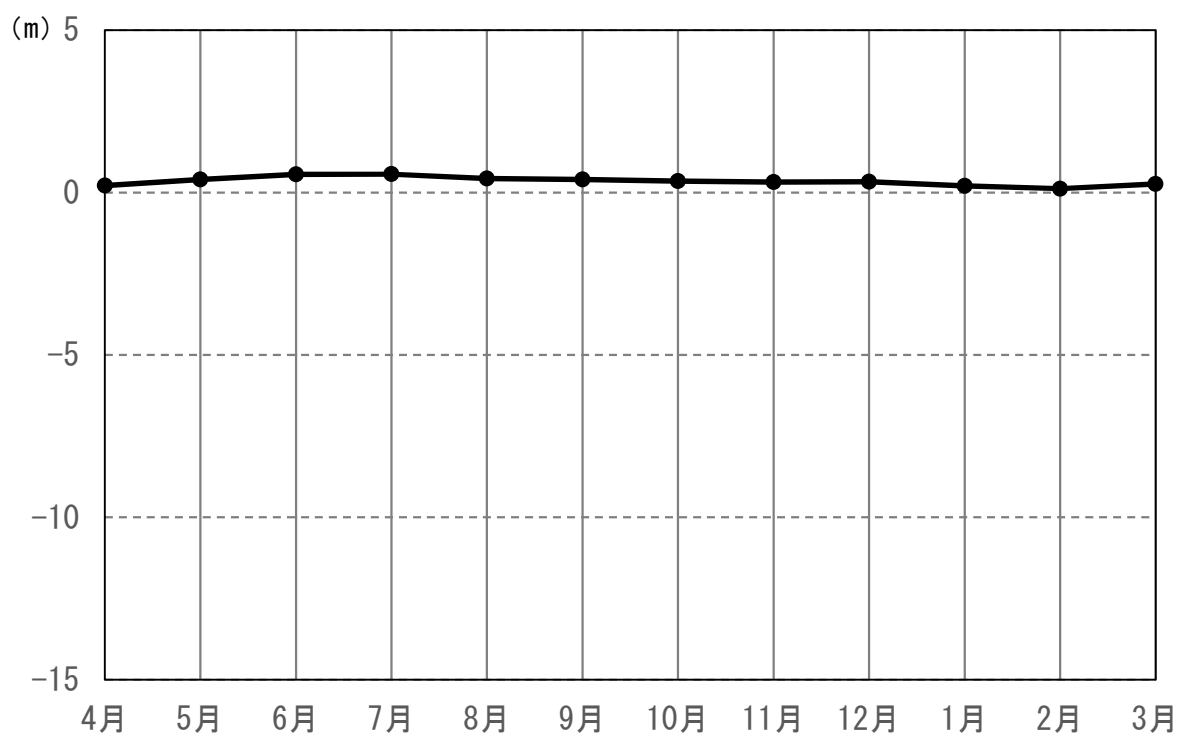


図 3-3-5-1 (6) 調査結果 (地点番号:03 (深層))

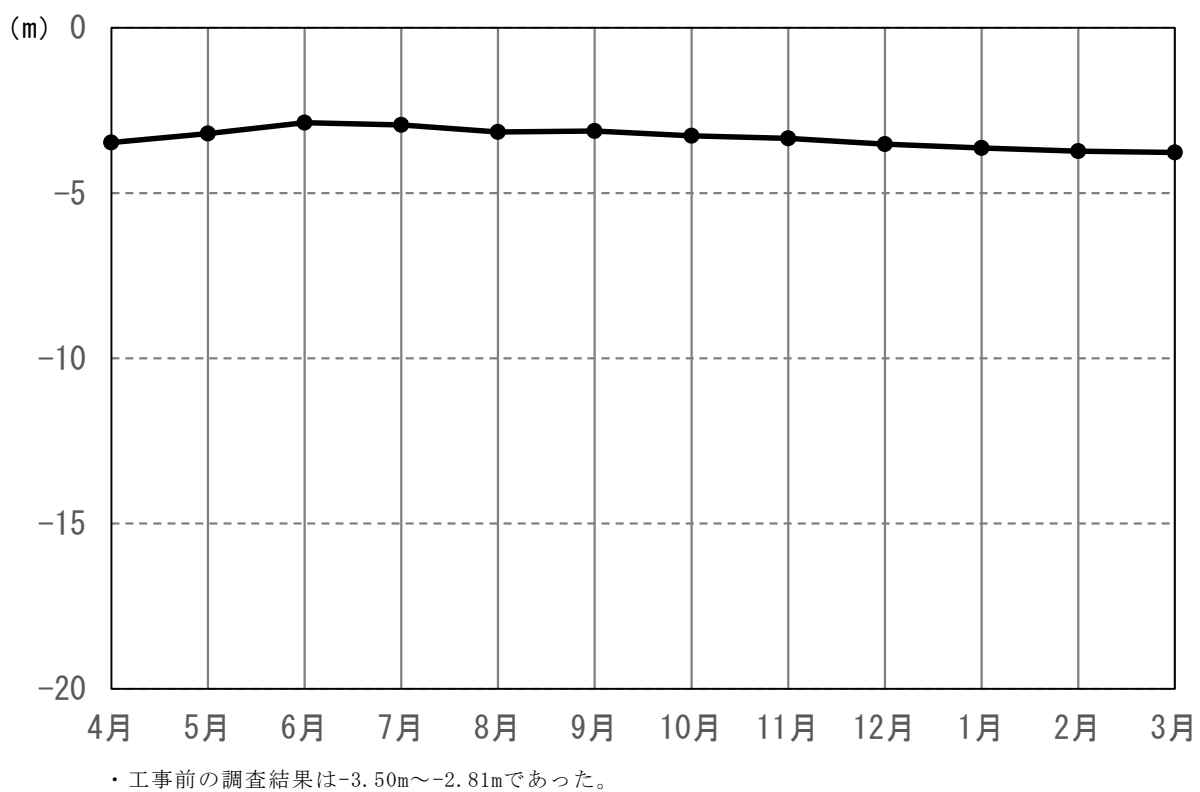


図 3-3-5-1 (7) 調査結果 (地点番号:04 (浅層))

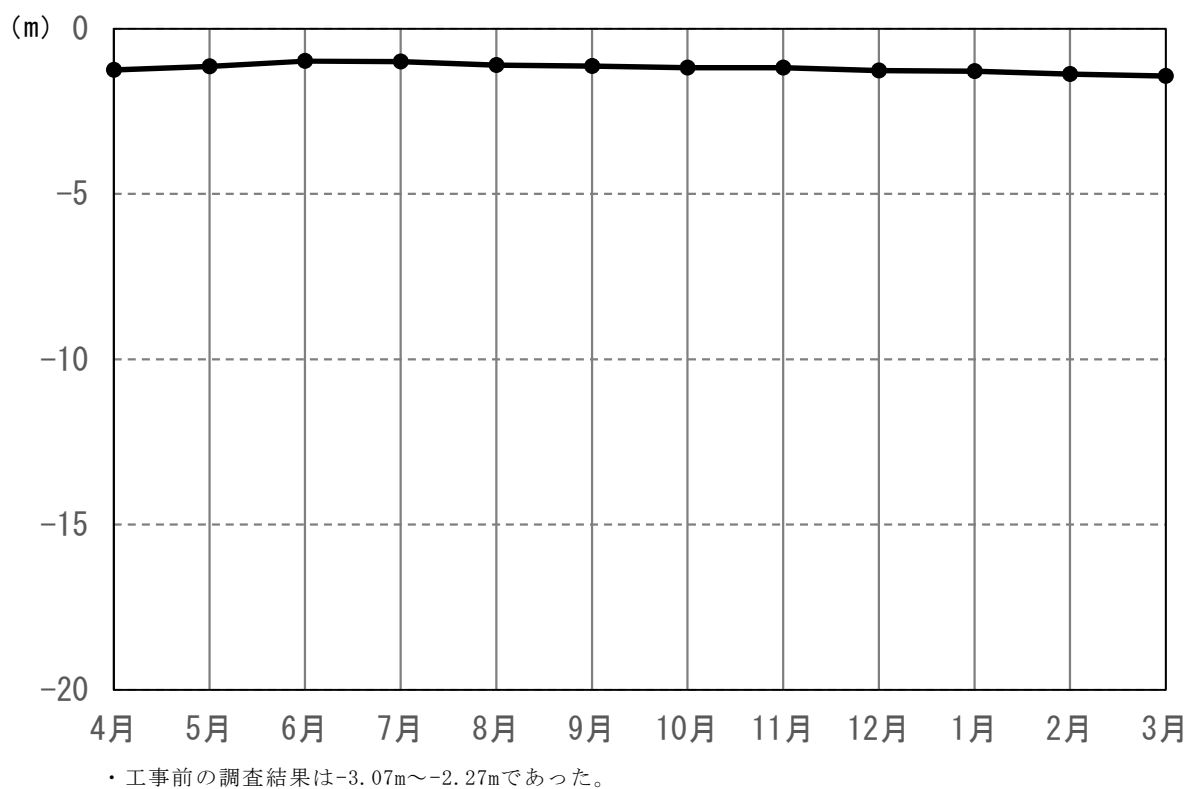


図 3-3-5-1 (8) 調査結果 (地点番号:04 (深層))

3-4 水資源（非常口（都市部）、地下駅及び山岳トンネル）

水資源（井戸・湧水）について、工事中のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、水資源（井戸・湧水）の水位又は水量とした。

また、水資源（井戸）は自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び水素イオン濃度（pH）の状況についても調査を行った。

3-4-2 調査方法

調査方法は、表 3-4-2-1 及び表 3-4-2-2 に示すとおりである。

表 3-4-2-1 調査方法（水位又は水量）

調査項目	調査方法
水位又は水量	水位：「地下水調査および観測指針（案）」（1993 年 3 月 建設省 河川局監修）に定める測定方法 水量：「工場排水試験方法」（JIS K 0102 4）に定める測定方法

表 3-4-2-2 調査方法（自然由来の重金属等及び水素イオン濃度（pH））

調査項目		調査方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」（令和 5 年 3 月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	
水素イオン濃度（pH）		「河川水質試験方法（案）」（平成 21 年 国土交通省）に定める測定方法

3-4-3 調査地点

調査地点は、表 3-4-3-1 及び表 3-4-3-2、図 3-4-3-1 に示すとおりである。

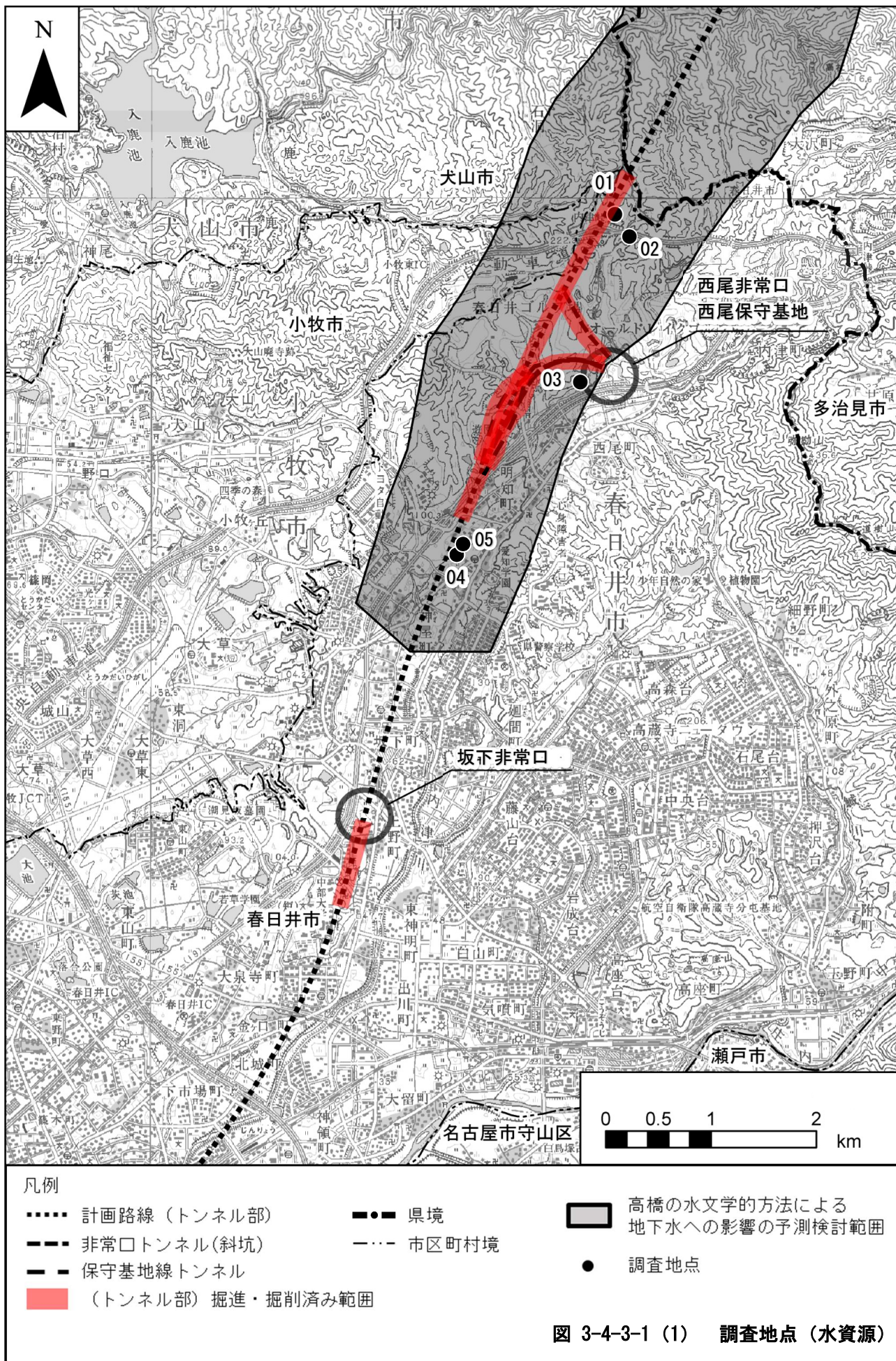
表 3-4-3-1 調査地点（水位又は水量）

地点 番号	市区名	所在地	調査地点	調査項目	
				水位	水量
01	春日井市	西尾町	北部ため池群（1）		○
02			北部ため池群（2）		○
03			浅層観測井	○	
			深層観測井	○	
04	春日井市	神屋町	神屋地下堰堤		○
05			既存の井戸	○	

表 3-4-3-2 調査地点（自然由来の重金属等及び水素イオン濃度（pH））

地点番号	市区名	所在地	実施箇所	調査地点	調査項目	
					自然由来の 重金属等	水素イオン 濃度（pH）
03	春日井市	西尾町	西尾非常口 西尾保守基地	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○
06	春日井市	熊野町	神領非常口	浅層観測井		○
				深層観測井		○
07	名古屋市 中村区	則武	名古屋駅	浅層観測井	○	○
				深層観測井	○	○

・その他、西尾非常口工事施工ヤードの土砂ピット（遮水型）に係る地下水の水質として、自然由来の重金属等及び水素イオン濃度（pH）の測定を行った。





凡例

..... 計画路線（トンネル部）

--- 市区町村境

● 調査地点

図 3-4-3-1 (2) 調査地点（水資源）



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

■ （トンネル部）掘進済み範囲

----- 市区町村境

● 調査地点

図 3-4-3-1 (3) 調査地点（水資源）

3-4-4 調査期間

調査期間は、表 3-4-4-1 及び表 3-4-4-2 に示すとおりである。

表 3-4-4-1 調査期間（水位又は水量）

地点番号	調査項目	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01, 02, 03, 04, 05	水位又は水量	工事中	2025年4月21日、22日 2025年5月26日、27日 2025年6月23日、24日 2025年7月28日、29日 2025年8月25日、26日 2025年9月24日、25日 2025年10月27日 2025年11月25日、26日 2025年12月22日、23日 2026年1月26日、27日 2026年2月24日、25日 2026年3月23日、24日	月1回/地点

表 3-4-4-2 調査期間（自然由来の重金属等及び水素イオン濃度(pH)）

地点番号	調査項目	実施時期の種別	調査日	調査頻度
03	自然由来の重金属等、 水素イオン濃度(pH)	工事中	2026年2月19日	年1回/地点
06	水素イオン濃度(pH)		2026年2月16日	
07	自然由来の重金属等、 水素イオン濃度(pH)		2026年1月6日	

・その他、西尾非常口西尾保守基地工事施工ヤードの土砂ピット（遮水型）に係る地下水の水質として、自然由来の重金属等及び水素イオン濃度(pH)の測定を行った。頻度は、仮置き中に毎月1回とした。

3-4-5 調査結果

調査結果は、表 3-4-5-1、表 3-4-5-2 及び図 3-4-5-1 に示すとおりである。図 3-4-5-1 については、過去5年分のデータを記載している。なお、水位は地表面（G.L.）からの深さを示す。

自然由来の重金属等に関する調査項目は、すべての地点で環境基準の値に適合していた。

表 3-4-5-1 調査結果（水位又は水量）

地点 番号	市区名	所在地	調査地点	項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
01	春日井市	西尾町	北部ため池群 (1)	水量 (L/min)	11. 9	43. 2	49. 2	33. 0	28. 2	13. 8	25. 2	15. 6	14. 9	5. 8	4. 6	5. 8
02			北部ため池群 (2)	水量 (L/min)	11. 4	44. 4	72. 0	53. 4	23. 4	27. 0	27. 6	18. 0	15. 0	10. 8	7. 2	8. 4
03			浅層観測井	水位 (m)	-4. 52	-4. 42	-4. 42	-4. 45	-4. 42	-4. 44	-4. 51	-4. 56	-4. 55	-4. 57	-4. 55	-4. 53
			深層観測井	水位 (m)	-53. 89	-53. 65	-53. 29	-52. 95	-53. 12	-53. 07	-52. 84	-52. 64	-52. 57	-52. 43	-52. 18	-52. 05
04	春日井市	神屋町	神屋地下堰堤	水量 (L/min)	816	6, 150	2, 856	1, 794	1, 806	1, 698	2, 922	1, 266	1, 404	1, 848	1, 068	1, 056
05			既存の井戸	水位 (m)	-1. 55	-1. 43	-1. 39	-1. 53	-1. 53	-1. 53	-1. 54	-1. 58	-1. 60	-1. 60	-1. 65	-1. 56

・水位は地表面（G.L.）からの深さを示す。

表 3-4-5-2 調査結果（自然由来の重金属等及び水素イオン濃度(pH)）

調査項目		調査地点						基準値※
		03		06		07		
		浅層	深層	浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003			<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005			<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002			<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005			<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005			<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.38	0.50			0.14	0.13	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.05	<0.05			0.12	0.03	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.6	8.3	6.5	6.6	6.6	6.8	—

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

・「<」は未満を示す。

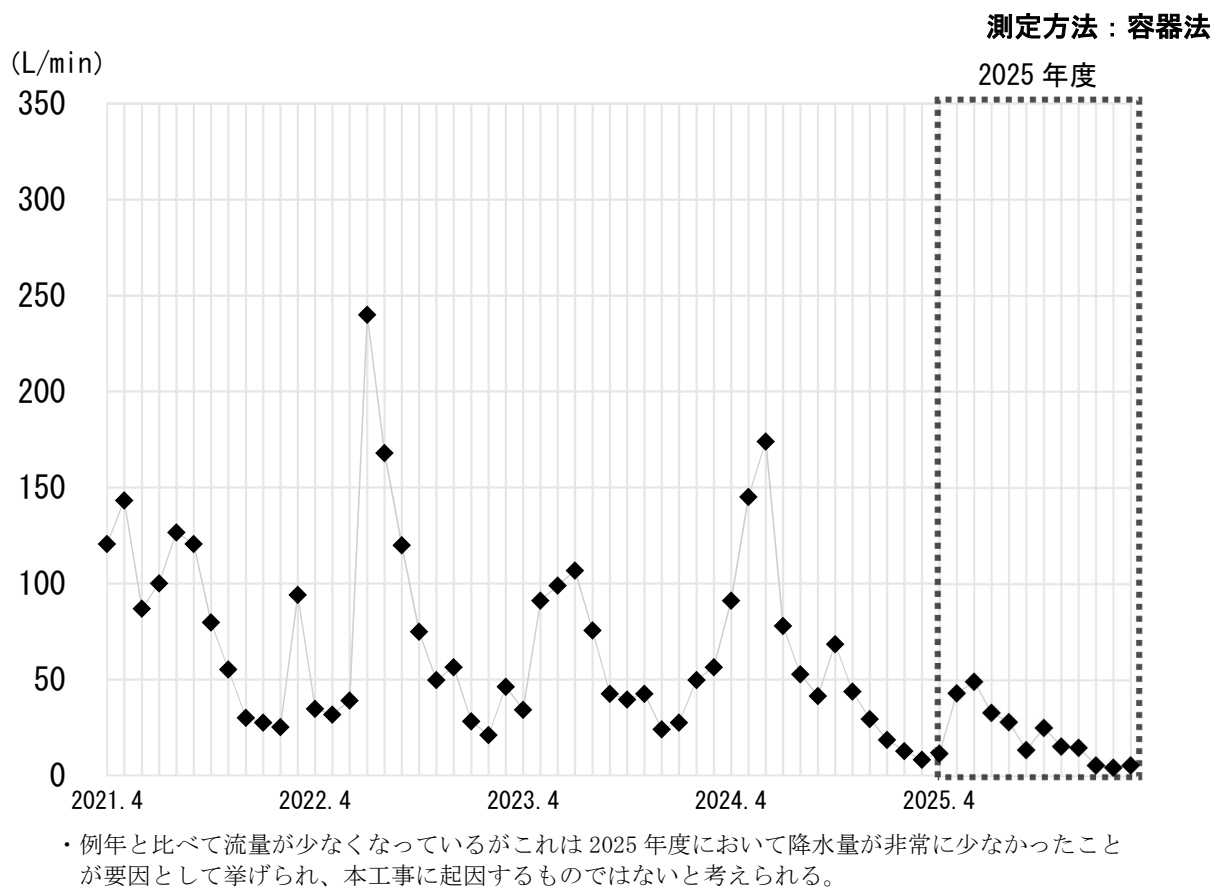


図 3-4-5-1 (1) 水量の調査結果（地点番号:01）

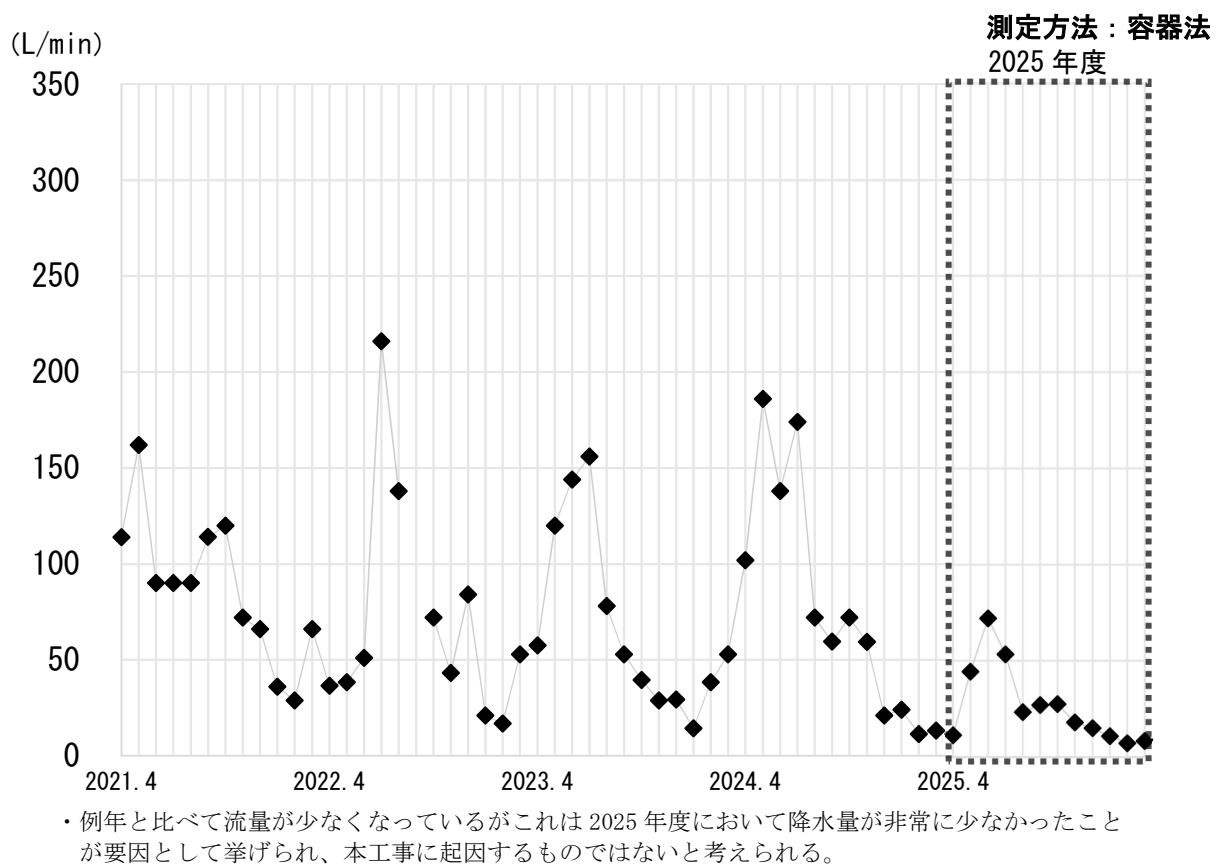


図 3-4-5-1 (2) 水量の調査結果（地点番号:02）

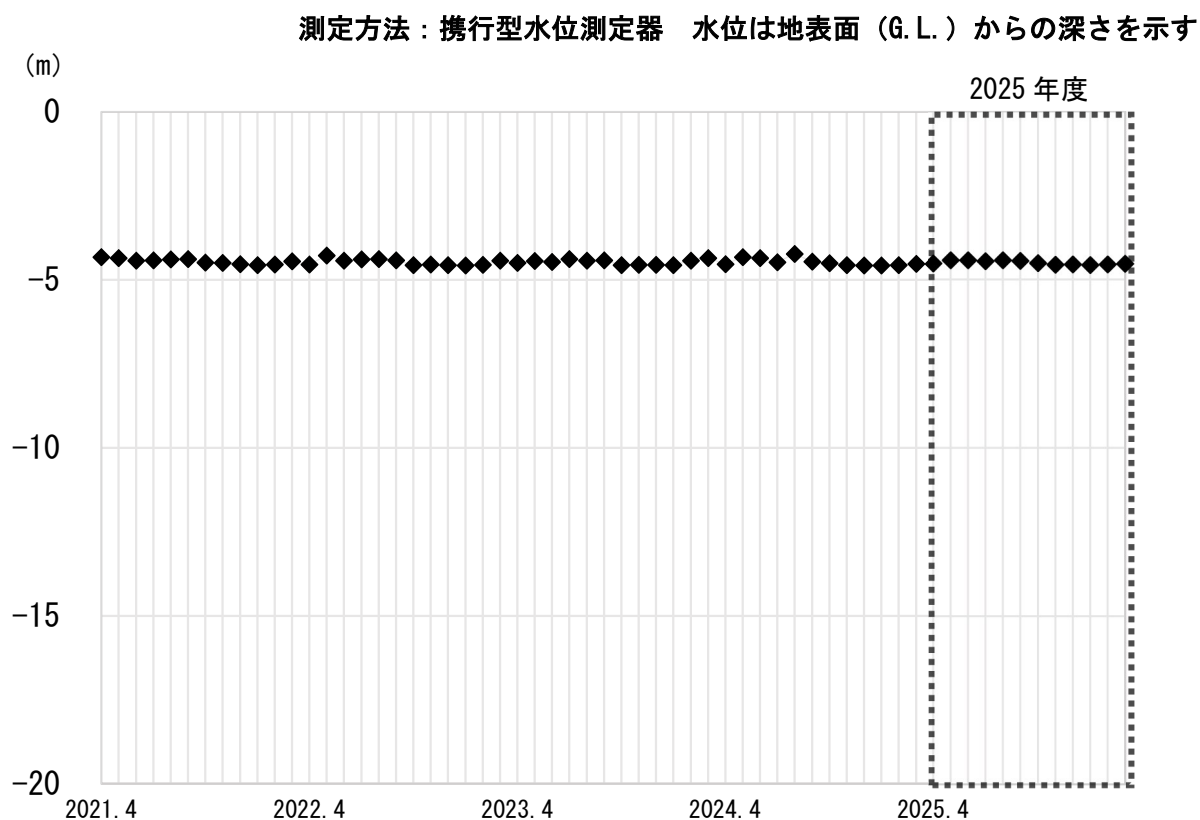
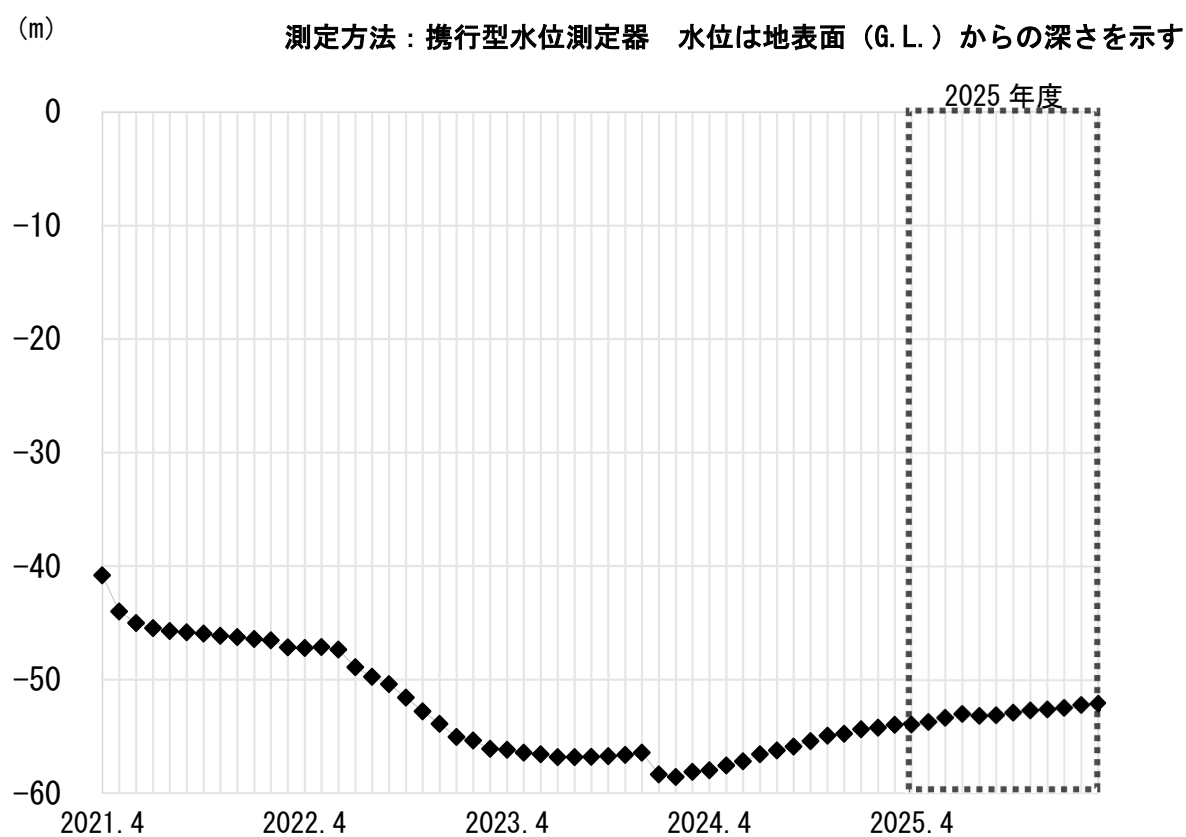


図 3-4-5-1 (3) 水位の調査結果（地点番号:03（浅層））



・2020年1月まで自噴が確認されたが、2020年2月以降は自噴がなく水位測定を実施した。2025年度末時点で浅層への影響は確認されていない。

図 3-4-5-1 (4) 水位の調査結果（地点番号:03（深層））

(L/min)

測定方法：流速計測法

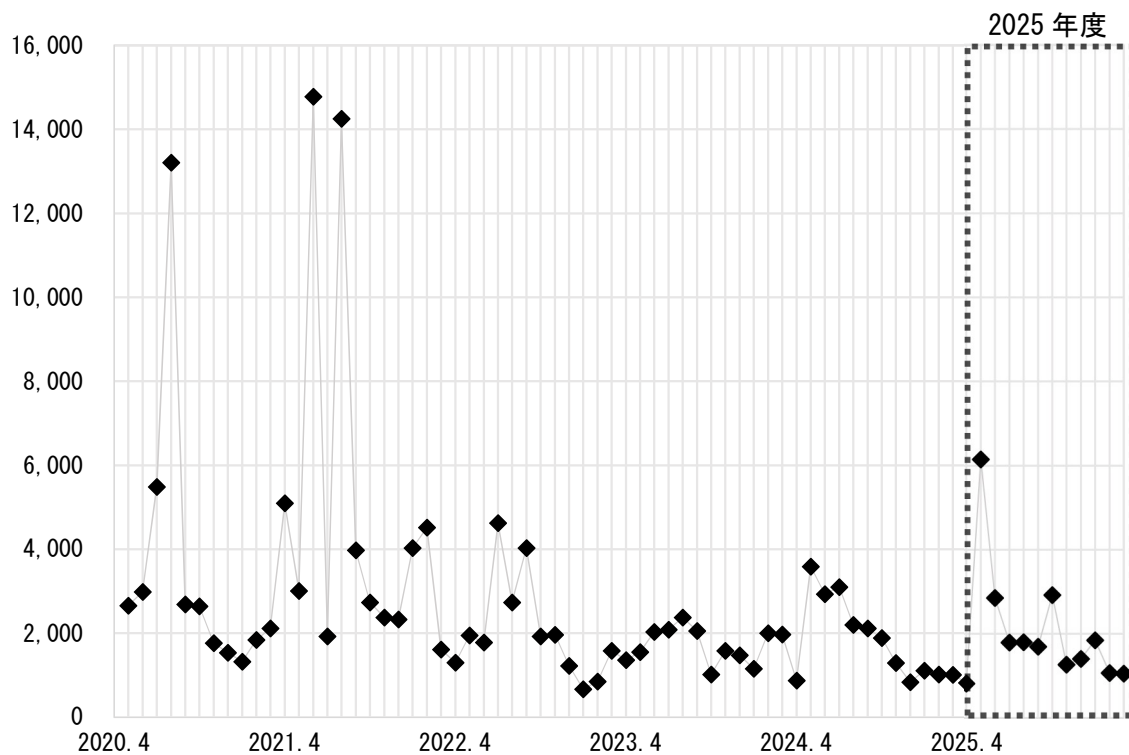


図 3-4-5-1 (5) 水量の調査結果 (地点番号:04)

測定方法：携行型水位測定器 水位は地表面 (G. L.) からの深さを示す

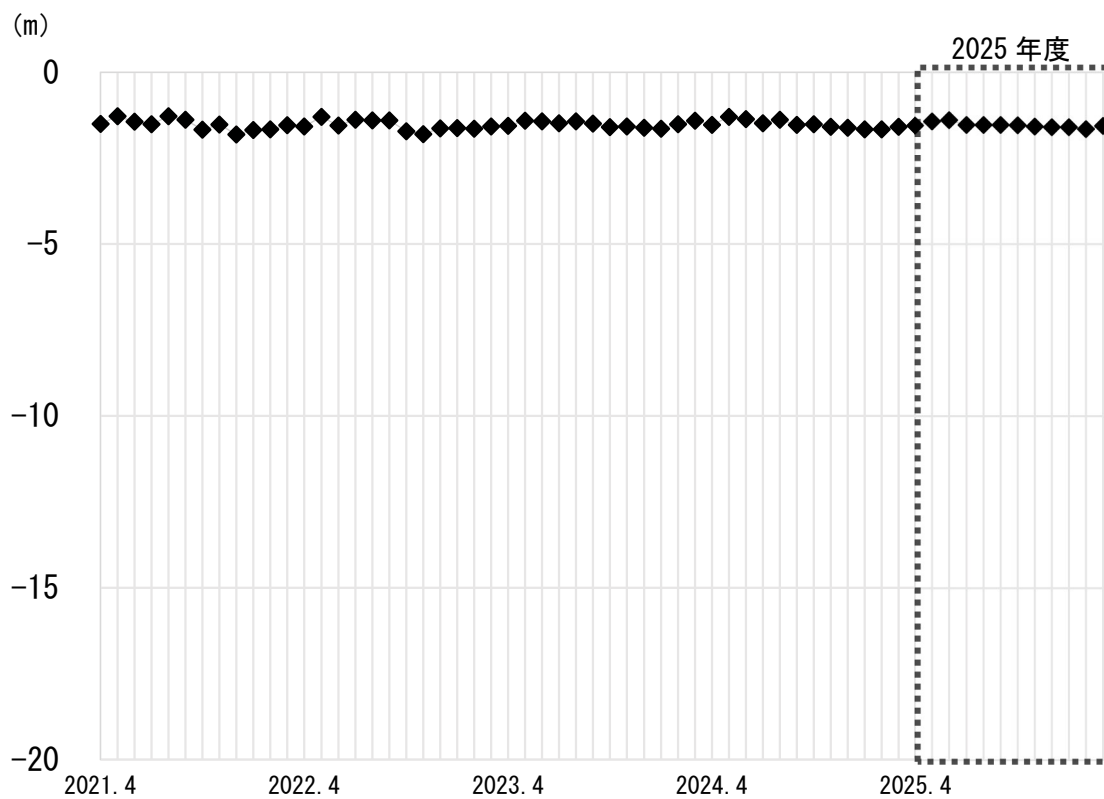


図 3-4-5-1 (6) 水位の調査結果 (地点番号:05)

工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る水資源（地下水の水質）の調査地点は図 3-4-5-2、調査結果は表 3-4-5-3 に示すとおりである。

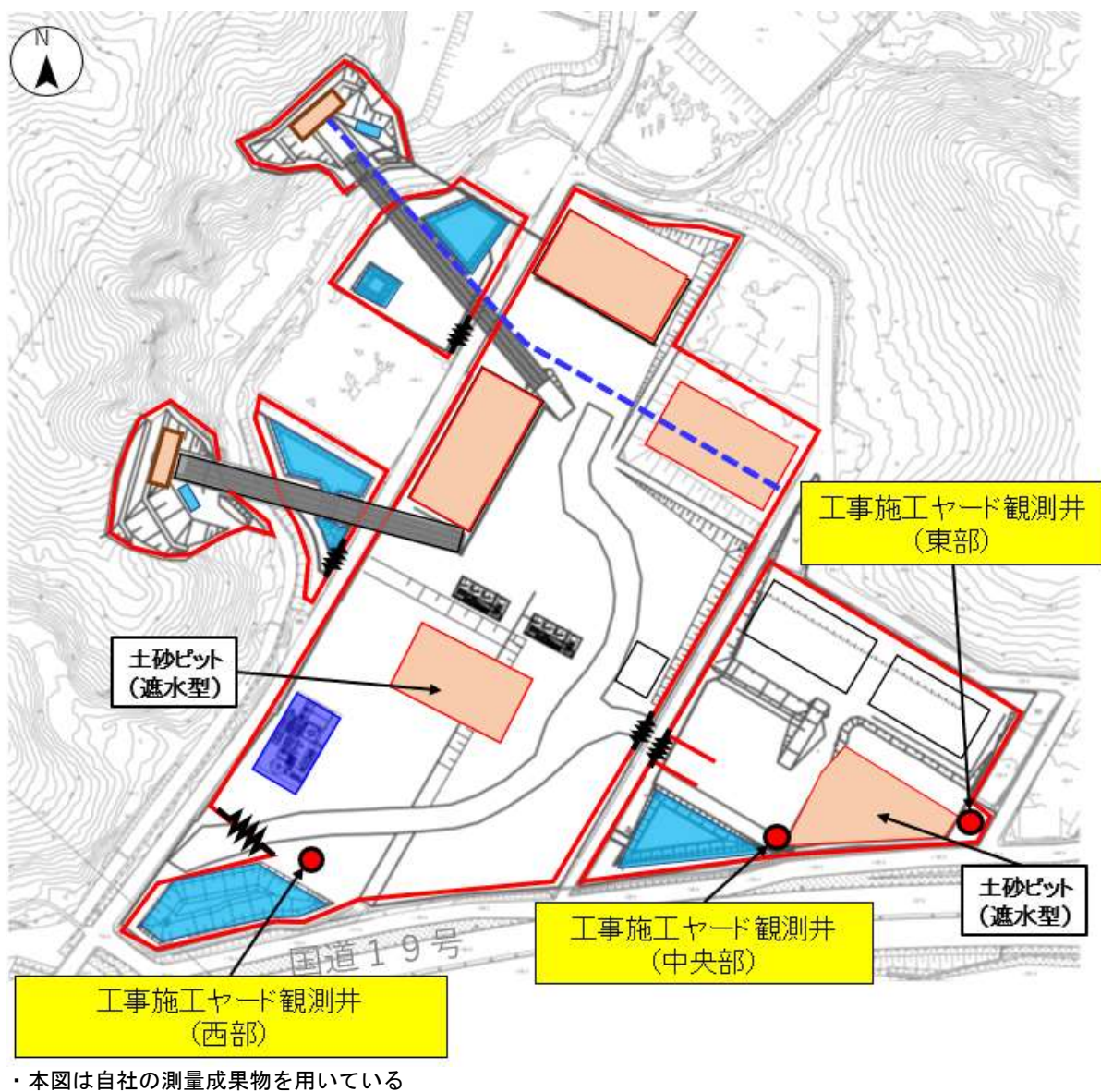


図 3-4-5-2 調査地点（西尾非常口西尾保守基地工事施工ヤード）

表 3-4-5-3 (1) 水資源の調査結果 (地下水の水質)

調査項目		調査地点												基準値※
		西尾非常口西尾保守基地 工事施工ヤード東部												
		調査日												
		4/22	5/27	6/24	7/29	8/27	9/26	10/28	11/26	12/23	1/28	2/26	3/25	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	0.005	<0.005	<0.005	0.008	<0.005	0.005	<0.005	0.007	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.0	6.1	5.9	6.2	6.1	6.1	6.2	6.2	6.0	6.1	6.3	6.1	—

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(平成9年3月13日、環境庁告示第10号)

・「<」は未満を示す。

表 3-4-5-3 (2) 水資源の調査結果（地下水の水質）

調査項目		調査地点												基準値※
		西尾非常口西尾保守基地 工事施工ヤード中央部												
		調査日												
		4/21	5/27	6/24	7/29	8/26	9/24	10/28	11/25	12/23	1/27	2/26	3/25	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		5.9	6.0	5.6	5.6	5.5	5.4	6.1	5.4	5.9	5.8	6.4	5.8	—

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

・「<」は未満を示す。

表 3-4-5-3 (3) 水資源の調査結果（地下水の水質）

調査項目		調査地点												基準値※
		西尾非常口西尾保守基地 工事施工ヤード西部												
		調査日												
		4/21	5/26	6/24	7/28	8/25	9/24	10/27	11/25	12/22	1/26	2/24	3/25	
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	0.006	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.4	6.5	6.5	6.4	6.5	6.5	6.4	6.3	6.2	6.5	6.4	6.4	—

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

・「<」は未満を示す。

3-5 地盤沈下

工事実施箇所周辺における地盤沈下について、工事前、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-5-1 非常口（都市部）及び地下駅周辺のモニタリング

3-5-1-1 調査項目

調査項目は、地盤の高さとした。

3-5-1-2 調査方法

調査方法は、工事前に非常口（都市部）及び地下駅周辺に設置した測量標を用いた水準測量とした。

3-5-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-5-1-3-1 及び図 3-5-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-5-1-3-1 調査地点

地点番号	市区名	所在地	実施箇所
01	春日井市	勝川町	勝川非常口
02-1	名古屋市 中村区	名駅	名古屋駅
02-2	名古屋市 中村区	名駅	
02-3	名古屋市 西区	名駅	
02-4	名古屋市 中村区	椿町	
02-5	名古屋市 中村区	則武	



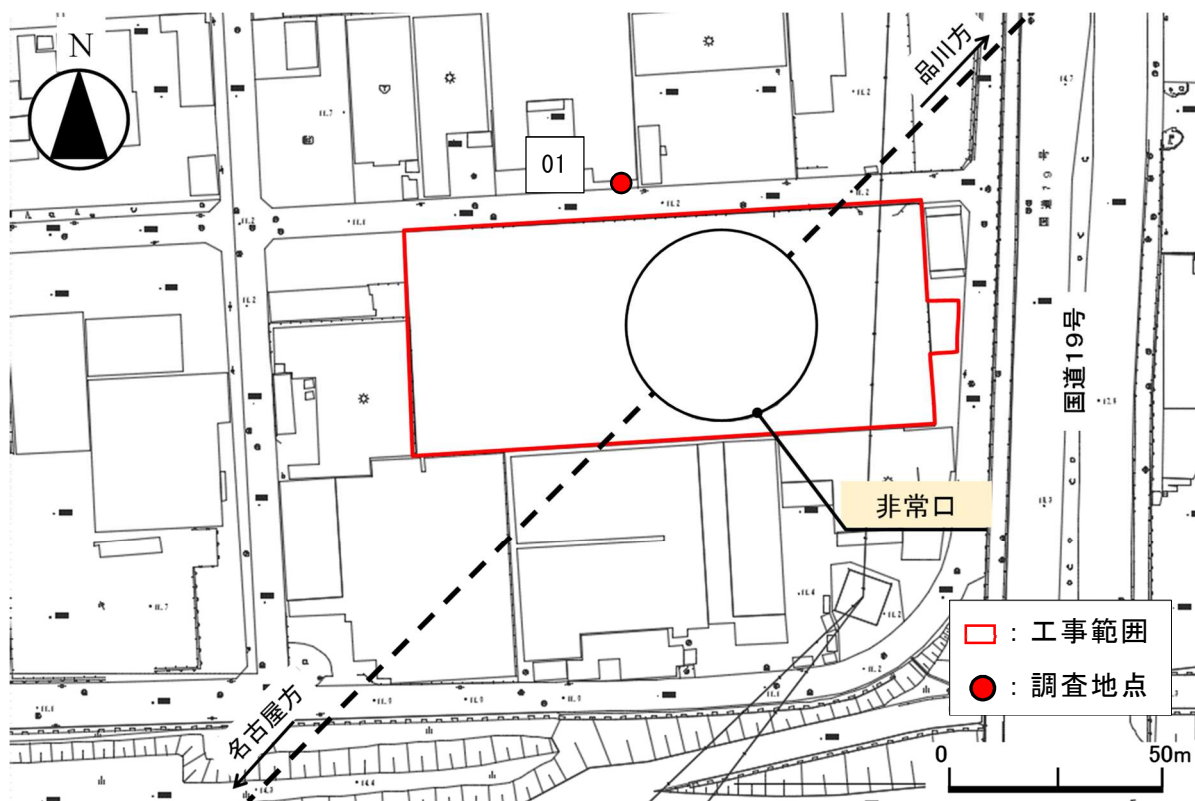
凡例

..... 計画路線（トンネル部）

----- 市区町村境

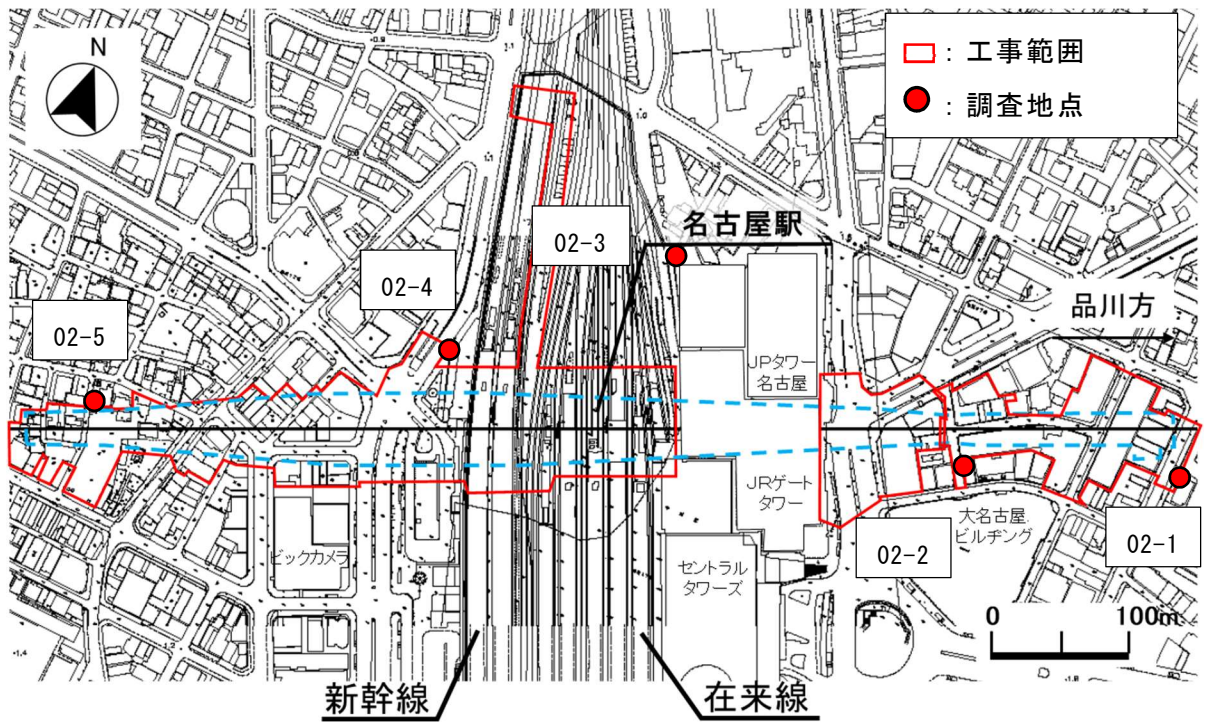
● 調査地点

図 3-5-1-3-1 (1) 調査地点（地盤沈下）



・本図は自社の測量成果物を用いている。

図 3-5-1-3-1 (2) 調査地点 (地点番号:01)



・本図は自社の測量成果物を用いている。

図 3-5-1-3-1 (4) 調査地点 (地点番号:02)

3-5-1-4 調査期間

調査期間は、表 3-5-1-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-1-4-1 (1) 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01※	工事完了後	2025年4月15日 2025年5月15日	月1回
02-1	工事中	2025年4月17日 2025年5月21日 2025年6月18日 2025年7月16日 2025年8月20日 2025年9月17日 2025年10月17日 2025年11月18日 2025年12月18日 2026年1月15日 2026年2月13日 2026年3月12日	月1回
02-2	工事中	2025年4月22日 2025年5月20日 2025年6月20日 2025年7月22日 2025年8月20日 2025年9月19日 2025年10月20日 2025年11月20日 2025年12月19日 2026年1月20日 2026年2月19日 2026年3月19日	月1回
02-3	工事中	2025年4月4日 2025年5月7日 2025年6月2日 2025年7月4日 2025年8月6日 2025年9月9日 2025年10月3日 2025年11月7日 2025年12月5日 2026年1月9日 2026年2月6日 2026年3月6日	月1回

※工事完了（2024年5月）以降、地盤の高さが安定していることを確認し、2025年5月に調査を完了した。

表 3-5-1-4-1 (2) 調査期間

地点番号	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
02-4	工事中	2025年4月22日 2025年5月29日 2025年6月18日 2025年7月25日 2025年8月29日 2025年9月25日 2025年10月24日 2025年11月21日 2025年12月16日 2026年1月15日 2026年2月26日 2026年3月31日	月1回
02-5	工事中	2025年4月25日 2025年5月30日 2025年6月30日 2025年7月25日 2025年8月29日 2025年9月26日 2025年10月31日 2025年11月28日 2025年12月26日 2026年1月30日 2026年2月27日 2026年3月27日	月1回

3-5-1-5 調査結果

調査結果は、図 3-5-1-5-1 に示すとおりである。なお、図 3-5-1-5-1 に示す地盤高は東京湾平均海面（T.P.）を0mとした場合の高さを示す。

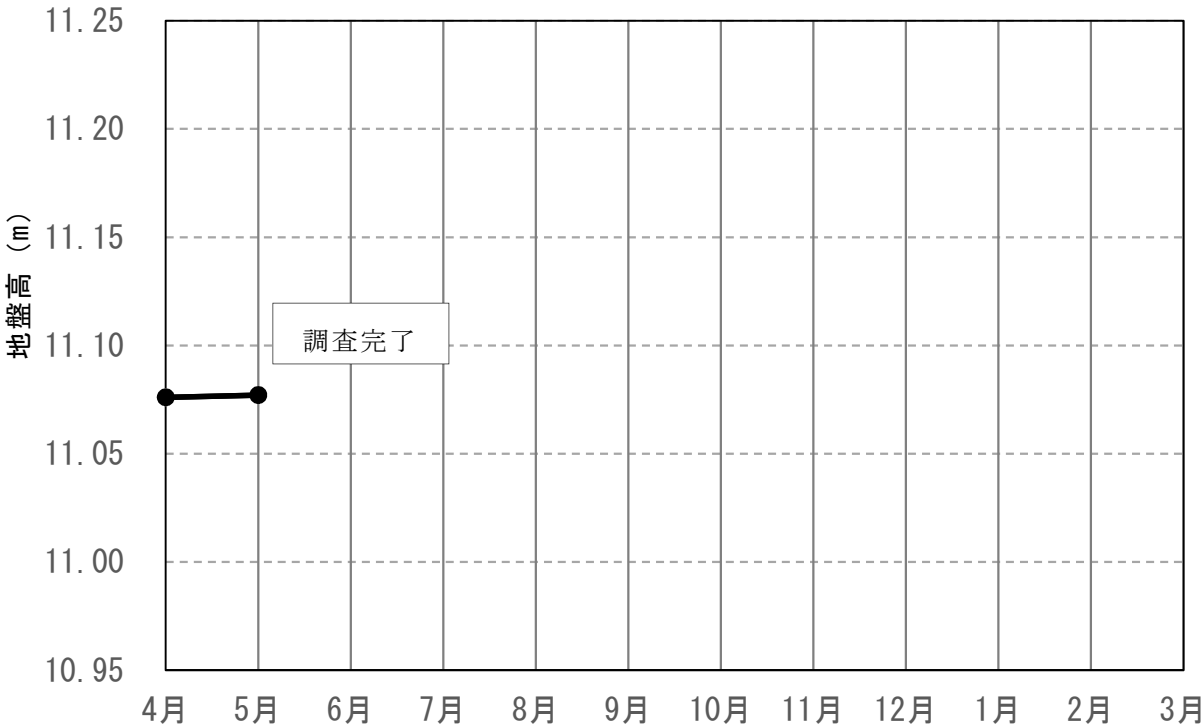


図 3-5-1-5-1 (1) 調査結果 (地点番号:01)

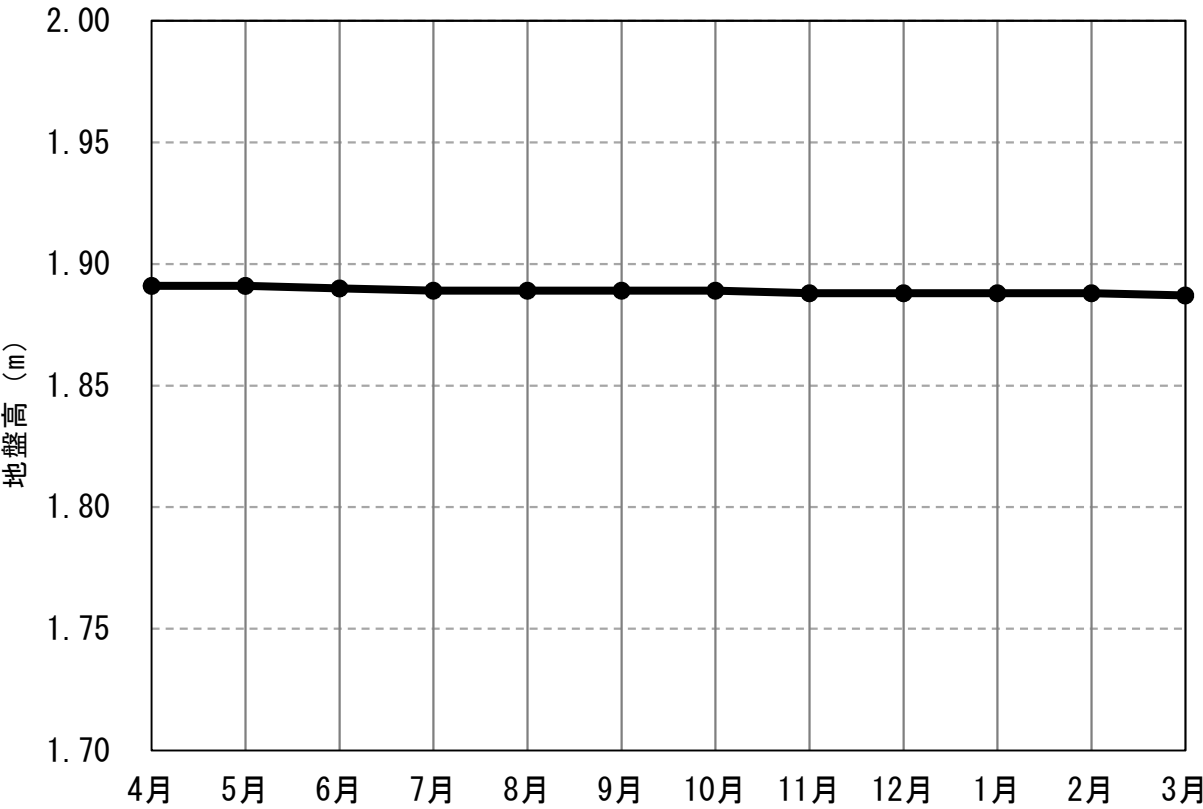


図 3-5-1-5-1 (2) 調査結果 (地点番号:02-1)

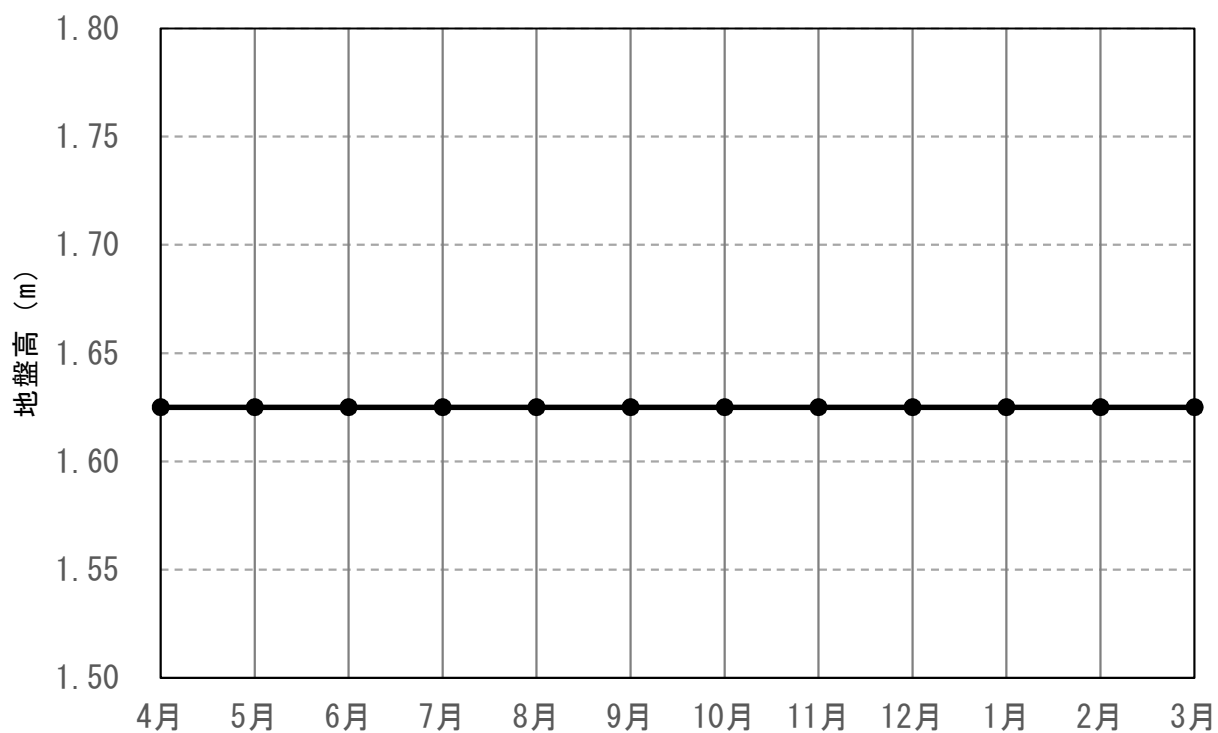


図 3-5-1-5-1 (3) 調査結果 (地点番号:02-2)

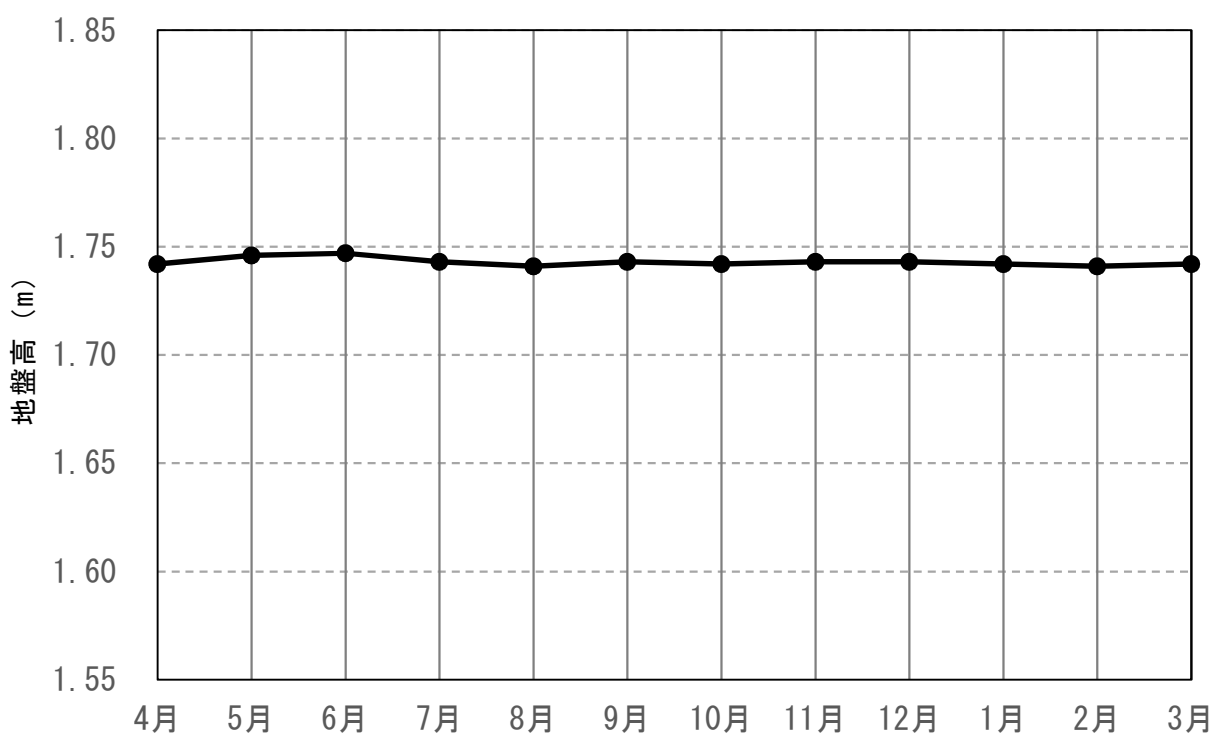


図 3-5-1-5-1 (4) 調査結果 (地点番号:02-3)

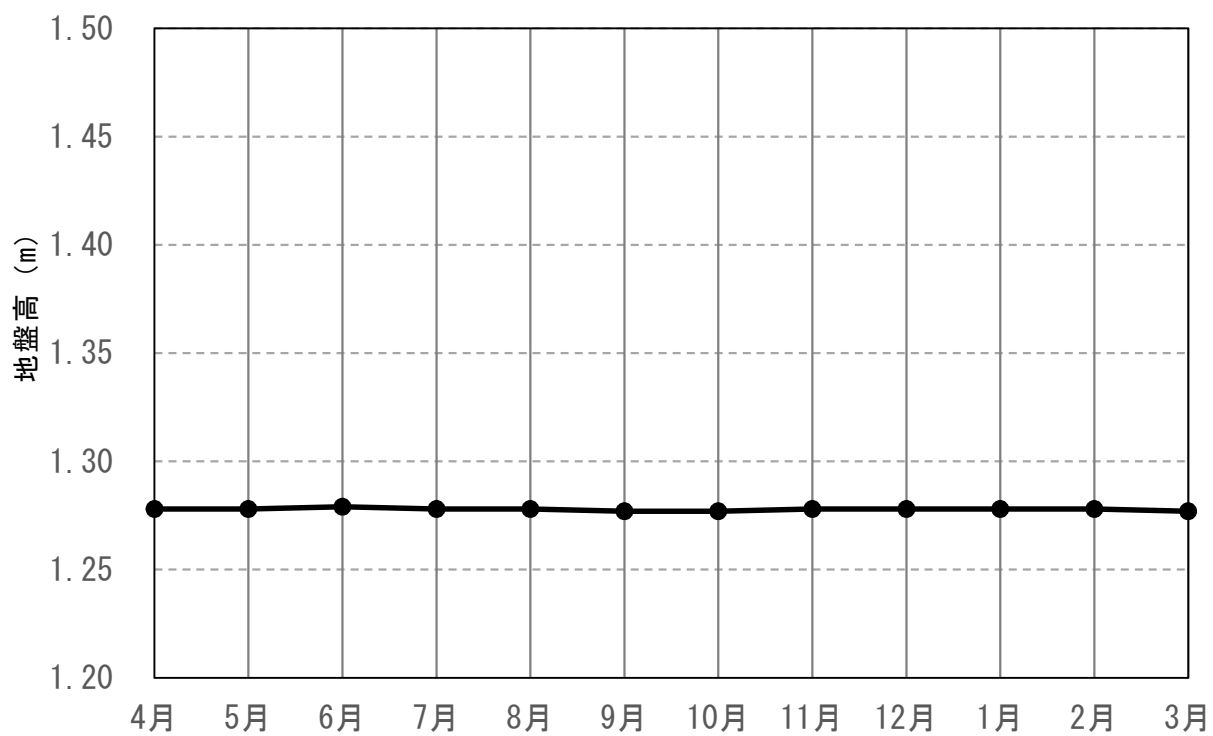


図 3-5-1-5-1 (5) 調査結果 (地点番号:02-4)

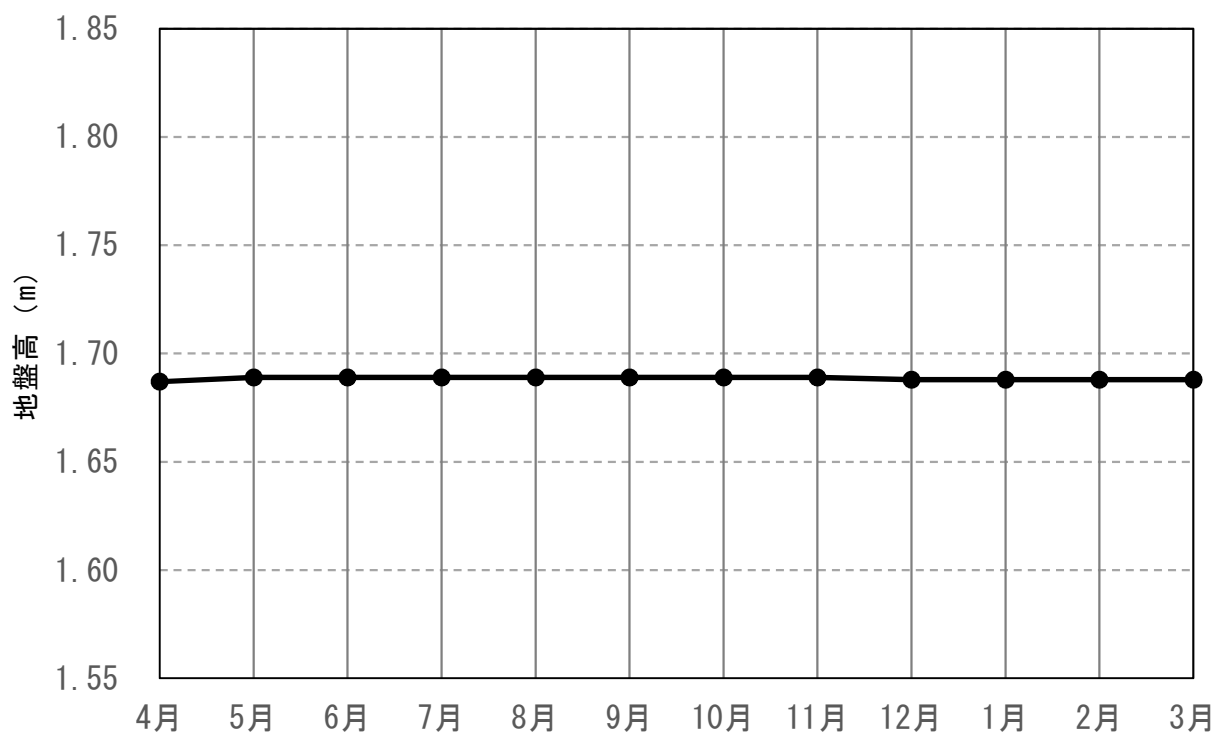


図 3-5-1-5-1 (6) 調査結果 (地点番号:02-5)

3-5-2 亜炭採掘跡付近のモニタリング

第一中京圏トンネル（坂下西工区）においては、亜炭採掘跡が存在すると想定される区間をシールド工法により掘進する計画であり、トンネル端部から40mの範囲の公道において地盤沈下のモニタリングを実施した。

3-5-2-1 調査項目

調査項目は、地盤の高さとした。

3-5-2-2 調査方法

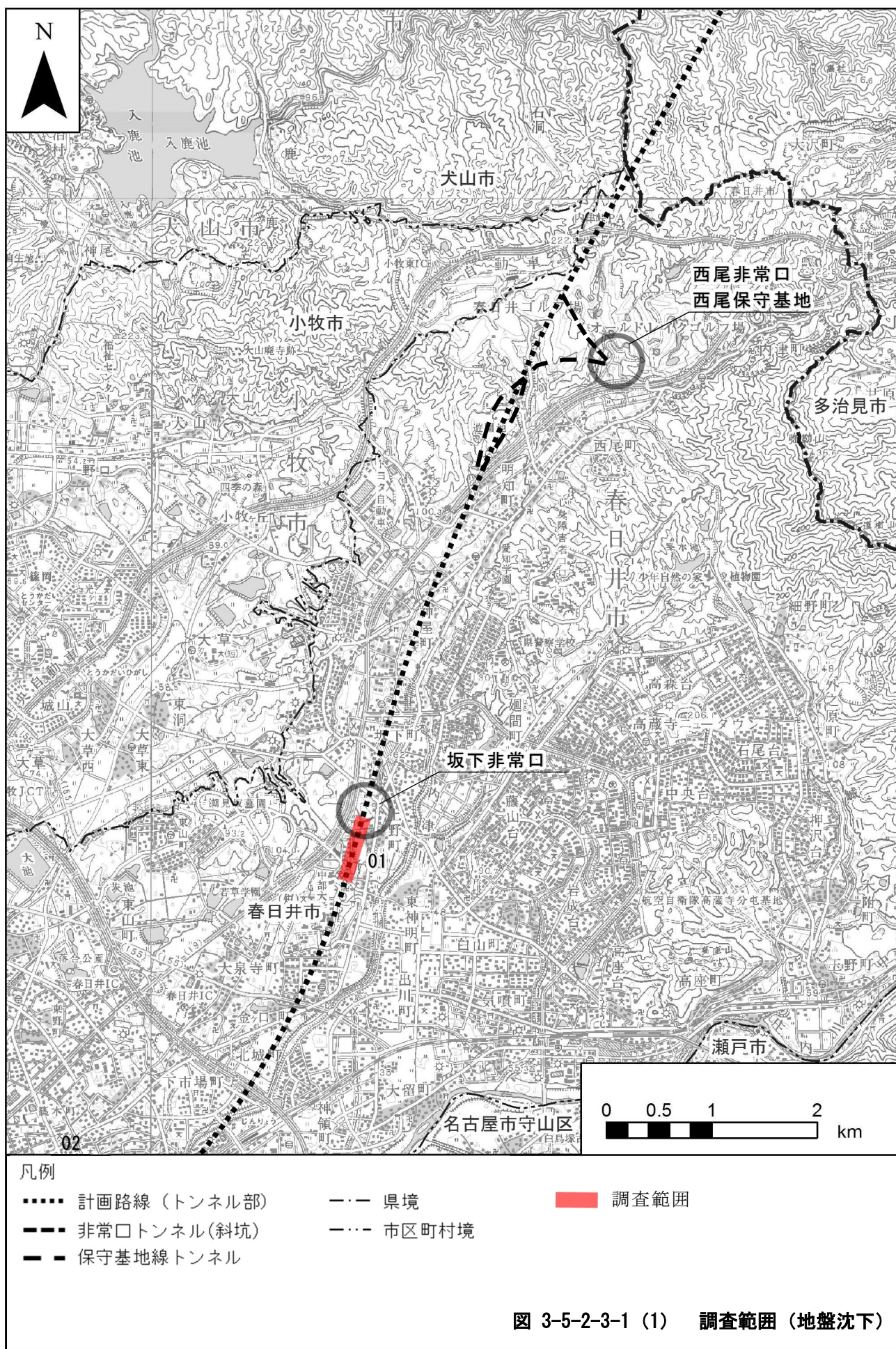
調査方法は、工事前にトンネル沿線上の道路に設置した測量標を用いた水準測量とした。

3-5-2-3 調査範囲

調査範囲は、表 3-5-2-3-1 及び図 3-5-2-3-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-3-1 調査範囲

地点番号	市区名	所在地	実施箇所
01	春日井市	上野町～東神明町	第一中京圏トンネル (坂下西工区)



3-5-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-5-2-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-4-1 (1) 調査期間

地点番号		実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	測線 1	工事前	2024 年 1 月 17 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年 2 月29日から 2024年10月 8 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 7 月 30 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 2	工事前	2024 年 7 月 12 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年 8 月 8 日から 2024年10月25日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 8 月 6 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 3	工事前	2024 年 7 月 24 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年 8 月30日から 2025年 8 月 4 日まで	トンネル通過中は 1 回/日＊（休工日除く）
		工事後	2025 年 8 月 29 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 4	工事前	2024 年 8 月 19 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年 9 月16日から 2025年 8 月 6 日まで	トンネル通過中は 1 回/日＊（休工日除く）
		工事後	2025 年 10 月 6 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 5	工事前	2024 年 8 月 30 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年10月 2 日から 2025年 8 月20日まで	トンネル通過中は 1 回/日＊（休工日除く）
		工事後	2025 年 10 月 10 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 6	工事前	2024 年 9 月 18 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年 7 月 2 日から 2025年 8 月28日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 10 月 17 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 7	工事前	2024 年 9 月 11 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年10月14日から 2025年10月14日まで	トンネル通過中は 1 回/日＊（休工日除く）
		工事後	2025 年 10 月 30 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 8	工事前	2025 年 7 月 1 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年 8 月18日から 2025年10月21日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 11 月 6 日	トンネル通過後に 1 回

※ 坂下西工区の調査掘進終了（2024 年 10 月）から本格的な掘進開始（2025 年 6 月）までのトンネル掘進を行っていない期間は、計測頻度を 1 回/週として実施した。

表 3-5-2-4-1 (2) 調査期間

地点番号		実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	測線 9	工事前	2025 年 8 月 2 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年 8 月28日から 2025年11月 1 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 11 月 21 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 10	工事前	2024 年 8 月 21 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2024年 9 月18日から 2025年10月16日まで	トンネル通過中は 1 回/日※（休工日除く）
		工事後	2025 年 11 月 3 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 11	工事前	2025 年 7 月 2 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年 8 月19日から 2025年10月24日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 11 月 18 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 12	工事前	2025 年 8 月 2 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年 8 月29日から 2025年11月 4 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 11 月 26 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 13	工事前	2025 年 8 月 26 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年10月14日から 2025年12月 3 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2025 年 12 月 19 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 14	工事前	2025 年 10 月 16 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年11月 3 日から 2026年 1 月 7 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2026 年 1 月 27 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 15	工事前	2025 年 10 月 21 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年11月 6 日から 2026年 1 月 6 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2026 年 1 月 27 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 16	工事前	2025 年 11 月 3 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年11月24日から 2026年 1 月23日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2026 年 2 月 25 日	トンネル通過後に 1 回
	測線 17	工事前	2025 年 11 月 3 日	トンネル通過前に 1 回
		工事中	2025年11月21日から 2026年 2 月 5 日まで	トンネル通過中は 1 回/日（休工日除く）
		工事後	2026 年 3 月 4 日	トンネル通過後に 1 回

※ 坂下西工区の調査掘進終了（2024 年 10 月）から本格的な掘進開始（2026 年 6 月）のトンネル掘進を行っていない期間は、計測頻度を週 1 回として実施した。

3-5-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-5-2-5-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-5-1 調査結果（地点番号：01）

地点番号		最大鉛直変位※	最大傾斜角※	目安値
01	測線 1	±1mm	0.1/1000rad	1/1000rad
	測線 2	±1mm	0.2/1000rad	
	測線 3	-2mm	0.2/1000rad	
	測線 4	+2mm	0.2/1000rad	
	測線 5	-1mm	0.1/1000rad	
	測線 6	±1mm	0.1/1000rad	
	測線 7	-2mm	0.2/1000rad	
	測線 8	-2mm	0.2/1000rad	
	測線 9	-2mm	0.1/1000rad	
	測線 10	±1mm	0.2/1000rad	
	測線 11	-2mm	0.2/1000rad	
	測線 12	-2mm	0.2/1000rad	
	測線 13	±1mm	0.1/1000rad	
	測線 14	±2mm	0.2/1000rad	
	測線 15	±2mm	0.3/1000rad	
	測線 16	-2mm	0.2/1000rad	
	測線 17	±1mm	0.1/1000rad	

※ 各測線の調査期間において、工事前に比べて変化した量のうち最も大きく算出された値を示している。

3-6 土壌汚染

工事実施箇所における発生土に係る土壌汚染について、工事中のモニタリングを実施した。

3-6-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び酸性化可能性）とした。

3-6-2 調査方法

調査方法は、表 3-6-2-1 に示すとおりである。

表 3-6-2-1 調査方法

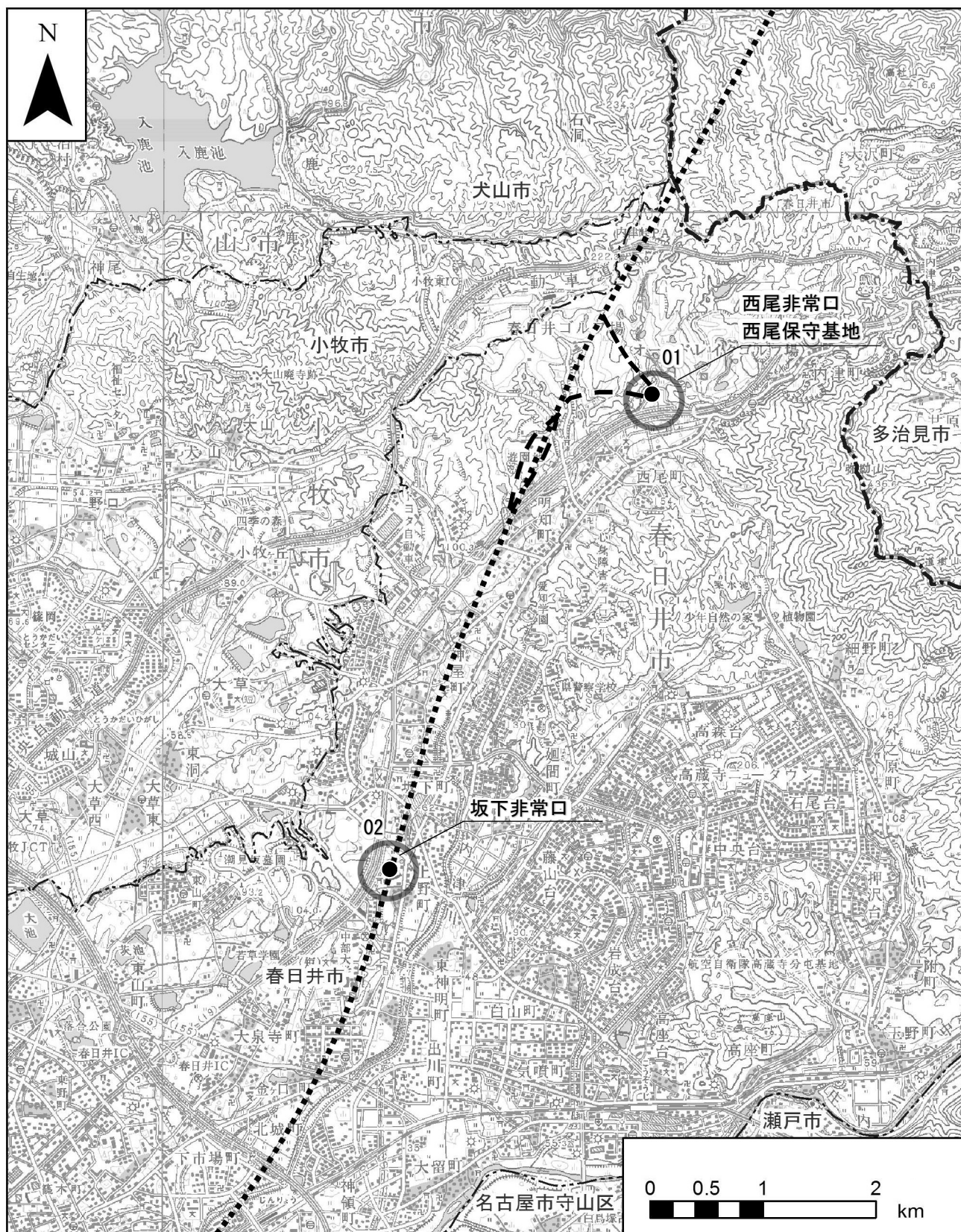
調査項目	地点番号	調査方法
土壌溶出量 (自然由来の重金属等)	01、02、03	「土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件」(平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 18 号)
	03、04	「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする廃棄物に含まれる金属等の検定方法」(昭和 48 年 2 月 17 日、環境庁告示第 14 号)
土壌含有量 (自然由来の重金属等)	03	「土壌含有量調査に係る測定方法を定める件」(平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 19 号)
酸性化可能性 pH(H ₂ O ₂)	01	過酸化水素水による土及び岩石の酸性化可能性試験方法 (JGS 0271-2016)

3-6-3 調査地点

調査地点は、表 3-6-3-1 及び図 3-6-3-1 に示すとおりである。

表 3-6-3-1 調査地点

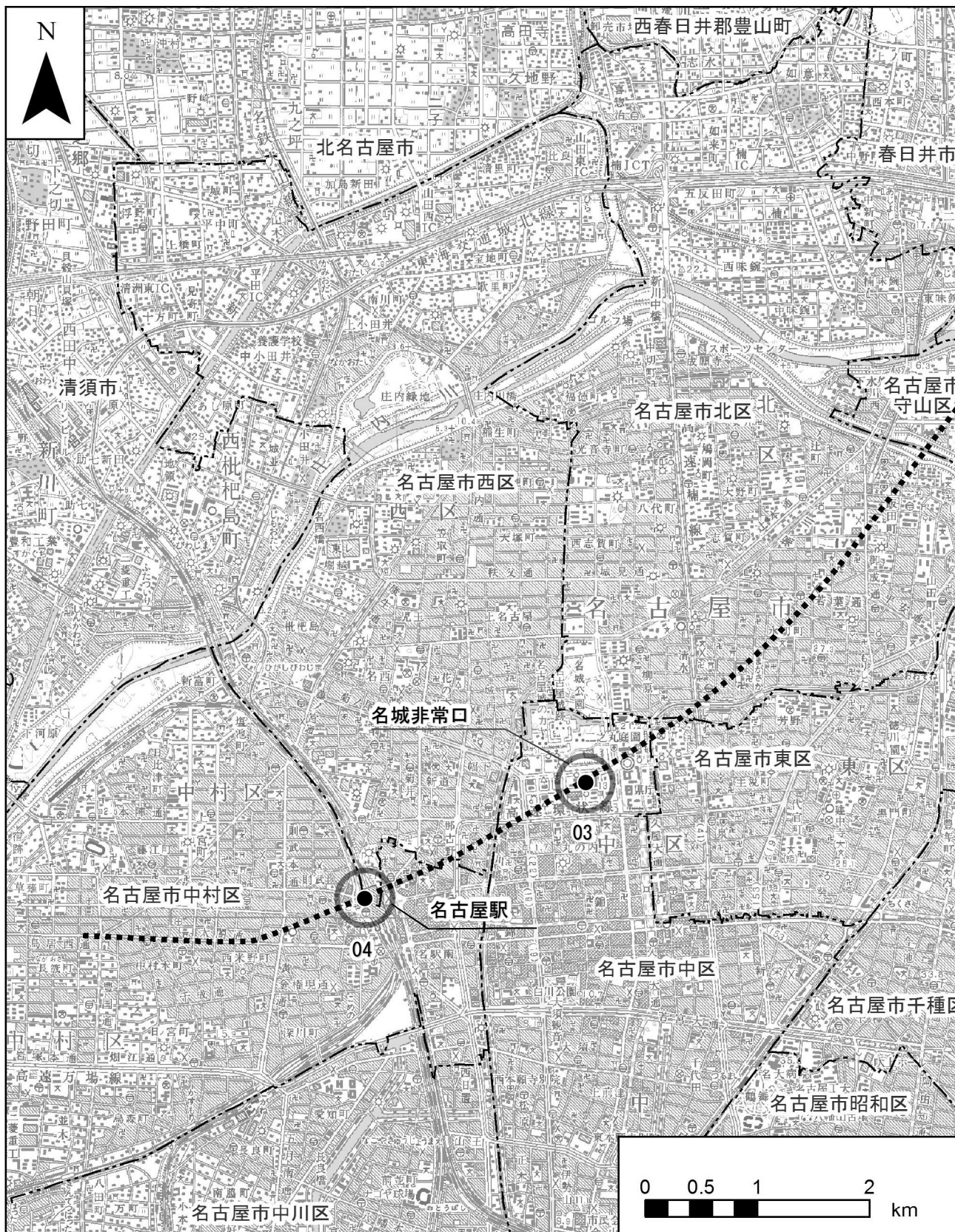
地点番号	市区名	所在地	実施箇所
01	春日井市	西尾町	西尾非常口 西尾保守基地
02	春日井市	坂下町	第一中京圏トンネル (坂下西工区)
03	名古屋市 中区	三の丸	第一中京圏トンネル (名城工区)
04	名古屋市 中村区	名駅	名古屋駅



凡例

- 計画路線 (トンネル部)
- 非常口トンネル (斜坑)
- 保守基地線トンネル
- 県境
- 市区町村境
- 調査地点

図 3-6-3-1 (1) 調査地点 (土壌汚染)



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

--- 県境

● 調査地点

--- 市区町村境

図 3-6-3-1 (2) 調査地点（土壌汚染）

3-6-4 調査期間

調査期間は、表 3-6-4-1 に示すとおりである。

表 3-6-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	調査期間
01	土壌溶出量 酸性化可能性	2025年4月1日～2026年3月31日
02	土壌溶出量	2025年6月30日～2026年3月31日
03	土壌溶出量 土壌含有量	2021年8月27日※ ¹ 、2025年1月8日※ ² 、4月16日
04	土壌溶出量	2025年1月7日※ ² 、1月20日※ ² 、4月3日、4月24日、5月8日、5月13日、11月4日、11月12日、12月17日、2026年2月6日、2月9日

※1 掘進に先立ち実施したボーリングにより採取した試料を用いて調査した。

※2 2025 年度に搬出した試料を掲載している。

3-6-5 調査結果

調査結果は、表 3-6-5-1 及び表 3-6-5-2 に示すとおりである。

地点番号 01 においては、土壌汚染対策法に定める基準値を超える土は確認されなかった。

また、2025 年 7 月、2026 年 3 月に「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」（令和 5 年 3 月 29 日、建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル改訂委員会）において長期的な酸性化可能性のある値として定められた pH3.5 以下の土が確認された。

トンネル掘削による発生土は土壌汚染対策法の対象外であるが、調査の結果、基準不適合となった発生土については、土壌汚染対策法や「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」等を参考に適切に処置した。

なお、測定は日毎に実施しているが、自然由来の重金属等の調査結果は当該月における最大値、酸性化可能性の調査結果は当該月における最小値を記載した。

その他、「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」に示された、短期溶出試験の検液の pH 試験を実施した結果、pH が 4.0 以下の酸性を示すものは確認されなかった。

地点番号 02 及び 03、04 においては、全ての調査項目で受入先基準に適合することを確認した。なお、調査結果は当該月における最大値を記載した。

表 3-6-5-1 (1) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号:01）

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価 クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
基準値	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1.0
2025年 4 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.004	0.09	<0.1
2025年 5 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.003	0.09	<0.1
2025年 6 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.007	<0.08	<0.1
2025年 7 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.004	<0.08	<0.1
2025年 8 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.009	<0.08	<0.1
2025年 9 月	<0.0003	0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.002	0.13	<0.1
2025年10月	<0.0003	0.009	<0.00005	<0.001	<0.001	0.003	<0.08	<0.1
2025年11月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.005	<0.08	<0.1
2025年12月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	<0.08	<0.1
2026年 1 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.004	<0.08	<0.1
2026年 2 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.003	<0.08	<0.1
2026年 3 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.004	<0.08	<0.1

・「<」は未満を示す。

表 3-6-5-1 (2) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号:02）

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価 クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
受入先基準値02	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1.0
2025年 6 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	0.20	<0.1
2025年 7 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	<0.08	<0.1
2025年 8 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	0.001	0.08	<0.1
2025年10月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	0.09	<0.1
2025年11月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	0.17	<0.1
2025年12月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	0.14	<0.1
2026年 1 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2026年 2 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1
2026年 3 月	<0.0003	<0.005	<0.00005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.08	<0.1

・「<」は未満を示す。

・2025年4、5、9月はトンネル掘削を行っていないため調査をしていない。

表 3-6-5-1 (3) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号:03）

調査時期	カドミウム (mg/L)	六価 クロム (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
受入先基準値03-①	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1.0
2021年 8 月	0.0003	<0.01	<0.0005	0.007	0.009	0.002	0.14	<0.1

・「<」は未満を示す。

・掘削前に採取した試料を用いて調査した。

表 3-6-5-1 (4) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号:03）

調査時期	カドミウム※ (mg/L)	六価 クロム※ (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)
受入先基準値03-②	0.03	0.2	0.005	0.1	0.1	0.1	15
2025年1月	<0.003	<0.04	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
2025年4月	<0.01	<0.02	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。（2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L）

- ・「<」は未満を示す。
- ・2025年1月について、2025年度に搬出した試料を掲載している。

表 3-6-5-1 (5) 自然由来の重金属等の溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号:04）

調査時期	カドミウム※ (mg/L)	六価 クロム※ (mg/L)	水銀 (mg/L)	セレン (mg/L)	鉛 (mg/L)	ヒ素 (mg/L)	ふっ素 (mg/L)
受入先基準値04	0.03	0.2	0.005	0.1	0.1	0.1	15
2025年1月	<0.01	<0.04	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	0.4
2025年4月	<0.005	<0.04	<0.0005	<0.01	<0.02	0.006	0.53
2025年5月	<0.01	<0.04	<0.0005	0.02	<0.01	<0.01	1.0
2025年11月	<0.005	<0.04	<0.0005	<0.01	<0.02	<0.01	0.2
2025年12月	<0.003	<0.02	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<1.5
2026年2月	<0.003	<0.02	<0.0005	<0.01	<0.01	0.01	<1.5

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。（2025年10月以前、カドミウムは0.10 mg/L、六価クロムは0.50 mg/L）

- ・「<」は未満を示す。
- ・2025年1月について、2025年度に搬出した試料を掲載している。

表 3-6-5-1 (6) 自然由来の重金属等の含有量試験結果（月別最大値）（地点番号:03）

調査時期	カドミウム (mg/kg)	六価 クロム (mg/kg)	水銀 (mg/kg)	セレン (mg/kg)	鉛 (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	ふっ素 (mg/kg)	ほう素 (mg/kg)
受入先基準値03	45	250	15	150	150	150	4,000	4,000
2021年8月	<4	<5	<0.05	<5	10	<5	<50	<50

- ・「<」は未満を示す。
- ・掘削前に採取した試料を用いて調査した。

表 3-6-5-2 酸性化可能性試験結果（月別最小値）（地点番号:01）

調査期間	pH(H ₂ O ₂)
参考値※	3.5
2025年 4 月	10.5
2025年 5 月	10.5
2025年 6 月	8.6
2025年 7 月	3.3
2025年 8 月	8.9
2025年 9 月	7.2
2025年10月	9.2
2025年11月	9.9
2025年12月	10.1
2026年 1 月	8.9
2026年 2 月	4.7
2026年 3 月	2.4

※「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」（令和 5 年 3 月）に示されている参考値であり、pH(H₂O₂)が 3.5 以下のものを長期的な酸性化の可能性があると評価する。

3-7 生態系（湿地に生育する注目種）

山岳トンネル区間において、評価書【愛知県】（資料編）の「15-2 山岳トンネル上部における湿地環境の調査結果」に記載した5箇所の湿地のうち、指標となる植物の種の生育状況を踏まえ、一定の地域の単位で調査地点を選定し、モニタリングを実施した。

3-7-1 調査項目

調査項目は、植物（高等植物に係る植物相、蘚苔類）、水質、湿地環境とした。

3-7-2 調査方法

調査方法は、表 3-7-2-1 に示すとおりである。

表 3-7-2-1 調査方法

調査項目	調査方法		調査期間
高等植物に係る植物相	現地調査 任意確認	調査地域内を任意に踏査し、確認された種を記録した。調査の対象はシダ植物以上の高等植物とし、現地での同定が困難な種は写真又は標本を持ち帰り、室内で同定を行った。	・トンネル通過前、「注目種」の確認適季毎に1回 ・トンネル通過後3年間、毎年「注目種」の確認適季毎に1回 ※水質は、確認適季のうち、毎年1回とする。
蘚苔類	現地調査	調査地域内を踏査し、目視により確認を行った。現地での同定が困難な場合は写真又は標本を持ち帰り、室内で同定を行った。	
水質	現地調査	水温	
	室内分析	pH、電気伝導率 マグネシウムイオン、カルシウムイオン、ナトリウムイオン、カリウムイオン、硫酸イオン、塩素イオン、重炭酸イオン	
湿地環境	任意観察	調査地域内の湿地状況を把握するため、湿地景観の写真撮影、水位及び植生の任意確認を行った。	

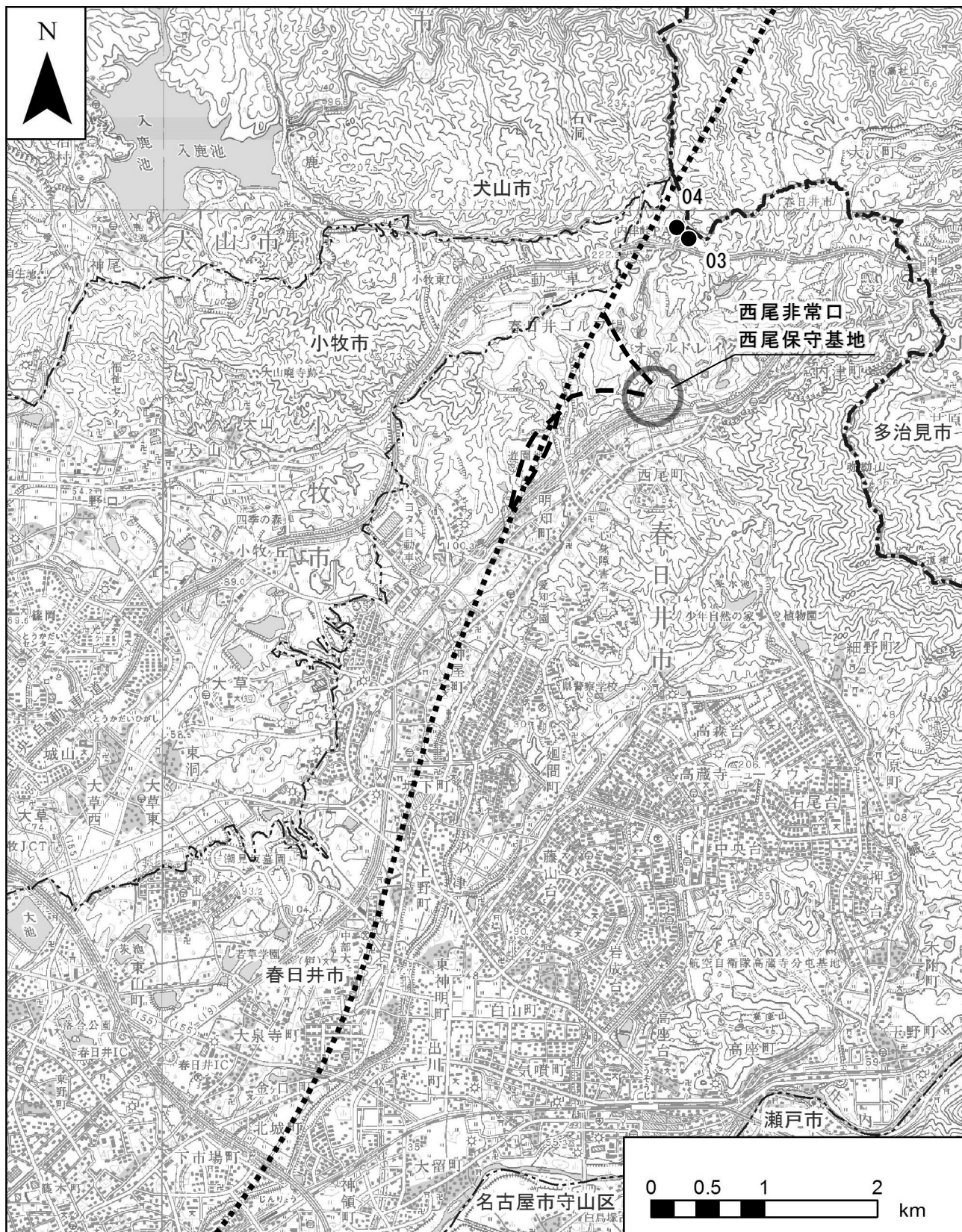
3-7-3 調査地点

5箇所の湿地のうち、東海地方の典型的な湧水湿地に出現しやすい種から注目種を選んだ上で、重要な種の確認状況、植物相の遷移段階、現地の状況、分布状況等を考慮し、注目種が確認されている湿地を基本に調査地点を選定した。2025年度の現地調査地点は、工事の実施状況を踏まえ、表 3-7-3-1 及び図 3-7-3-1 に示す地点とした。

表 3-7-3-1 調査地点

地点番号	市区名	外観	規模	注目種※
湿地03	春日井市	沢沿いの湿地	7 m×90m	シデコブシ、 ヘビノボラズ、 トウカイコモウセンゴケ
湿地04	春日井市	丘陵地内の裸地上の湧水湿地	15m×25m	

※注目種は専門家の意見を踏まえ東海地方の典型的な湧水湿地に出現しやすい湿性種から選定した。



凡例

- 計画路線（トンネル部）
- 非常口トンネル（斜坑）
- . - 保守基地線トンネル

- - - 県境
- . . 市区町村境

- 調査地点

図3-7-3-1

調査地点（生態系）

3-7-4 調査期間

調査期間は、表 3-7-4-1 に示すとおりである。

2024 年度までは早春季、夏季に計 2 回調査を行っていたが、2025 年 3 月の早春季調査にて湿地 03、04 において水位の低下を確認したため、2025 年度については、早春季、夏季に加えて、春季、秋季を追加し、計 4 回調査を実施している。

表 3-7-4-1 調査期間

調査項目	調査方法	調査日		備考
高等植物に係る植物相、蘚苔類	現地調査 任意採取	早春季	2025年 3 月 27 日	トンネル 通過後
		春季	2025年 4 月 24 日	
		夏季	2025年 6 月 4 日	
		秋季	2025年 9 月 22 日	
水質	現地調査 室内分析	夏季	2025年 9 月 22 日	
湿地環境	任意観察	早春季	2025年 3 月 27 日	
		春季	2025年 4 月 24 日	
		夏季	2025年 6 月 4 日	
		秋季	2025年 9 月 22 日	

3-7-5 調査結果

調査結果は、以下に示すとおりである。

(1)植物

現地調査において 46 科 93 種の植物を確認した。また、確認された重要な植物は 5 科 6 種であった。現地で確認された重要な植物を表 3-7-5-1 に示す。

「湿地 03」においては、2 種の重要な植物を確認した。また、注目種としているシデコブシを確認した。

「湿地 04」においては、5 種の重要な植物を確認した。また、注目種としているシデコブシ、ヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケを確認した。

表 3-7-5-1 確認された重要な植物

No.	科名	種名	確認位置		選定基準									注目種
			湿地 03	湿地 04	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
1	モクレン	シデコブシ	○	○						NT	VU		○	○
2	メギ	ヘビノボラズ		○							NT		○	○
3	モウセンゴケ	トウカイコモウセンゴケ		○									○	○
4	ラン	サギソウ		○						NT	VU			
5	ミズゴケ	オオミズゴケ	○							NT	NT			
6		ハリミズゴケ		○							VU			
	5科	6種	2種	5種	0種	0種	0種	0種	0種	3種	5種	0種	3種	

- ・分類、配列などは原則として、「自然環境保全基礎調査 植物目録 1987」（昭和 62 年、環境庁）に準拠した。
- ・重要な種の選定基準は以下のとおりである。
 - ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
 - ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
 - ③「愛知県文化財保護条例」（昭和30年、愛知県）
「春日井市文化財保護条例」（昭和57年、春日井市）
県天：県指定天然記念物、市天：市指定天然記念物
 - ④「自然環境保全法」（昭和47年、法律第85号）
○：指定の地域
 - ⑤「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和48年、愛知県条例第 3 号）
「自然環境の保全を推進する条例」（平成24年、春日井市）
指定：指定希少野生動植物
 - ⑥「環境省レッドリスト2020 維管束植物、蕨苔類」（令和 2 年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
 - ⑦「レッドリストあいち2025」（令和 7 年、愛知県）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、
DD：情報不足、LP：地域個体群
 - ⑧「植物群落レッドデータ・ブック」（平成 8 年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会）
1：要注意、2：破壊の危惧、3：対策必要、4：緊急に対策必要
 - ⑨「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」（平成 19 年 3 月、愛知県）
○：東海丘陵要素植物群

(2) 水質

水質は、表 3-7-5-2 及び図 3-7-5-1 に示すとおりである。

表 3-7-5-2 調査結果（水質）

分析項目		単位	分析結果	
			湿地03	湿地04
調査日		－	9/22	9/22
水温		℃	21.6	26.2
水素イオン濃度(pH)		－	6.0	5.0
電気伝導率		mS/m	1.8	15
陽イオン	マグネシウムイオン	mg/L	0.35	0.73
	カルシウムイオン	mg/L	0.44	0.64
	ナトリウムイオン	mg/L	1.4	2.2
	カリウムイオン	mg/L	1.1	31
陰イオン	硫酸イオン	mg/L	0.7	4.2
	塩素イオン	mg/L	2.4	28
	重炭酸イオン(炭酸水素イオン)	mg/L	3.0	<2.0

・「<」は未満を示す。

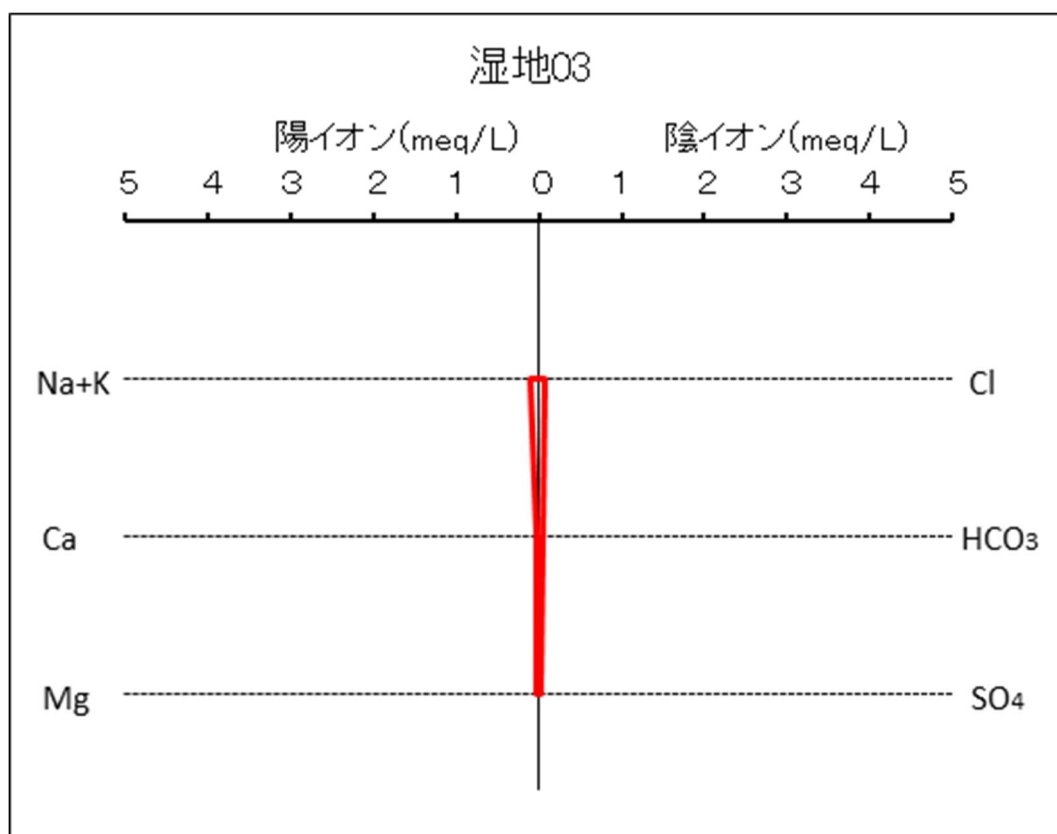


図 3-7-5-1 (1) ヘキサダイアグラム (湿地 03)

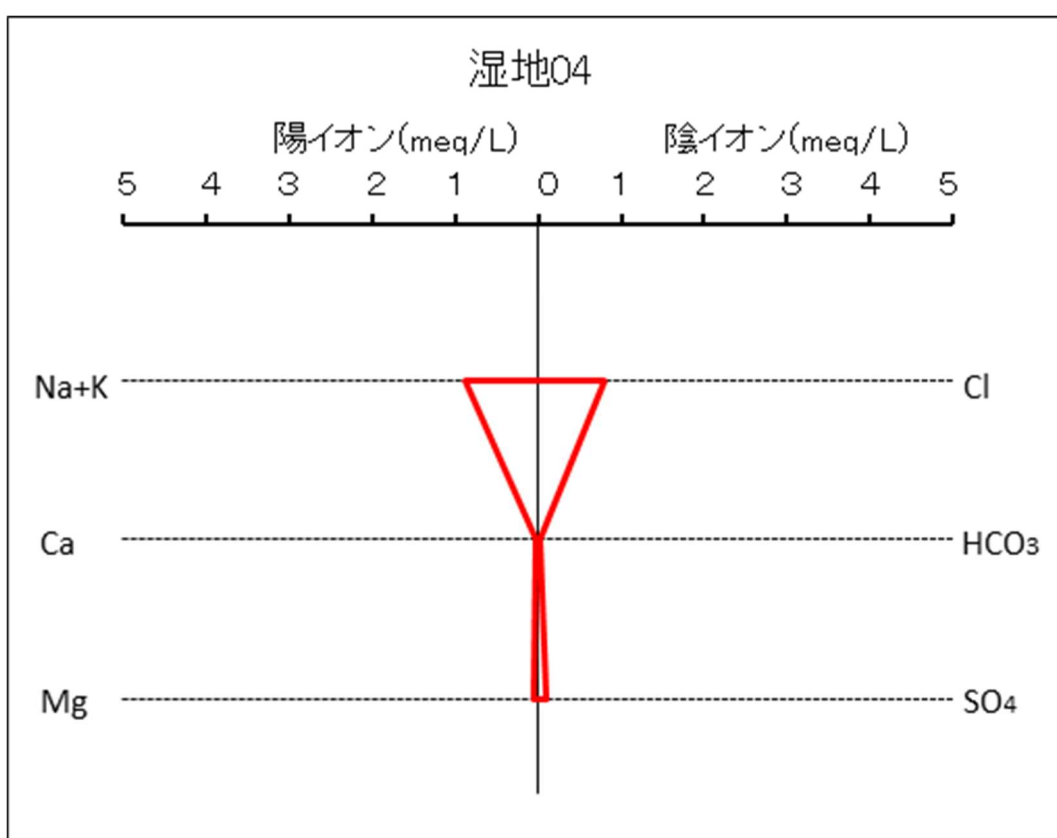


図 3-7-5-1 (2) ヘキサダイアグラム (湿地 04)

(3) 湿地環境

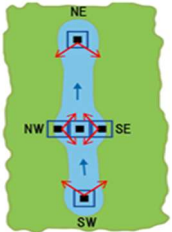
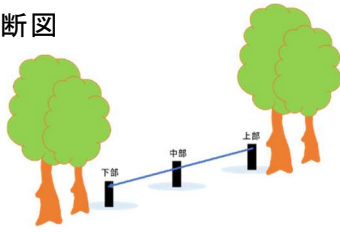
湿地環境の調査結果は表 3-7-5-3 に示すとおりである。

「湿地 03」の環境としては、丘陵地の谷部の流路沿いに形成する沼沢湿地で、湧水や雨水に起源をもつと考えられる水流によって形成された谷には、シデコブシやオオミズゴケなどの湿地性の植物が生育するが、流路を囲む斜面に、周辺の樹林を構成するコナラ、ツブラジイ等の乾性の立地に生育する樹種が生育していた。過年度調査と比較して生育種の構成および生育状況に大きな変化はみられなかった。また、上空の開空率は、湿地中心部では 2.75%（早春季から夏季の平均）であり、周辺部では 1.1～17.3%程度であった。水位は地表面から-2.0～-39.0cm の範囲であった。

「湿地 04」の環境としては、丘陵地上のなだらかな斜面に形成された湧水湿地で、湿地内及び近接部には、イヌツゲ、アカマツ等の樹木が見られるが、湿地の周辺には、周辺の樹林を構成するコナラ、クリ等の乾性の立地に生育する樹種が生育していた。過年度調査と比較して生育種の構成および生育状況に大きな変化はみられなかった。また、上空の開空率は、湿地中心部では約 49.78%（早春季と夏季の平均）であり、周辺部では 17.8～50.4%程度であった。水位は地表面から-2.0～-95.0cm の範囲であった。

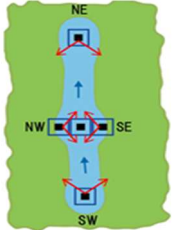
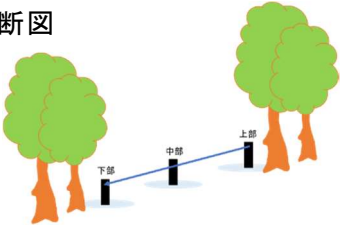
2025 年 3 月の早春期調査にて水位の低下を確認していたが、2025 年 4 月の春季調査、2025 年 6 月の夏季調査では水位の回復傾向を確認した。その後、2025 年 9 月にも水位の低下が見られたが、2026 年 3 月の早春季調査、2026 年 4 月の春季調査では水位の回復傾向を確認した。今後も引き続き湿地の状況を確認する。

表 3-7-5-3 (1) 湿地 03 の湿地環境

場所/季節	早春季	春季
斜面上部(北東側)	 開空率：17.3% 植 生：被度 1 ・ 群度 1 水 位：-39.0 cm	 開空率：2.6% 植 生：被度 1 ・ 群度 1 水 位：-10.0 cm
斜面北西側	 開空率：5.3% 植 生：被度 1 ・ 群度 1	 開空率：3.1% 植 生：被度 1 ・ 群度 1
斜面下部(南西側)	 開空率：9.0% 植 生：被度+ ・ 群度 1 水 位：-34.0 cm	 開空率：3.1% 植 生：被度+ ・ 群度 1 水 位：-29.0 cm
斜面南東側	 開空率：9.2% 植 生：被度 4 ・ 群度 3	 開空率：3.1% 植 生：被度 4 ・ 群度 3
中心部	開空率：5.7% 植 生：被度 2 ・ 群度 2 水 位：-19.0 cm	開空率：1.4% 植 生：被度 2 ・ 群度 2 水 位：-11.0 cm
概要図	平面図 	縦断図 

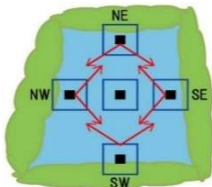
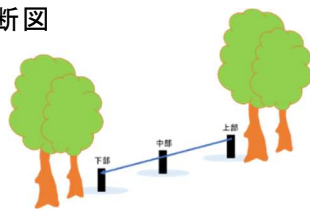
被度+・群度 1：地面を被覆する植物の度合いが少なく、単独で生えている。
 被度 1 ・ 群度 1：地面を被覆する植物の度合いが 1/10 以下で、単独で生えている。
 被度 2 ・ 群度 2：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群をなしている。
 被度 2 ・ 群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 3 ・ 群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/4～1/2 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 4 ・ 群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 4 ・ 群度 4：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、大きなまだら状または、カーペット状のあちこちに穴があいているような状態のもの。

表 3-7-5-3 (2) 湿地 03 の湿地環境

場所/季節	夏季	秋季
斜面上部(北東側)	 開空率：2.6% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：-2.0 cm	 開空率：2.1% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：-12.0 cm
斜面北西側	 開空率：1.2% 植 生：被度 1・群度 1	 開空率：1.1% 植 生：被度 1・群度 1
斜面下部(南西側)	 開空率：3.2% 植 生：被度 2・群度 3 水 位：-29.0 cm	 開空率：3.8% 植 生：被度 2・群度 2 水 位：-35.0 cm
斜面南東側	 開空率：1.8% 植 生：被度 4・群度 4	 開空率：1.9% 植 生：被度 4・群度 4
中心部	開空率：2.8% 植 生：被度 3・群度 3 水 位：-10.5 cm	開空率：1.1% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：-23.0 cm
概要図	平面図  縦断図 	

被度十・群度 1：地面を被覆する植物の度合いが少なく、単独で生えている。
 被度 1・群度 1：地面を被覆する植物の度合いが 1/10 以下で、単独で生えている。
 被度 2・群度 2：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群をなしている。
 被度 2・群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 3・群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/4～1/2 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 4・群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 4・群度 4：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、大きなまだら状または、カーペット状のあちこちに穴があいているような状態のもの。

表 3-7-5-3(3) 湿地 04 の湿地環境

場所/季節	早春季※	春季
斜面上部(北東側)	 開空率：42.8% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：確認できず	 開空率：35.7% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：-12.0 cm
斜面北西側	 開空率：30.5% 植 生：被度 1・群度 1	 開空率：27.2% 植 生：被度 1・群度 1
斜面下部(南西側)	 開空率：50.4% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：確認できず	 開空率：47.6% 植 生：被度 1・群度 1 水 位：-19.0 cm
斜面南東側	 開空率：22.3% 植 生：被度 2・群度 3	 開空率：30.9% 植 生：被度 2・群度 3
中心部	開空率：53.7% 植 生：被度＋・群度 1 水 位：確認できず	開空率：52.0% 植 生：被度＋・群度 1 水 位：-14.0 cm
概要図	平面図 	縦断図 

※湿地 04 の早春季については、計測は実施したものの、水位の低下により明確な水位は確認できなかった。

被度＋・群度 1：地面を被覆する植物の度合いが少なく、単独で生えている。

被度 1・群度 1：地面を被覆する植物の度合いが 1/10 以下で、単独で生えている。

被度 2・群度 2：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群をなしている。

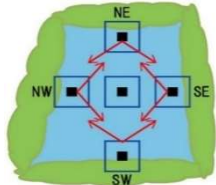
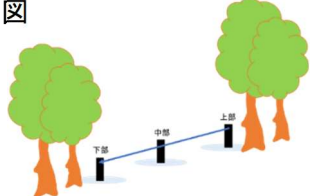
被度 2・群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群のまだら状をなしている。

被度 3・群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/4～1/2 で、小群のまだら状をなしている。

被度 4・群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、小群のまだら状をなしている。

被度 4・群度 4：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、大きなまだら状または、カーペット状のあちこちに穴があいているような状態のもの。

表 3-7-5-3(4) 湿地 04 の湿地環境

場所/季節	夏季	秋季
斜面上部(北東側)	 開空率：35.9% 植 生：被度 1 ・ 群度 1 水 位：-2.0 cm	 開空率：40.2% 植 生：被度 1 ・ 群度 1 水 位：-95.0 cm
斜面北西側	 開空率：19.3% 植 生：被度 4 ・ 群度 4	 開空率：32.5% 植 生：被度 4 ・ 群度 4
斜面下部(南西側)	 開空率：46.9% 植 生：被度 1 ・ 群度 1 水 位：-6.5 cm	 開空率：48.1% 植 生：被度 1 ・ 群度 1 水 位：-40.0 cm
斜面南東側	 開空率：17.8% 植 生：被度 3 ・ 群度 3	 開空率：18.9% 植 生：被度 4 ・ 群度 4
中心部	開空率：45.1% 植 生：被度 + ・ 群度 1 水 位：-7.5 cm	開空率：48.3% 植 生：被度 + ・ 群度 1 水 位：-58.0 cm
概要図	平面図 	縦断面図 

被度 + ・ 群度 1：地面を被覆する植物の度合いが少なく、単独で生えている。
 被度 1 ・ 群度 1：地面を被覆する植物の度合いが 1/10 以下で、単独で生えている。
 被度 2 ・ 群度 2：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群をなしている。
 被度 2 ・ 群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/10～1/4 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 3 ・ 群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/4～1/2 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 4 ・ 群度 3：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、小群のまだら状をなしている。
 被度 4 ・ 群度 4：地面を被覆する植物の度合いが 1/2～3/4 で、大きなまだら状または、カーペット状のあちこちに穴があいているような状態のもの。

4 環境保全措置の実施状況

2025年度に実施した環境保全措置は以下のとおりである。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 第一中京圏トンネル（西尾工区）

環境保全措置の実施状況を表 4-1-1-1 及び写真 4-1-1-1～写真 4-1-1-13 に示す。なお、本工区の 2025 年度の工事については、主に掘削工（トンネル掘削等）を実施したため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-1-1 (1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等) ・騒音	仮囲い等の設置	写真 4-1-1-1
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	排出ガス対策型建設機械、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-1-2
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス ・動物 ・生態系	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-1-3

表 4-1-1-1 (2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動	工事の平準化	
	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮 (高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等)	
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の 配慮	
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-1-4
	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び 整備による性能維持	
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-1-5
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、 周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-1-6
	荷台への防塵シート敷設及び散水	写真 4-1-1-6
・水質 (水の濁り、 水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-1-7

表 4-1-1-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 水質 (水の濁り、 水の汚れ) ・ 水資源	工事排水の監視	写真 4-1-1-8
	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-1-9
・ 水質 (水の濁り) ・ 水資源 ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系	放流時の放流箇所及び水温の調整(水温測定の実施)	
・ 地下水 (地下水の水質) ・ 水資源 ・ 土壤汚染	薬液注入工法における指針等の順守	
・ 地下水 (地下水の水質、 地下水の水位) ・ 水資源 ・ 地盤沈下	適切な構造及び工法の採用	
・ 地下水 (地下水の水質、 地下水の水位) ・ 水資源	地下水の継続的な監視	写真 4-1-1-10
・ 温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	
	高負荷運転の抑制	
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
・ 土壤汚染	仮置き場における発生土の適切な管理	
	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	写真 4-1-1-11
	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	写真 4-1-1-12
	発生土を有効利用する事業者への土壤汚染に関する情報提供の徹底	

表 4-1-1-1 (4) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 廃棄物等	建設汚泥の脱水処理	
	建設発生土の再利用	
	発生土を有効利用する事業者への情報提供の徹底	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-1-13
・ 動物 ・ 生態系 ・ 騒音	防音シート、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-1-2
	重要な種の生息地の全体又は一部を回避	
	トンネル坑口への防音扉の設置	
・ 植物 ・ 生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-1-6



写真 4-1-1-1 仮囲い等の設置



写真 4-1-1-2 排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-1-3 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-1-4 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-1-5 工事現場の清掃及び散水



写真 4-1-1-6 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄
荷台への防塵シート敷設及び散水
外来種の拡大抑制



写真 4-1-1-7 工事排水の適切な処理



写真 4-1-1-8 工事排水の監視

	
写真 4-1-1-9 処理装置の点検・整備による 性能維持	写真 4-1-1-10 地下水の継続的な監視
	
写真 4-1-1-11 発生土に含まれる重金属等の 定期的な調査	写真 4-1-1-12 有害物質の有無の確認と汚染 土壌の適切な処理
	
写真 4-1-1-13 副産物の分別、再資源化	

4-1-2 第一中京圏トンネル（坂下西工区）

環境保全措置の実施状況を表 4-1-2-1 及び写真 4-1-2-1～写真 4-1-2-14 に示す。なお、本工区の 2025 年度の工事については、主に本格的な掘進に向けた準備及び本格的なトンネル掘進、神領非常口でのシールド機到達準備を実施したため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-2-1 (1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等) ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-2-1 写真 4-1-2-13
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動	工事規模に合わせた建設機械の設定	写真 4-1-2-3
	工事の平準化	
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮 (高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等)	
	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-2-4
	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-2-5
	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃、散水	
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-2-6
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-2-7
・地下水 (地下水の水質、 地下水の水位) ・水資源	適切な構造及び工法の採用 (密閉性の高いシールド工法の採用)	写真 4-1-2-8

表 4-1-2-1 (2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
- 地下水 (地下水の水質、 地下水の水位) - 水資源	薬液注入工法における指針等の順守	
- 水質 (水の濁り、 水の汚れ) - 水資源 - 土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-2-9
- 水質 (水の濁り、 水の汚れ) - 水資源	工事排水の監視	写真 4-1-2-10
	処理設備の点検・整備による性能維持	
土壌汚染	薬液注入工法における指針等の順守	
	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	写真 4-1-2-11
	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
	仮置場における発生土の適切な管理	写真 4-1-2-12
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
廃棄物	建設発生土の再利用	
	発生土を有効活用する事業者への情報提供	
	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-2-13
- 廃棄物等 - 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-2-14
温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	写真 4-1-2-3
	高負荷運転の抑制	
	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-2-4

表 4-1-2-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-2-5
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
・ 大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	



写真 4-1-2-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-2-2 排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用

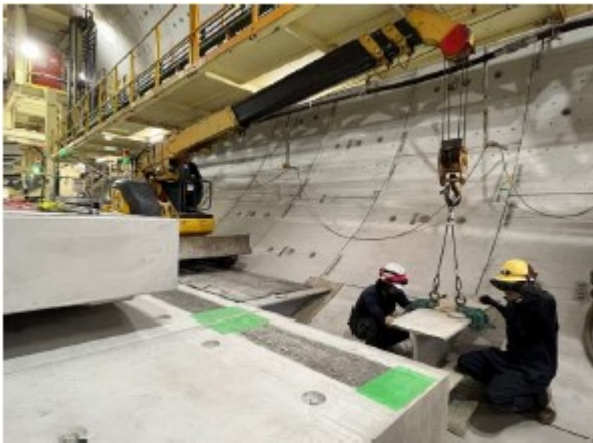


写真 4-1-2-3 工事規模に合わせた建設機械の
設定

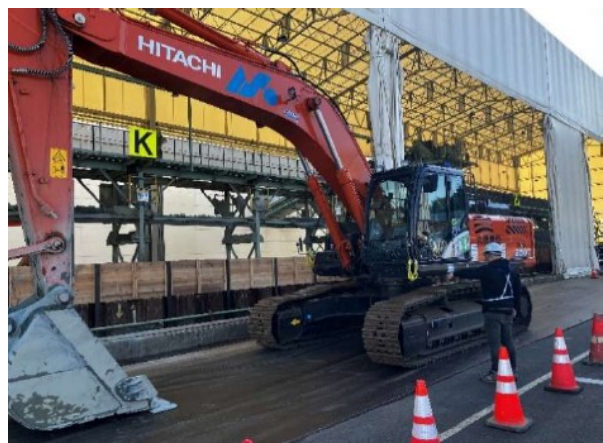


写真 4-1-2-4 建設機械の点検及び整備による
性能維持



写真 4-1-2-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-2-6 荷台への防じんシート敷設及び
散水



写真 4-1-2-7 資材及び機械の運搬に用いる
車両の出入口、周辺道路の清掃
及び散水、タイヤの洗浄



写真 4-1-2-8 適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)

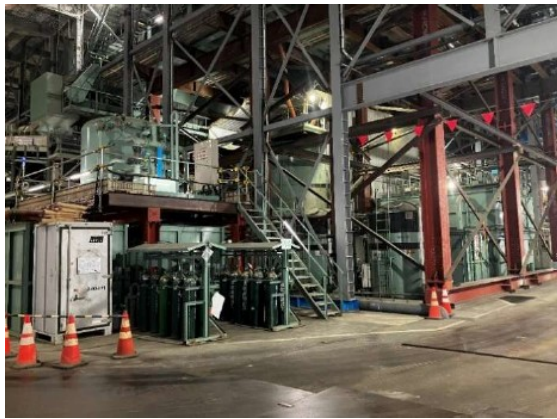


写真 4-1-2-9 工事排水の適切な処理



写真 4-1-2-10 工事排水の監視



写真 4-1-2-11 有害物質の有無の確認と汚染
土壌の適切な処理
発生土に含まれる重金属等の
定期的な調査



写真 4-1-2-12 仮置場における発生土の適切な
管理



写真 4-1-2-13 建設汚泥の脱水処理
仮囲い・防音シート等の設置
(防音ハウスの設置)



写真 4-1-2-14 副産物の分別、再資源化

4-1-3 第一中京圏トンネル（名城工区）

環境保全措置の実施状況を表 4-1-3-1 及び写真 4-1-3-1～写真 4-1-3-14 に示す。なお、本工区の 2025 年度の工事については、主に本格的な掘進に向けた準備及び本格的なトンネル掘進を実施したため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-3-1 (1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (粉じん等) ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-3-1 写真 4-1-3-13
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等)	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-3-3
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等)	工事の平準化	
・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	建設機械の使用時における配慮 (高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等)	
・騒音 ・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の 配慮	

表 4-1-3-1 (2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-3-4
・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-3-5
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-3-6
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、 周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-3-5
・水質 (水の濁り、 水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-3-7
・水質 (水の濁り、 水の汚れ) ・水資源	下水道への排水	
	工事排水の監視	写真 4-1-3-8
	処理設備の点検・整備による性能維持	
・地下水 (地下水の水質、 地下水の水位) ・水資源	適切な構造及び工法の採用 (密閉性の高いシールド工法の採用)	写真 4-1-3-9
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の 合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-3-10
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-3-11

表 4-1-3-1 (3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・廃棄物等	建設発生土の再利用	
	発生土を有効活用する事業者への情報提供	
・土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
	仮置場における発生土の適切な管理	写真 4-1-3-12 写真 4-1-3-13
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・安全（交通）	交通誘導員による誘導	写真 4-1-3-14



写真 4-1-3-1 仮囲い・防音シート等の設置
(仮囲いの設置)



写真 4-1-3-2 排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-3-3 工事従事者への講習・指導

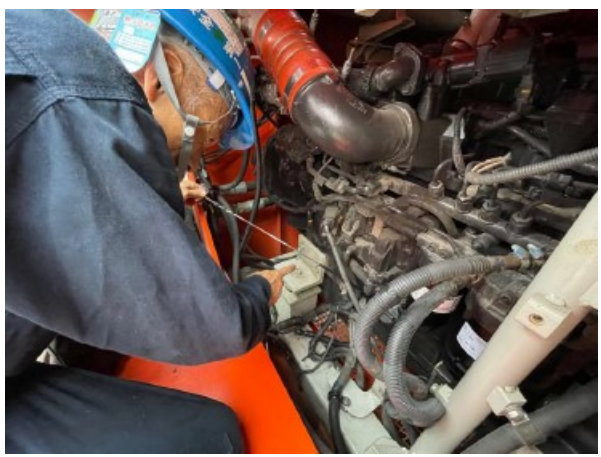


写真 4-1-3-4 建設機械の点検及び整備による
性能維持



写真 4-1-3-5 工事現場の清掃及び散水
資材及び機械の運搬に用い車両の
出入口、周辺道路の清掃及び散水、
タイヤの洗浄



写真 4-1-3-6 荷台への防じんシート敷設



写真 4-1-3-7 工事排水の適切な処理



写真 4-1-3-8 工事排水の監視



写真 4-1-3-9 適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)



写真 4-1-3-10 低燃費車種の選定、積載の効率化、
運搬計画の合理化による運搬距離
の最適化



写真 4-1-3-11 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-3-12 仮置場における発生土の適切な
管理（土砂ピットの設置）



写真 4-1-3-13 仮囲い・防音シート等の設置
仮置場における発生土の適切な
管理（防音ハウスの設置）



写真 4-1-3-14 交通誘導員による誘導

4-1-4 名城変電所

環境保全措置の実施状況を表 4-1-4-1 及び写真 4-1-4-1～写真 4-1-4-5 に示す。なお、本工区の 2025 年度の工事については、主に電気設備工を実施したため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-4-1 (1) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 騒音	仮囲い等の設置	写真 4-1-4-1
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-4-3
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	工事の平準化	
・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	建設機械の使用時における配慮 (高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等)	
・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の 配慮	

表 4-1-4-1 (2) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-4
	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-4-5



写真 4-1-4-1 仮囲い等の設置



写真 4-1-4-2 排出ガス対策型建設機械の採用
低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-4-3 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-4-4 建設機械の点検及び整備による
性能維持



写真 4-1-4-5 副産物の分別、再資源化

4-1-5 名古屋駅

環境保全措置の実施状況を表 4-1-5-1及び写真 4-1-5-1～写真 4-1-5-16に示す。なお、本工区の2025年度の工事については、準備工（工事施工ヤード整備、既設地下構造物の撤去、既存施設の移転、地盤改良、盤下げ掘削等）、立坑土留工、地中連続壁工、路面覆工等を実施したため、当該工事に係る報告になる。

表 4-1-5-1 (1) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 大気質 (粉じん等) ・ 騒音	仮囲い・防音シートの設置	写真 4-1-5-1
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-5-2
	揮発性有機化合物の排出抑制	
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動	工事の平準化	
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス ・ 安全（交通）	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-5-3

表 4-1-5-1 (2) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 安全 (交通)	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-5-4
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動	建設機械の使用時における配慮 (高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等)	
・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の 配慮	
・ 大気質 (二酸化窒素、 浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-5
	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び 整備による性能維持	写真 4-1-5-6
・ 大気質 (粉じん等)	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-5-7
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-5-8
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、 周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-5-9
・ 水質 (水の濁り、 水の汚れ) ・ 水資源 ・ 土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-5-10

表 4-1-5-1 (3) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・水質 (水の濁り、 水の汚れ) ・水資源	下水道への排水	写真 4-1-5-11
	工事排水の監視	写真 4-1-5-10
	処理設備の点検・整備による性能維持	
・地下水 (地下水の水質) ・水資源 ・土壌汚染	薬液注入工法における指針等の順守	
・地下水 (地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下	止水性の高い山留め工法等の採用	
・地下水 (地下水の水質、 地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-5-12
・地盤沈下	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-5-13
・土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	写真 4-1-5-14
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	

表 4-1-5-1 (4) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 廃棄物等	建設汚泥の脱水処理	
	建設発生土の再利用	
	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-5-15
・ 安全（交通）	交通誘導員による誘導	写真 4-1-5-16



写真 4-1-5-1 仮囲い・防音シートの設置



写真 4-1-5-2 排出ガス対策型建設機械の採用



写真 4-1-5-3 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-5-4 低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-5-5 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-5-6 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-5-7 工事現場の清掃及び散水



写真 4-1-5-8 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真 4-1-5-9 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真 4-1-5-10 工事排水の適切な処理
工事排水の監視



写真 4-1-5-11 下水道への排水

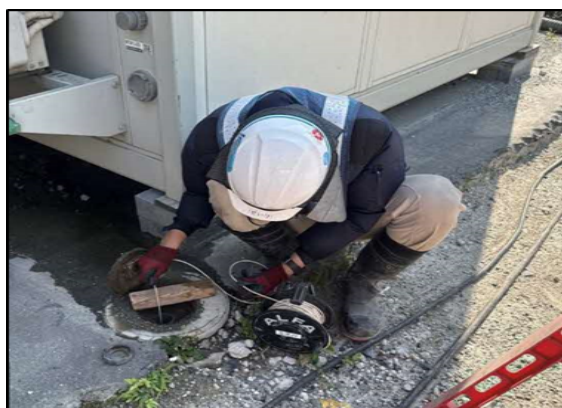


写真 4-1-5-12 地下水の継続的な監視



写真 4-1-5-13 山留め材及び周辺地盤の
計測管理



写真 4-1-5-14 発生土に含まれる重金属等の
定期的な調査



写真 4-1-5-15 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-5-16 交通誘導員による誘導

5 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

5-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

5-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

5-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認とした。

5-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、第一中京圏トンネル（西尾工区）、第一中京圏トンネル（坂下西工区）、第一中京圏トンネル（名城工区）、名城変電所、名古屋駅とした。

5-1-4 集計期間

集計期間は、2025 年度とした。

5-1-5 集計結果

集計結果は、表 5-1-5 に示すとおりである。

表 5-1-5 (1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土※	290,242 m ³

※：建設発生土は、ほぐし土量である。

表 5-1-5 (2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量※ ¹	再資源化等の率※ ²
建設廃棄物	建設汚泥	110,479 m ³	110,418 m ³	100 %
	コンクリート塊	9,278 m ³	9,266 m ³	100 %
	アスファルト・ コンクリート塊	2,564 m ³	2,564 m ³	100 %
	建設発生木材	337 t	336 t	100 %

※1：「再資源化等の量」の定義は以下のとおりとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
- ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

※2：「再資源化等の率」はそれぞれの項目について、「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。なお、割合は小数点以下を四捨五入している。

5-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

5-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

5-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

5-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、第一中京圏トンネル（西尾工区）、第一中京圏トンネル（坂下西工区）、第一中京圏トンネル（名城工区）、名城変電所、名古屋駅とした。

5-2-4 集計期間

集計期間は、2025 年度とした。

5-2-5 集計結果

集計結果は、表 5-2-5 に示すとおりである。

表 5-2-5 温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量の状況				
区分			温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量（tCO ₂ ）	
			小計	行為別合計
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）		3,867	11,805
	燃料消費（N ₂ O）		25	
	電力消費（CO ₂ ）		7,913	
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	CO ₂		6,787	6,820
	CH ₄		3	
	N ₂ O		30	
建設資材の使用	CO ₂		64,610	64,610
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	3	4
		N ₂ O	0	
	埋立	CH ₄	1	
CO ₂ 換算排出量の合計				83,239

・四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。

6 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 6-1に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務のうち、愛知県においては、主に株式会社トーニチコンサルタントが担当した。

表 6-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 杉崎 英司	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目33番10号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 畠山 仁	東京都新宿区 西新宿六丁目14番1号
パシフィックコンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 大本 修	東京都千代田区 神田錦町三丁目22番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 藤原 協	東京都新宿区 北新宿二丁目21番1号
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目13番3号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 吉村 剛	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目11番12号

・2026年6月1日時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務のうち、工事の実施に係る一部の測定は、表 6-2に示す工事請負業者が実施した。

表 6-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称	
		構成員
第一中京圏トンネル	中央新幹線第一中京圏トンネル新設（西尾工区）工事共同企業体	大成建設株式会社、日本国土開発株式会社、ジェイアール東海建設株式会社
	中央新幹線第一中京圏トンネル新設（坂下西工区）工事共同企業体	株式会社安藤・間、株式会社不動テトラ、株式会社福田組
	中央新幹線第一中京圏トンネル新設（名城工区）工事共同企業体	前田建設工業株式会社、三井住友建設株式会社、大日本土木株式会社
勝川非常口	株式会社フジタ	
名城変電所	株式会社シーテック、三菱電機株式会社	
名古屋駅	中央新幹線名古屋駅新設（東工区）工事共同企業体	五洋建設株式会社、みらい建設工業株式会社
	中央新幹線名古屋駅新設（東山線工区）工事共同企業体	株式会社安藤・間、株式会社市川工務店
	中央新幹線名古屋駅新設（中央東工区）（2）工事共同企業体	大成建設株式会社、ジェイアール東海建設株式会社、シーエヌ建設株式会社
	中央新幹線名古屋駅新設（中央西工区）（2）工事共同企業体	株式会社大林組、ジェイアール東海建設株式会社、前田建設工業株式会社
	中央新幹線名古屋駅新設（西工区）工事共同企業体	五洋建設株式会社、みらい建設工業株式会社、梅林建設株式会社

参考資料 1 事業の実施状況

1-1 トンネルの施工状況

2025 年度までのトンネル（立坑を含む）の施工状況は、以下に示すとおりである。

第一中京圏トンネル（西尾工区）について、西尾非常口トンネル（約 800m）は 2020 年度に掘削が完了し、保守基地線トンネル（約 2,200m）は 2023 年度に掘削が完了した。本線トンネルは、8 割程度（約 3,600m）掘削した。

第一中京圏トンネル（坂下西工区）について、坂下非常口から勝川非常口に向けてシールド掘進を約 850m 実施した。

第一中京圏トンネル（名城工区）について、名城非常口から勝川非常口に向けてシールド掘進を約 680m 実施した。

坂下非常口※¹について、立坑（約 80m）が 2020 年度に完成した。

神領非常口※¹について、立坑（約 70m）が 2022 年度に完成した。

勝川非常口※¹について、立坑（約 70m）が 2024 年度に完成した。

名城非常口※²について、立坑（約 60m）が 2022 年度に完成した。※³

名城変電所について、電気洞道（トンネル）（約 380m）が 2022 年度に完成した。

※1 ニューマチックケーソン工法

※2 地中連続壁工法

※3 掘削深度約 90m のうち設備棟（地上から約 30m）を除く

1-2 トンネル湧水等の状況

山岳トンネル工事の実施箇所におけるトンネル湧水等（トンネル湧水等には、トンネル湧水のほか、工事排水、雨水を含む。）の状況は、以下に示すとおりである。

1-2-1 第一中京圏トンネル（西尾工区）

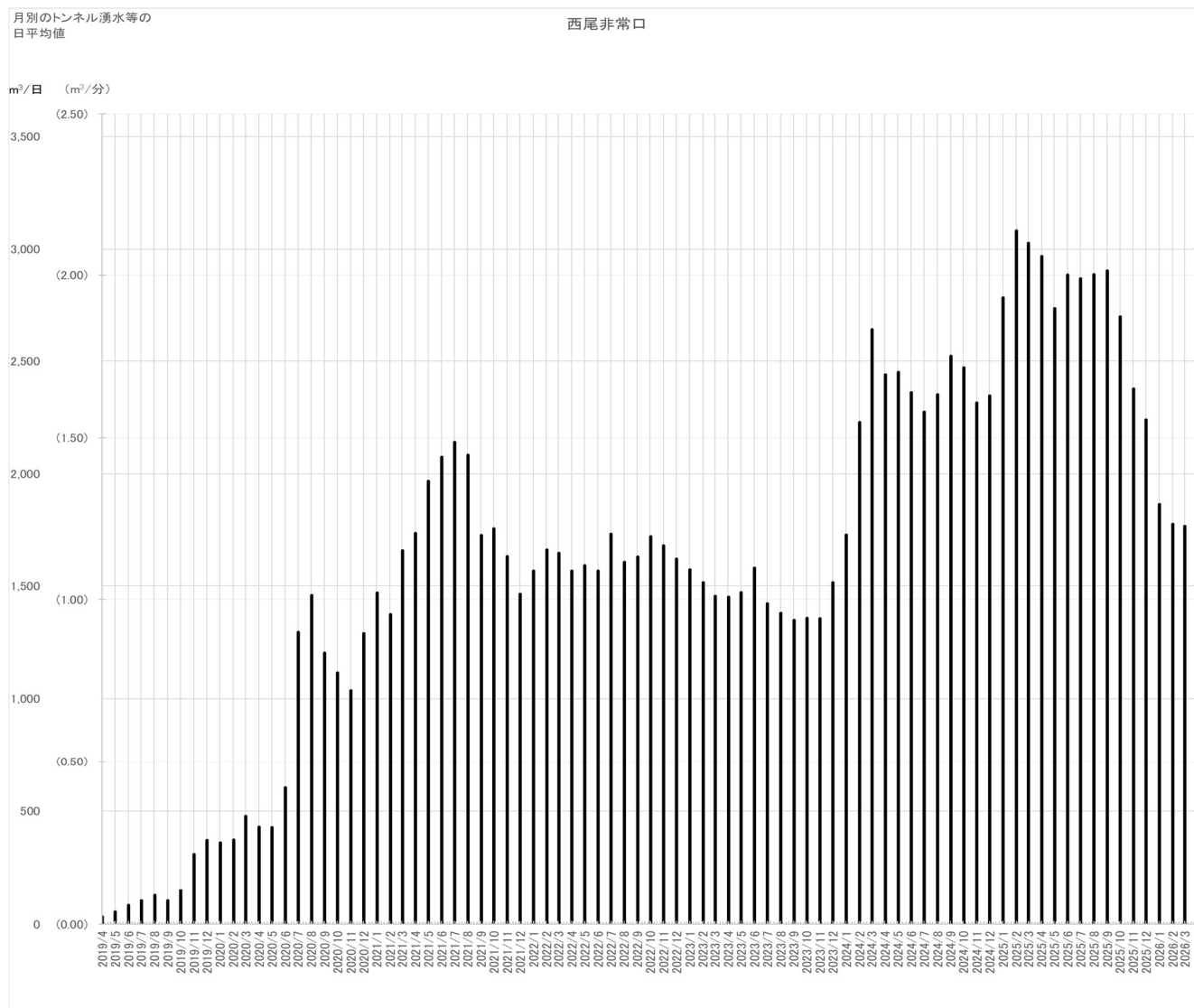


図 西尾非常口工事施工ヤードのトンネル湧水等の状況

1-3 建設発生土の主な搬出先と土量

2025 年度の各工事実施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量は、以下に示すとおりである。

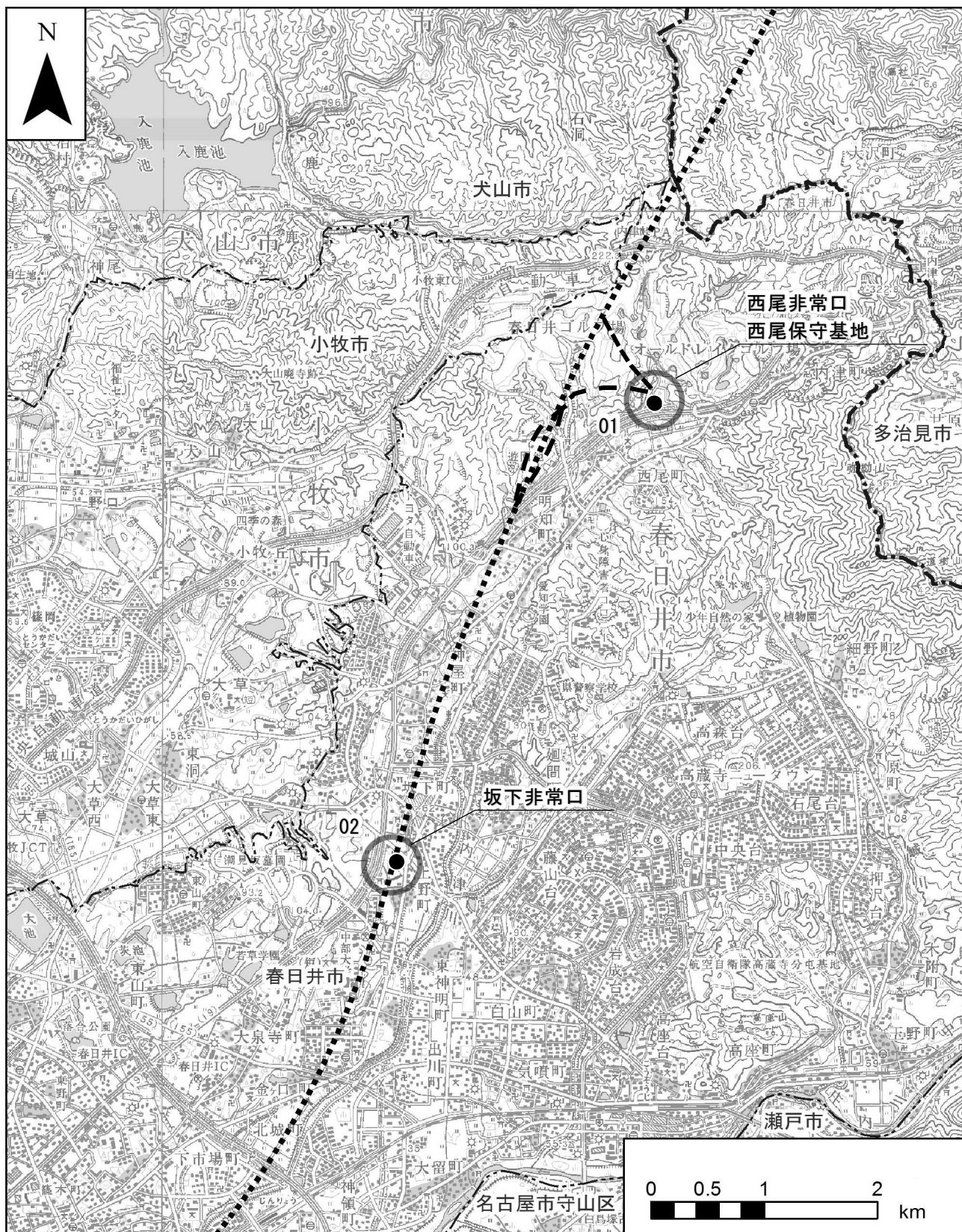
第一中京圏トンネル（西尾工区）、第一中京圏トンネル（坂下西工区）、第一中京圏トンネル（名城工区）及び名古屋駅からの建設発生土は、公共事業等に約 14.5 万 m³、愛知県珪砂鉦業協同組合が実施している鉦山採掘跡地整理事業に約 3.6 万 m³、民間碎石場が実施している碎石採掘跡地等の埋立に約 10.6 万 m³を活用した。なお、基準等に不適合であった発生土約 0.3 万 m³については、法令等を参考に、適切に処置した。

参考資料 2 騒音・振動の簡易計測

工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を常時表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音・振動の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は表 参 2-1 及び図 参 2-1 に示すとおりである。また、モニター表示例は写真 参 2-1 に示す。

表 参 2-1 簡易計測の実施地点

地点番号	市区名	所在地	実施箇所
01	春日井市	西尾町	西尾非常口 西尾保守基地
02	春日井市	坂下町	坂下非常口
03	春日井市	熊野町	神領非常口
04	名古屋市 中区	三の丸	名城非常口
05	名古屋市 中区	丸の内	名城変電所
06-1	名古屋市 中村区	名駅	名古屋駅
06-2	名古屋市 中村区	名駅	名古屋駅
06-3	名古屋市 西区	名駅	名古屋駅
06-4	名古屋市 中村区	椿町	名古屋駅
06-5	名古屋市 中村区	則武	名古屋駅



凡例

- | | | |
|--------------------|-------------|--------|
| 計画路線 (トンネル部) | —— 県境 | ● 調査地点 |
| —— 非常口トンネル (斜坑) | ----- 市区町村境 | |
| —— 保守基地線トンネル | | |

図 参2-1 (1) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)

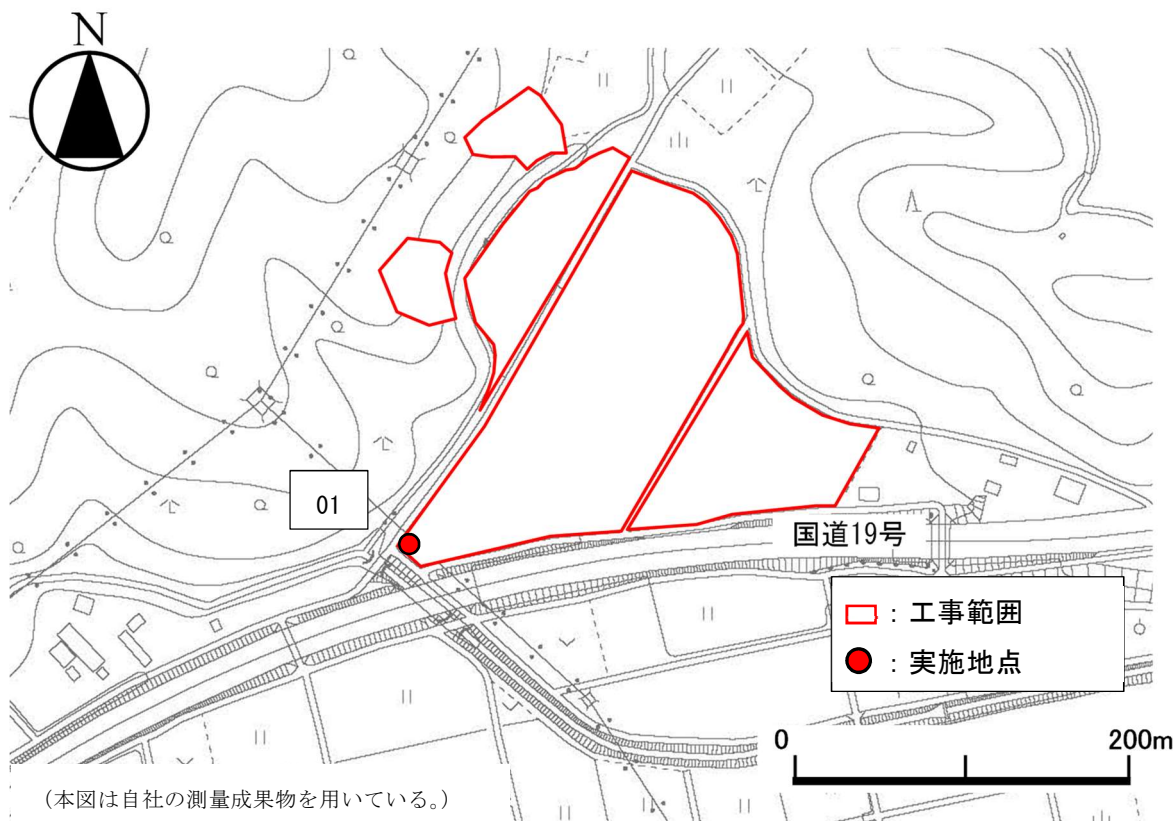


図 参 2-1 (2) 簡易計測の実施地点 (地点番号:01)

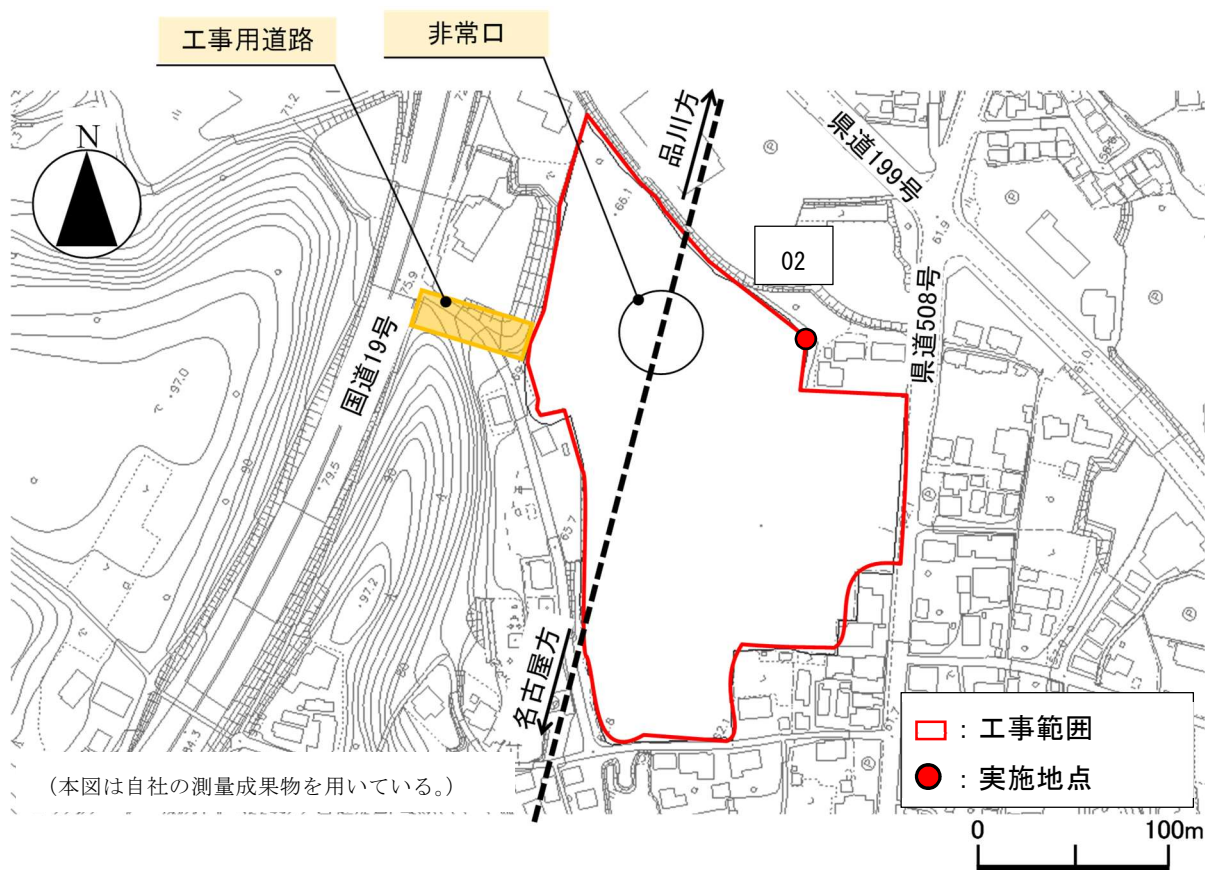


図 参 2-1 (3) 簡易計測の実施地点 (地点番号:02)



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

--- 市区町村境

● 調査地点

図 参2-1 (4) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）

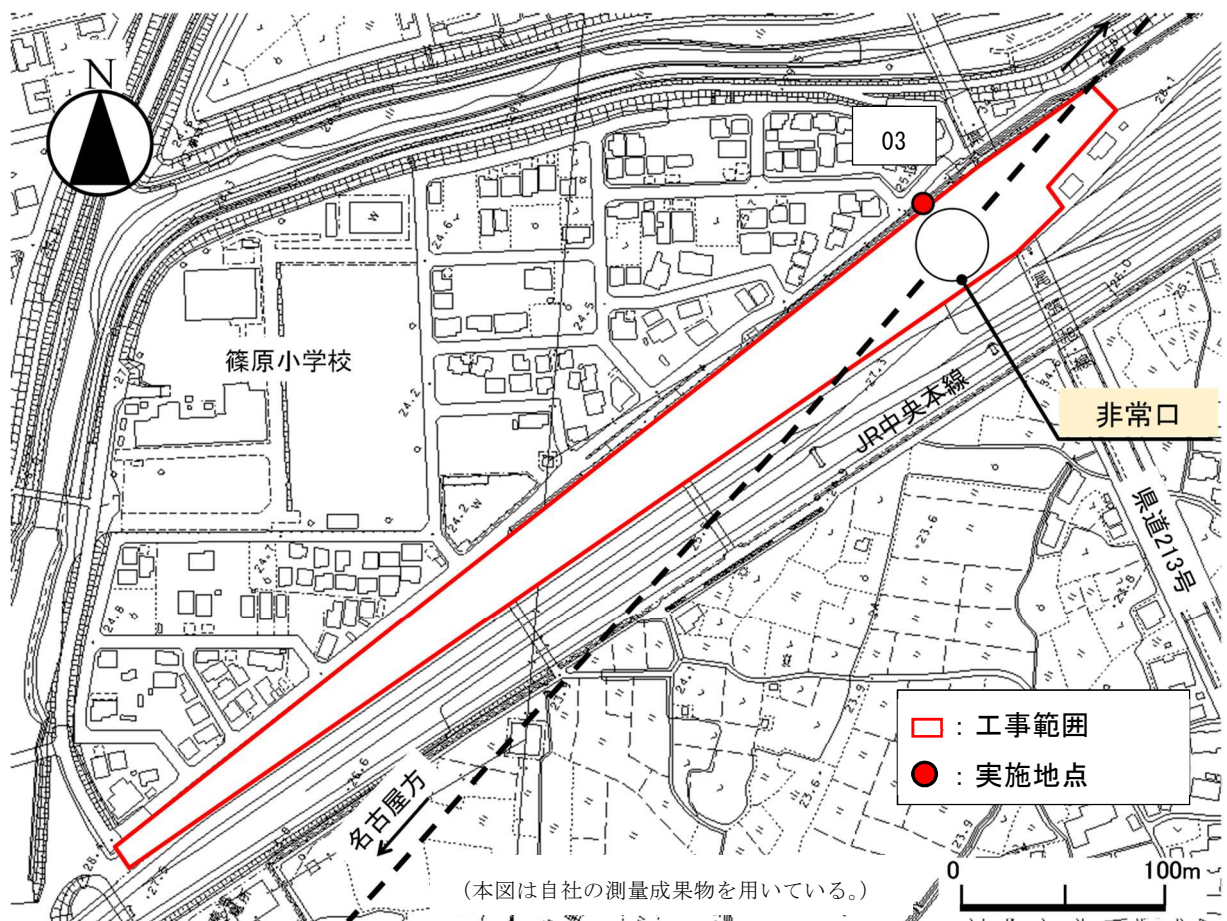
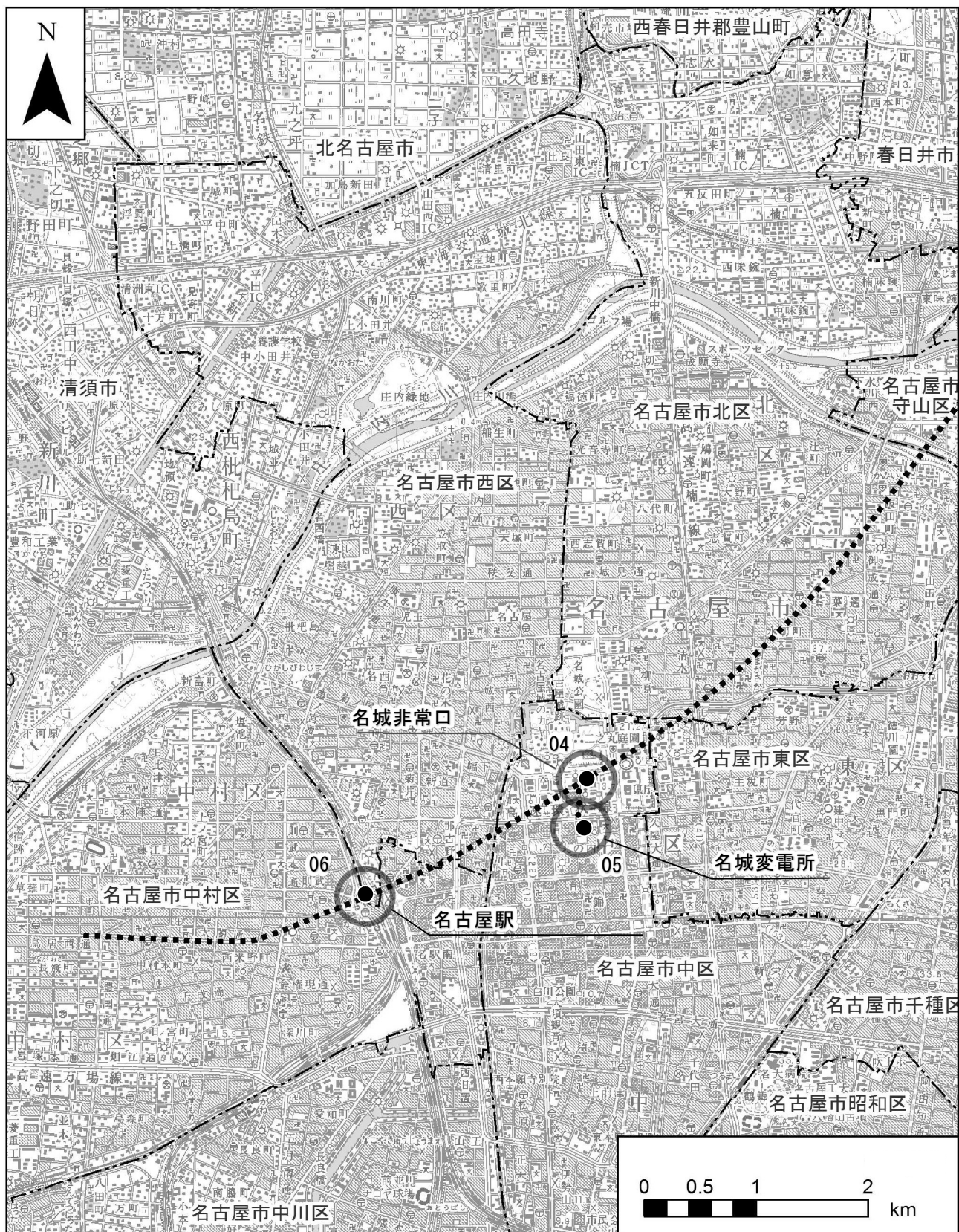


図 参 2-1 (5) 簡易計測の実施地点 (地点番号:03)



凡例

..... 計画路線（トンネル部）

----- 市区町村境

● 調査地点

..... 電気同道（トンネル）

図 参2-1 (6) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）

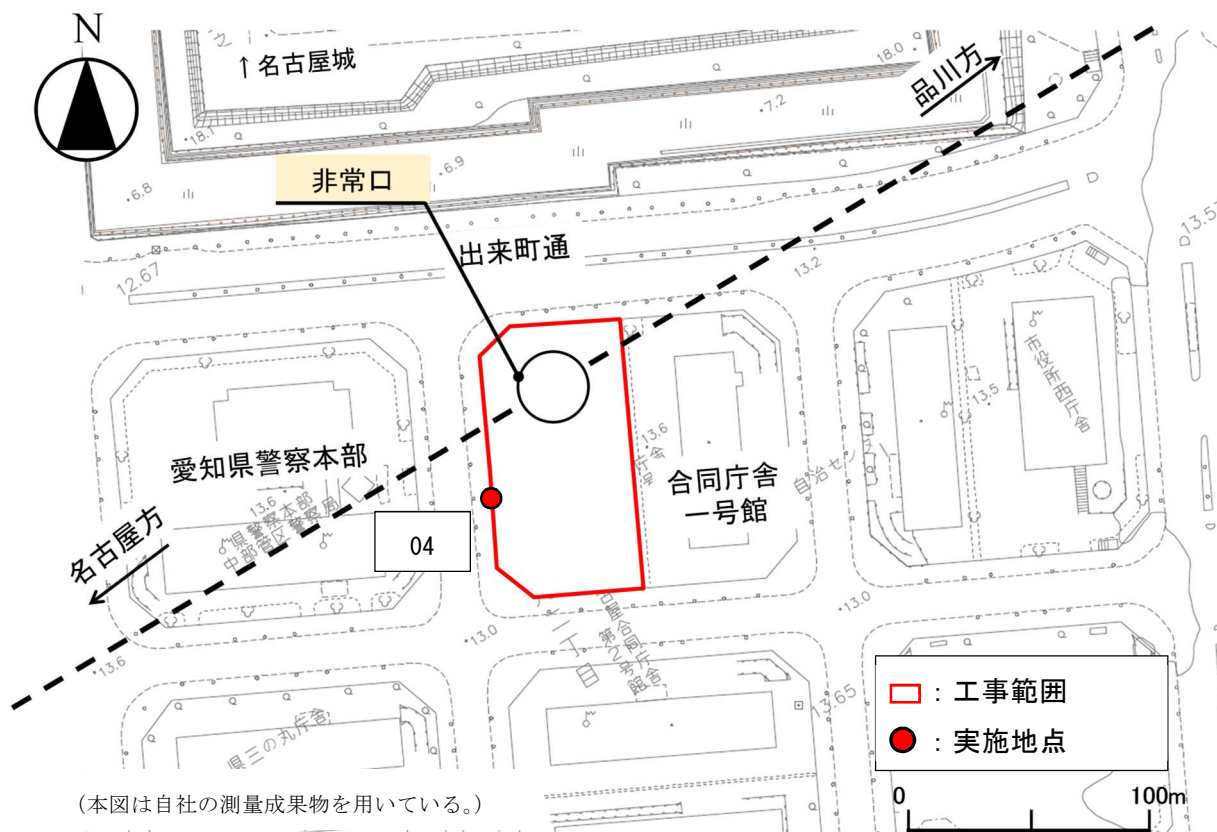


図 参 2-1 (7) 簡易計測の実施地点 (地点番号:04)

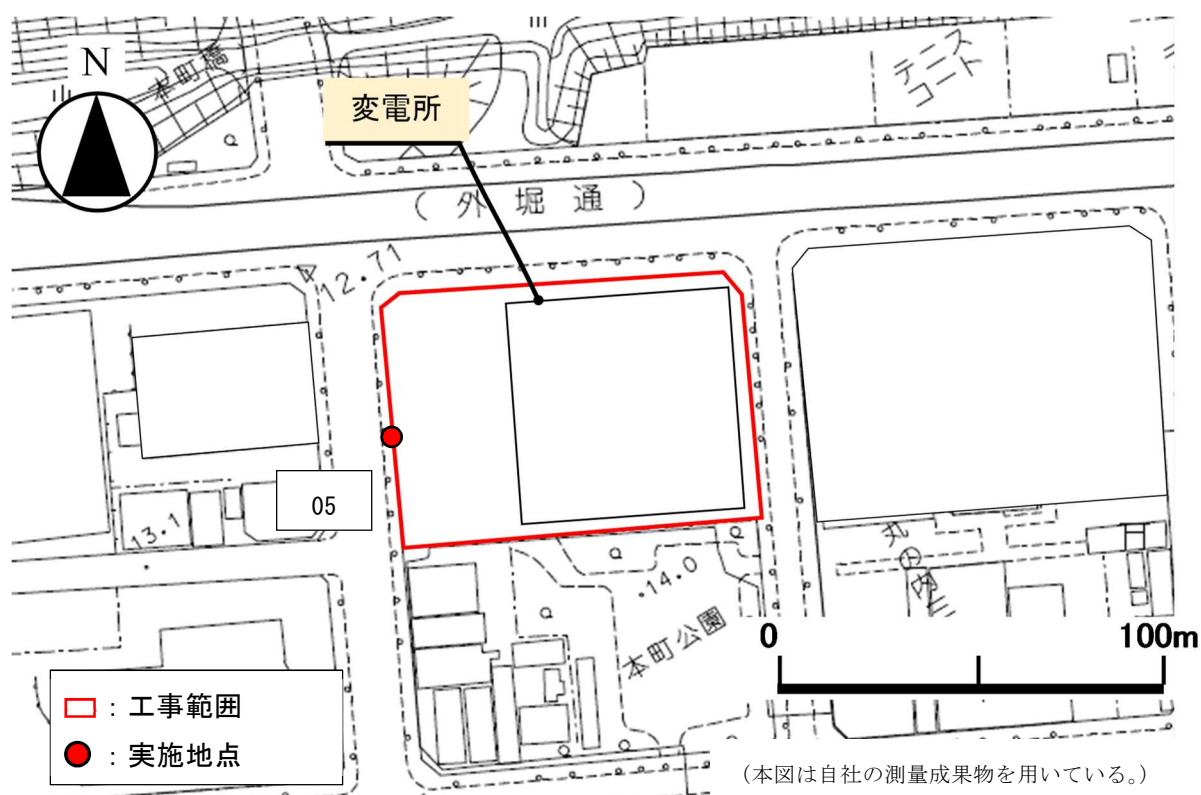
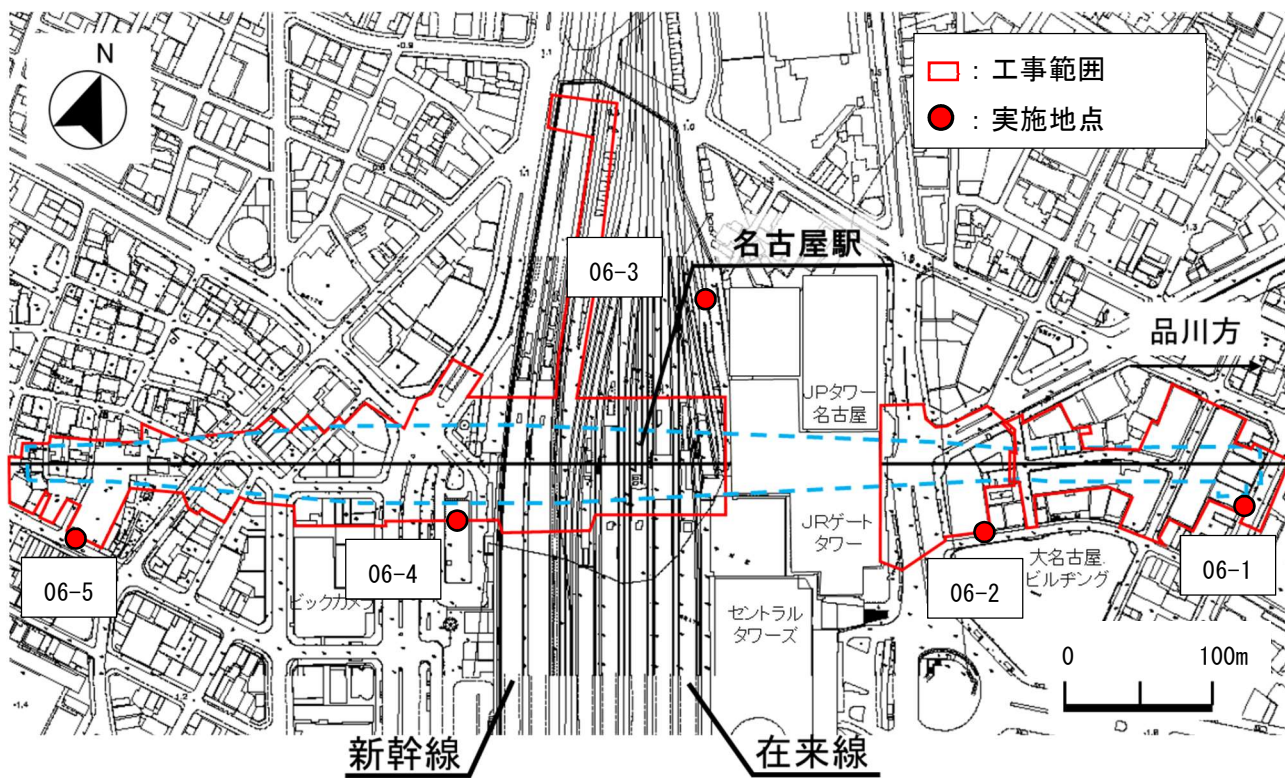


図 参 2-1 (8) 簡易計測の実施地点 (地点番号:05)



(本図は自社の測量成果物を用いている。)

図 参 2-1 (9) 簡易計測の実施地点 (地点番号:06)



写真 参 2-1 (1) モニター表示例 (地点番号:01)



写真 参 2-1 (2) モニター表示例 (地点番号:04)

参考資料 3 2025 年度のモニタリング実施状況

2025年度に実施したモニタリングの地点を表 参3-1に、内容を表 参3-2に示す。

表 参3-1 モニタリングの実施地点

地点番号	市区名	所在地	実施箇所
01	春日井市	西尾町	西尾非常口 西尾保守基地
02	春日井市	坂下町	坂下非常口
02-1	春日井市	坂下町	第一中京圏トンネル（坂下西工区）
03	春日井市	熊野町	神領非常口
04	春日井市	勝川町	勝川非常口
05	名古屋市 中区	三の丸	名城非常口
05-1	名古屋市 中区	三の丸	第一中京圏トンネル（名城工区）
06	名古屋市 中区	丸の内	名城変電所
07	名古屋市 中村区	名駅	名古屋駅

表 参3-2 (1) 2025年度のモニタリング実施状況

調査項目		調査地域・地点の考え方	調査期間の考え方	地点番号※1								
				01	02	02-1	03	04	05	05-1	06	07
大気質	二酸化窒素 浮遊粒子状物質 粉じん等	工事ヤード周辺のうち予測値と環境基準等の差が小さい地点や寄与度の高い地点	工事最盛期に1回実施（四季調査）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		資材及び機械の運搬に用いる車両の主要なルートのうち予測値と環境基準等の差が小さい地点や寄与度の高い地点（発生土運搬に伴い新たに必要となるルート沿道の学校・住宅等に配慮した地点を含む）	工事最盛期に1回実施（四季調査）	—	○	—	—	—	—	—	—	—
騒音		各工事ヤードの周辺（評価書の予測地点を基本）	工事最盛期に1回実施	— ※2	— ※2	— ※2	— ※2	—	— ※2	— ※2	— ※2	— ※2
		資材及び機械の運搬に用いる車両の主要なルート（評価書の予測地点を基本とする他、発生土運搬に伴い新たに必要となるルート沿道の学校・住宅等に配慮した地点を含む）	工事最盛期に1回実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—
振動		各工事ヤードの周辺（評価書の予測地点を基本）	工事最盛期に1回実施	— ※2	— ※2	— ※2	— ※2	—	— ※2	— ※2	— ※2	— ※2
		資材及び機械の運搬に用いる車両の主要なルート（評価書の予測地点を基本とする他、発生土運搬に伴い新たに必要となるルート沿道の学校・住宅等に配慮した地点を含む）	工事最盛期に1回実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※1 表中「—」はモニタリング実施予定又は実施済みであるが2025年度は未実施を意味する

※2 その他、簡易計測を実施した

表 参3-2 (2) 2025年度のモニタリング実施状況

調査項目		調査地域・地点の考え方	調査期間の考え方	地点番号※								
				01	02	02-1	03	04	05	05-1	06	07
水質	浮遊物質 量（SS） 水温 水素イオン濃度 （pH）	切土工、トンネル工事及び工事施工ヤードの設置に伴い工事排水を放流する箇所の下流地点	工事前に1回実施	—	—	—	—					
			工事中に毎年1回渇水期に実施									
			そのほか、排水放流時の水質については継続的に測定	○	○		○					
	自然由来の重金属等	切土工及び工事施工ヤードの設置に伴い工事排水を放流する箇所の下流地点	工事前に1回実施	—								
			工事中に1回以上渇水期に実施									
			そのほか、排水放流時の水質については定期的に測定	○								
	トンネル工事に伴い工事排水を放流する箇所の下流地点	工事前に1回実施	—	—	—	—						
		工事中に1回以上渇水期に実施										
		そのほか、排水放流時の水質については定期的に測定	○	○		○						
地下水	水位	非常口（都市部）、変電所及び地下駅付近の地点	工事前の一定期間実施		—		—	—	—	—	—	—
			工事中は継続的に実施		—		—	—	—	—	—	○
			工事完了後の一定期間実施		—		—	○	—	—	—	—
水資源	水位（水量）	山岳トンネル計画路線付近の湧水等で選定	工事前の一定期間実施	—								
			工事中に月1回実施	○								
			工事完了後の一定期間実施	—								
	自然由来の重金属等	山岳トンネル計画路線付近の井戸で選定 非常口（都市部）、変電所及び地下駅付近の地点 但し、酸性化可能性については、土壌汚染のモニタリングにより建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）に長期的な酸性化可能性のある値として定められたpH3.5との差が小さい場合に実施	工事前に1回実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			工事中に毎年1回実施	○	—	—	—	—	—	—	—	○
	水素イオン濃度（pH）		工事前に1回実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		工事中に毎年1回実施	○	—	—	○	—	—	—	—	○	
地盤沈下		土被りの小さいトンネル区間（都市部）から選定 非常口（都市部）、変電所及び地下駅付近の地点 亜炭掘削跡付近の地点	工事前に1回実施		—	○	—	—	—	—	—	—
			工事中は継続的に実施		—	○	—	—	—	—	—	○
			工事完了後の一定期間実施		—		—	○	—	—	—	—
土壌汚染	自然由来の重金属等（発生土受入先と定めた調査項目）	切土工、トンネル工事及び工事施工ヤードの設置に伴い掘削土を仮置きする地点	事前の調査結果等に基づき実施の時期・頻度を決定	○	—	○	—	—	○	—	—	○
	酸性化可能性	切土工、トンネル工事及び工事施工ヤードの設置に伴い掘削土を仮置きする地点	事前の調査結果等に基づき実施の時期・頻度を決定	○	—	—	—	—	—	—	—	—

※表中「—」はモニタリング実施予定又は実施済みであるが2025年度は未実施、斜線はモニタリング対象外を意味する

表 参3-2 (3) 2025年度のモニタリング実施状況

調査項目		調査地域・地点の考え方	調査期間の考え方	地点番号*								
				01	02	02-1	03	04	05	05-1	06	07
動物	東海丘陵の小湿地群周辺に生息する重要種（魚類、底生動物を含む）	工事中の水位観測により減水の兆候が見られる箇所	各種の生活史及び生息特性等に応じて設定									
植物	東海丘陵の小湿地群周辺に生育する重要種	工事中の水位観測により減水の兆候が見られる箇所	各種の生育特性等に応じて設定	○								
生態系	東海丘陵の小湿地群周辺に生息・生育する重要種	工事中の水位観測により減水の兆候が見られる箇所	各種の生活史及び生息・生育特性等に応じて設定	○								

※表中斜線はモニタリング対象外を意味する

参考資料 4 本報告に係る専門家等の技術的助言

工事を進めるにあたって、具体的な施設計画及び工事計画や環境調査の結果を基に専門家等から技術的助言を受け、工事に関する環境保全措置等を実施している。専門家等の技術的助言については、表 参4-1に示すとおりである。

表 参4-1 本報告に係る専門家等の技術的助言の内容

専門分野	所属機関の属性	主な技術的助言の内容
動物 希少猛禽類	公益団体等	・オオタカ（西尾ペア）は国道 19 号周辺を行動圏としており、継続して行われている工事が繁殖活動に影響を及ぼすということは考えにくい。 ・繁殖しなかったことはつがい関係がうまくいかなかったこと、あるいは他の場所に巣を移している可能性が考えられる。 ・次年度の定点観察の調査地点を選定するにあたり、引き続き事業地周辺に限らず確認範囲を広くとることが望ましい。

参考資料 5 安全・安心の取組み

以下の取組みを実施し、安全にトンネル掘進を行った。

参考 5-1 調査掘進時の取組み

2025 年度は、第一中京圏トンネル（名城工区）において、シールド工法によるトンネル工事の安全対策や周辺環境への影響の現地確認に主眼を置いた調査掘進が完了した。調査掘進時は、トンネル掘進時の適切な施工管理を行い、振動及び変位等を計測し周辺への影響を確認した。

なお、調査掘進の結果の詳細は、以下に掲載している。

<調査掘進での確認結果に関する説明会の説明資料>

名城工区における調査掘進の確認結果に関する説明会（2025 年 8 月 1 日、2 日）
で用いた資料は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載している。

https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/description/_pdf/aichi_meijo-open.pdf

[資料はこちら]



参考 5-2 掘進時の取組み

2025 年度は、坂下西工区及び名城工区における本格的な掘進にあたり、施工管理を徹底し、地上の土地利用に支障が生じないよう、工事の安全、生活環境の保全に関する取組みを実施した。

なお、取組みの最新の結果は、以下に掲載している。

<工事の安全、生活環境の保全に関する取組みの結果等>

工事の安全、生活環境の保全に関する取組みの結果等は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載を行った。今後、工事の進捗状況に応じて適宜更新を行う。

https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/progress/

（リンク先をスクロールすると、愛知県の資料が確認できます。）

[資料はこちら]



参考資料 6 過年度の記載事項に関する修正について

春日井市における水質のモニタリングの 2020～2024 年度の記載事項及び名古屋市における水資源のモニタリングの 2024 年度の調査結果について誤りがあったため、修正のうえ、本資料に記載する。

6-1 水質

類型指定及び環境基準値等（[下線部](#)）を修正した。表 参 6-1 に示す。

<2020 年度>

表 参 6-1 (1) 調査結果

地点番号		01	02	03	環境基準等 ^{注2}
対象河川		内津川	内津川	内津川	
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	
流量 (m³/s)		0.024	0.169	0.035	—
浮遊物質量 (SS) (mg/L)		2	5	3	<u>C : 50mg/L 以下</u>
水温 (℃)		7.6	13.5	10.8	—
気象の状況		曇	晴	晴	—
土質の状況		砂礫	礫	砂礫	—
水素イオン濃度 (pH)		7.7	7.3	7.2	<u>C : 6.5 以上 8.5 以下</u>
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.28	0.11	0.06	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.08	0.03	0.02	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：浮遊物質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和46年環境庁告示第59号）

注3：「<」は未満を示す。

<2021 年度>

表 参 6-1 (2) 調査結果

地点番号		01	02	03	環境基準等 ^{注2}
対象河川		内津川	内津川	内津川	
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	
流量 (m³/s)		0.058	0.155	0.034	—
浮遊物質 (SS) (mg/L)		1	3	5	<u>C : 50mg/L 以下</u>
水温 (℃)		8.4	14.1	10.8	—
気象の状況		晴	晴	晴	—
土質の状況		砂礫	礫	砂礫	—
水素イオン濃度 (pH)		8.0	7.7	7.6	<u>C : 6.5 以上 8.5 以下</u>
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.69	0.12	0.07	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.09	0.03	0.02	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和46年環境庁告示第59号）

注3：「<」は未満を示す。

表 参 6-1 (3) 調査結果

地点番号		01							環境基準等 ^{注3}
対象河川		内津川							
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>							
調査日 ^{注2}		8/26	9/24	10/21	11/29	1/25	2/21	3/23	—
水温（℃）		27.0	24.5	17.0	11.0	7.1	6.7	9.4	—
水素イオン濃度（pH）		7.8	7.9	8.0	7.9	7.9	7.9	7.8	<u>C：6.5 以上 8.5 以下</u>
自然由来の 重金属等	カドミウム（mg/L）	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
	六価クロム（mg/L）	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/L 以下
	水銀（mg/L）	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	鉛（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素（mg/L）	0.27	0.23	0.45	0.65	0.60	0.57	0.48	0.8mg/L 以下
ほう素（mg/L）		<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	0.10	<0.10	<0.10	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：令和3年4～7月、12月は土砂ピット（遮水型）に仮置きが発生しなかったため、調査を実施していない。

注3：水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和46年環境庁告示第59号）

注4：「<」は未満を示す。

<2022 年度>

表 参 6-1 (4) 調査結果

地点番号		01	02	03	環境基準等 ^{注2}
対象河川		内津川	内津川	内津川	
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	
流量 (m³/s)		0.133	0.146	0.059	—
浮遊物質量 (SS) (mg/L)		<1	4	8	<u>C : 50mg/L 以下</u>
水温 (℃)		7.3	12.1	8.3	—
気象の状況		晴	晴	晴	—
土質の状況		砂礫	礫	砂礫	—
水素イオン濃度 (pH)		8.0	7.7	7.7	<u>C : 6.5 以上 8.5 以下</u>
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.77	0.14	0.23	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.11	0.03	0.02	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：浮遊物質量及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和46年環境庁告示第59号）

注3：「<」は未満を示す。

表 参 6-1 (5) 調査結果

地点番号		01										環境基準等 ^{注3}
対象河川		内津川										
類型指定 ^{注1}		(C)										
調査日 ^{注2}		4/21	5/24	6/21	8/23	9/22	10/21	11/22	12/26	1/25	2/20	—
水温（℃）		16.8	19.8	23.0	25.5	21.0	18.3	15.2	8.0	5.0	10.0	—
水素イオン濃度（pH）		7.9	7.9	8.0	7.6	7.7	7.9	8.0	7.9	8.0	8.0	C:6.5以上 8.5以下
自然由来の重金属等	カドミウム（mg/L）	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L以下
	六価クロム（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.008	0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L以下
	水銀（mg/L）	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	鉛（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素（mg/L）	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	0.006	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ふっ素（mg/L）	0.44	0.69	0.78	0.23	0.34	0.54	0.72	0.48	0.65	0.61	0.8mg/L以下
	ほう素（mg/L）	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	0.11	0.10	<0.10	0.10	0.15	1mg/L以下

注 1 : 類型指定のない河川は、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注 2 : 令和 4 年 7 月、令和 5 年 3 月は土砂ピット（遮水型）に仮置きが発生しなかったため、調査を実施していない。

注 3 : 水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。
(水質汚濁に係る環境基準について:昭和 46 年環境庁告示第 59 号)

注 4 : 「<」は未満を示す。

<2023 年度>

調査結果は、[表 参 6-1 \(6\)](#) に示すとおりである。また、工事施工ヤードの遮水型の土砂ピットに係る公共用水域（河川）の水質の調査結果は、[表 参 6-1 \(7\)](#) に示すとおりである。各地点の調査項目は、[表 参 6-1 \(7\)](#) に示す地点 01 の 12 月の水素イオン濃度（pH）を除き、環境基準等に適合していた。[なお、地点 01 の水素イオン濃度（pH）について、西尾非常口西尾保守基地からの工事排水（トンネル湧水含む）の水素イオン濃度（pH）は 6.8～8.3 で排水基準等に適合していることを確認している。](#)

表 参 6-1 (6) 調査結果

地点番号		01	02	環境基準等 ^{注2}
対象河川		内津川	内津川	
類型指定 ^{注1}		(C)	(C)	
流量（m ³ /s）		0.080	0.165	—
浮遊物質（SS）（mg/L）		<1	3	C：50mg/L 以下
水温（℃）		8.5	12.9	—
気象の状況		曇	曇	—
土質の状況		砂礫	礫	—
水素イオン濃度（pH）		7.9	7.4	C：6.5 以上 8.5 以下
自然由来の重金属等	カドミウム（mg/L）	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム（mg/L）	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀（mg/L）	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン（mg/L）	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛（mg/L）	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素（mg/L）	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素（mg/L）	0.63	0.13	0.8mg/L 以下
	ほう素（mg/L）	0.09	0.03	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注2：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和 46 年環境庁告示第 59 号）

注3：「<」は未満を示す。

表 参 6-1 (7) 調査結果

地点番号		01												環境基準等 ^{注2}
対象河川		内津川												
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>												
調査日		4/19	5/30	6/26	7/27	8/28	9/26	10/26	11/28	12/25	1/29	2/27	3/26	—
水温 (℃)		16.5	20.0	24.0	28.0	28.0	24.0	17.0	12.8	9.2	10.0	10.0	10.5	—
水素イオン濃度 (pH)		7.9	7.9	7.8	7.8	7.8	8.0	8.0	8.0	6.1	8.0	7.8	7.7	<u>C:6.5 以上</u> <u>8.5 以下</u>
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.31	0.24	0.33	0.53	0.43	0.73	0.61	0.50	0.70	0.64	0.30	0.10	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	0.12	0.10	0.10	<0.10	<0.10	1mg/L 以下

注 1 : 類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注 2 : 水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。(水質汚濁に係る環境基準について:昭和 46 年環境庁告示第 59 号)

注 3 : 「<」は未満を示す。

<2024 年度>

表 参 6-1 (8) 調査結果

地点番号		01	02	03	環境基準等 ^{注2}
対象河川		内津川	内津川	内津川	
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	<u>(C)</u>	
流量 (m³/s)		0.050	0.093	0.036	—
浮遊物質 量 (SS) (mg/L)		<1	2	2	<u>C : 50mg/L 以下</u>
水温 (℃)		10.1	13.0	7.9	—
気象の状況		晴	晴	晴	—
土質の状況		砂礫	礫	砂礫	—
水素イオン濃度 (pH)		7.9	7.4	7.4	<u>C : 6.5 以上 8.5 以下</u>
自然由来の 重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.67	0.14	0.16	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.06	0.03	0.02	1mg/L 以下

注1：類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きで記載した。

注2：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。(水質汚濁に係る環境基準について：昭和46年環境庁告示第59号)

注3：「<」は未満を示す。

表 参 6-1 (9) 調査結果

地点番号		01									環境基準等 ^{注3}
対象河川		内津川									
類型指定 ^{注1}		<u>(C)</u>									
調査日 ^{注2}		4/23	5/29	6/25	7/29	8/27	9/25	10/28	11/25	12/23	—
水温 (℃)		16.3	19.0	22.5	28.5	24.0	23.5	20.0	13.0	9.0	—
水素イオン濃度 (pH)		7.7	7.5	7.7	8.0	7.8	8.1	7.8	8.0	8.0	<u>C:6.5以上</u> <u>8.5以下</u>
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003mg/L以下
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下
	セレン (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	0.005	0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下
	ふっ素 (mg/L)	0.3	0.1	0.2	0.3	0.2	0.5	0.2	0.4	0.5	0.8mg/L以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	1mg/L以下

注 1：類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

注 2：2025 年 1 月～3 月は土砂ピット（遮水型）に仮置きが発生しなかったため、調査を実施していない。

注 3：水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。（水質汚濁に係る環境基準について：昭和 46 年環境庁告示第 59 号）

注 4：「<」は未満を示す。

6-2 水資源

地点 10 のふっ素及びびほう素の調査結果（[下線部](#)）を修正した。表 参 6-2 に示す。

<2024 年度>

表 参 6-2 調査結果（自然由来の重金属等及び水素イオン濃度 (pH)）

調査項目		調査地点												基準値 ^{注1}
		03		06		07		08		09		10		
		浅層	深層	浅層	深層	浅層	深層	浅層	深層	浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003			<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005			<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.001	<0.001			<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.001	<0.001			<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.005	0.001	<0.001			<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	0.35	0.44	<0.05	2.3	0.21	0.08	0.29	<0.08			0.15	0.14	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	0.06	<0.05	<0.02	<0.02	0.03	<0.02	<0.1	<0.1			0.13	0.03	1mg/L 以下
水素イオン 濃度 (pH)		6.6	8.2	6.3	6.7	6.7	6.7	6.5	6.8	6.2	6.5	6.7	7.0	—

注1：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

注2：「<」は未満を示す。

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の50万分1 地方図及び数値地図50000（地図画像）を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。